

IBM® WebSphere® Commerce
for Windows NT and Windows 2000



インストール・ガイド

(Oracle データベースを使用)

バージョン 5.4

IBM® WebSphere® Commerce
for Windows NT and Windows 2000



インストール・ガイド

(Oracle データベースを使用)

バージョン 5.4

ご注意!

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、193 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書の内容は、新版で特に指定のない限り、IBM® WebSphere Commerce Business Edition for Windows NT® and Windows® 2000 バージョン 5.4 以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。製品のレベルにあった版を使用していることをご確認ください。

本書の内容は、新版で特に指定のない限り、IBM WebSphere Commerce Professional Edition for Windows NT and Windows 2000 バージョン 5.4 以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。製品のレベルにあった版を使用していることをご確認ください。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは <http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

原典： IBM WebSphere Commerce
for Windows NT and Windows 2000
Installation Guide
for use with an Oracle Database
Version 5.4

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2002.6

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1996, 2002. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2002

目次

WebSphere Commerce へようこそ	vii
本書の表記規則	viii
デフォルトのインストール・パス	viii
WebSphere Commerce に付属する製品	ix
代替の Web サーバー	ix
代替のデータベース	ix
代替の Lightweight Directory Access Protocol ソフトウェア	x
サポートされている Web ブラウザー	x
サポートされている構成	x
WebSphere Commerce で使用されるポート番号	xx
ユーザー ID、パスワード、および Web アドレスの早見表	xxi

第 1 部 WebSphere Commerce 5.4 のインストール 1

第 1 章 インストール前の要件	3
知識に関する要件	3
Oracle の知識	3
前提条件となるハードウェア	4
前提条件となるソフトウェア	6
すでにインストール済みのコンポーネント	6
テスト用の SSL (Secure Sockets Layer) プロトコルの準備	6
その他のタスク	7
その他の要件	8
第 2 章 Oracle データベースのインストール 11	11
Oracle8i Database のインストールおよび構成	11
Oracle8i Database インストールのテスト	18
別のマシンへの Oracle8i Database のインストール	18
次のステップ	18
第 3 章 Web サーバーのインストール	19
WebSphere Commerce 用の Microsoft IIS のインストール	19
iPlanet Web サーバーのインストールおよび構成	20

Domino Web サーバーのインストールおよび構成	21
---------------------------------------	----

第 4 章 WebSphere Commerce のインストール	25
インストール手順	26
カスタム・インストール	27
単一層インストール	29
2 層インストール	32
3 層インストール	33
3 層インストール - WebSphere Commerce サーバー	35
3 層インストール - Web サーバー	38
インストールの検証とトラブルシューティング	39
1 層および 2 層環境でのインストールの検証とトラブルシューティング	39
3 層環境でのインストールの検証とトラブルシューティング	40

第 5 章 IBM WebSphere Payment Manager 3.1.2 のインストール	43
インストールの前提条件	43
ハードウェア要件	43
ソフトウェア要件	44
標準インストール	45
データベースおよび WebSphere Application Server のインストール	45
Payment Manager のインストール前に	46
Payment Manager のインストール	47
Windows のショートカット	49
インストール後のステップ	49
Lotus Domino Server の構成	50
リモート Payment Manager の場合の構成	51

第 2 部 WebSphere Commerce の構成作業 53

第 6 章 構成前のステップ	55
PATH の変更	55
リモート・マシンでの Oracle の構成	55

リモート Oracle インストールの確認.	56
Microsoft IIS の構成	57
iPlanet Web サーバー・プラグイン・レベルのアップグレード.	59
WebSphere Application Server の開始.	59
次のステップ.	61

第 7 章 構成マネージャーによるインスタ

スの作成または変更	63
この章のチェックリスト.	63
構成マネージャーの起動.	64
インスタンス作成ウィザード	65
インスタンス.	65
データベース.	66
言語.	67
Web サーバー	67
WebSphere.	68
Payment Manager	69
ログ・システム.	70
メッセージング.	71
オークション.	72
インスタンス作成の開始.	72
インスタンス作成の検証.	72
インスタンスの開始と停止	73
構成の追加オプション.	73
インスタンス・プロパティ	73
コンポーネント.	87
保護パラメーター	87
レジストリー.	87
オークション.	88
外部サーバー・リスト.	88
Commerce アクセラレーター	88
ログ・システム.	89
キャッシング・サブシステム	89
ストア・サービス構成.	89
トランスポート.	90
ライセンス・ユーザー管理	91
次のステップ.	91

第 8 章 構成後のステップ 93

1 層および 2 層の構成後のステップ.	93
Microsoft IIS の構成の完了.	93
iPlanet Web サーバーのインストールの完了.	96
Payment Manager を WebSphere Commerce とともに作動するように構成する.	96

JavaServer Pages ファイルのコンパイル	100
セキュリティ・チェッカーの実行.	100
次のステップ	101
3 層の構成後のステップ	102
3 層環境での IBM HTTP Server の構成	102
Microsoft IIS の構成の完了.	106
iPlanet Web サーバーのインストールの完了.	109
Web サーバーへの資産のコピー	111
Payment Manager を WebSphere Commerce とともに作動するように構成する	114
JavaServer Pages ファイルのコンパイル	118
セキュリティ・チェッカーの実行.	118
次のステップ	119

第 3 部 拡張構成. 121

第 9 章 複数の WebSphere Commerce

インスタンスの作成.	123
仮想ホスト名を使用する複数インスタンス	123
前提条件.	124
複数インスタンスの作成	125
インスタンスの開始.	125

第 10 章 複製 129

水平複製.	129
垂直複製.	132

第 4 部 追加の構成オプション 135

第 11 章 サンプル・ストア・アーカイブか

らストアを作成する.	137
ストア・アーカイブの作成.	138
ストア・アーカイブの発行.	139
ストア・サービスからストア・アーカイブを発行する.	140
ストアでのテスト・オーダーの発行.	142

第 12 章 IBM HTTP Server での実行のため

の SSL の使用可能化	143
セキュリティについて	143
実動用のセキュリティ鍵ファイルの作成	144
認証局に対するセキュアな証明書の要求	144
Equifax ユーザー	145
VeriSign ユーザー.	145

実動鍵ファイルの受け取りおよび現行鍵ファイルとしての設定	145
実動鍵ファイルのテスト	146

第 13 章 WebSphere Application Server のセキュリティの使用可能化	147
始める前に	147
LDAP ユーザー・レジストリーを使用したセキュリティの使用可能化	147
オペレーティング・システム・ユーザー・レジストリーを使用したセキュリティの使用可能化	152
WebSphere Commerce EJB セキュリティの使用禁止	153
WebSphere Commerce セキュリティー・デプロイメント・オプション	154

第 14 章 単一サインオン	157
前提条件	157
単一サインオンの使用可能化	157

第 5 部 付録 159

付録 A. コンポーネントの開始および停止 161	
「Windows サービス」パネルをオープンする	161
WebSphere Commerce サーバーの開始および停止	161
WebSphere Application Server の開始および停止	162
IBM HTTP Server の開始および停止	162
WebSphere Commerce 構成マネージャーの開始および停止	162
IBM HTTP Administrator の開始および停止	163
Payment Manager の開始および停止	163
パスワードを入力して Payment Manager を開始する	164
Payment Manager を不在操作モードで開始する	164
Payment Manager ユーザー・インターフェースの開始	165
Payment Manager の停止	166
付録 B. 管理用タスク 169	
構成マネージャー・パスワードの変更	169
WebSphere Commerce インスタンスの更新	170
WebSphere Commerce インスタンスの削除	170

コマンド行でのその他の構成作業	171
WebSphere Application Server 管理コンソールのオープン	171
WebSphere Application Server のポート・ホスト別名の追加	172
IBM HTTP Server ホーム・ページへの接続	172
IBM HTTP Server 管理者パスワードの設定	173
SSL 鍵ファイル・パスワードの変更	173
WebSphere Commerce データベースの変更	174
WebSphere Commerce 暗号化パスワードの生成	174
Payment Manager 暗号化パスワードの生成	175
WebSphere Application Server セキュリティーを使用不可にする	175

付録 C. WebSphere Commerce コンポーネントのアンインストール 177	
WebSphere Commerce コンポーネントのアンインストール	177
アンインストール後のステップ	178
Payment Manager のアンインストール	179
WebSphere Commerce とそのコンポーネントの再インストール	179

付録 D. トラブルシューティング 181	
ダウンロード可能なツール	181
WebSphere Commerce Installation and Configuration Checker	181
ログ・ファイル	181
トラブルシューティング	182
WebSphere Application Server の問題	182
Web サーバーの問題	183
WebSphere Commerce の問題	184

付録 E. 詳細情報の参照先 185	
WebSphere Commerce の情報	185
オンライン・ヘルプの使用	185
印刷可能なドキュメンテーションの入手方法	185
WebSphere Commerce Web サイトの閲覧	186
IBM HTTP Server の情報	186
Payment Manager の情報	186
WebSphere Application Server	187
その他の IBM 出版物	187

付録 F. プログラム仕様と所定稼働環境 . . . 189	
---------------------------------------	--

特記事項 193
商標 195

索引 197

WebSphere Commerce へようこそ

本書は、Oracle データベースと併用する WebSphere Commerce 5.4 for Windows NT または Windows 2000 のインストールと構成の方法について説明しています。対象となる読者は、システム管理者など、インストール作業と構成作業を実行する人です。

WebSphere Commerce Suite バージョン 5.1 がすでにインストールされている場合、*WebSphere Commerce* *マイグレーション・ガイド* に説明されているマイグレーションのステップに従ってください。この資料は、WebSphere Commerce Web ページの『Technical Libraries』セクションで入手できます。

最終的な製品に対する変更について調べたい場合は、WebSphere Commerce Disk 1 CD のルート・ディレクトリーにある README ファイルを参照してください。さらに、このマニュアルのコピーおよび更新版は、以下の WebSphere Commerce Web サイトの Library → Technical Library セクションから PDF ファイルの形式で入手できます。

- Business Edition:

http://www.ibm.com/software/webservers/commerce/wc_be/lit-tech-general.html

- Professional Edition:

http://www.ibm.com/software/webservers/commerce/wc_pe/lit-tech-general.html

本書の表記規則

本書では以下の強調表示規則を使用します。

- **太文字**は、コマンドまたは、フィールド名、アイコン、メニュー選択などのグラフィカル・ユーザー・インターフェース (GUI) コントロールを示します。
- **モノスペース (monospace)** は、示されているとおりに入力するテキスト例、ファイル名、ディレクトリー・パスおよび名前を示します。
- **イタリック** は、語を強調するために使用します。イタリックは、ご使用のシステムの該当する値に置換しなければならない名前も示します。以下の名前が出てきたら、説明どおりに、ご使用のシステムの値に置換してください。

host_name

WebSphere Commerce Web サーバーの完全修飾ホスト名 (たとえば、`server1.torolab.ibm.com` という完全修飾名)。

instance_name

作業対象の WebSphere Commerce インスタンスの名前。

drive

当該製品またはコンポーネントがインストールされているドライブを表す文字。 (たとえば、C:)



このアイコンは、ヒント (作業を完了するために役立つ追加情報) を表すマークです。

重要

このセクションは、特に重要な情報を強調しています。

警告

このセクションは、データの保護を目的とした情報に重点を置いています。

デフォルトのインストール・パス

このマニュアルでインストール・パスについて述べられている場合、デフォルトのパス名として次のものを使用します。

drive:¥WebSphere¥CommerceServer

WebSphere Commerce のインストール・パス

drive:¥WebSphere¥HTTPServer

IBM HTTP Server 1.3.19.1 のインストール・パス

drive:¥WebSphere¥AppServer

WebSphere Application Server 4.0.2 のインストール・パス

drive:¥Program Files¥IBM¥PaymentManager

IBM WebSphere Payment Manager 3.1.2 のインストール・パス

注: デフォルト・ドライブに十分な余裕がない場合、WebSphere Commerce インストール・プログラムは、十分なスペースがある、次に使用可能なドライブに製品をインストールするように設計されています。

注意:

インストール中には、必須製品のデフォルト・パスを指定変更しないように、強くお勧めします。**WebSphere Commerce** インストール・プログラムは、特定の場所にある製品を検索するように設計されているため、それらの製品を別のディレクトリーに移動させると、エラーの原因となる可能性があります。

WebSphere Commerce に付属する製品

WebSphere Commerce には以下の製品がパッケージされています。

- WebSphere Commerce コンポーネント
 - WebSphere Commerce Server
 - WebSphere Commerce Accelerator
 - WebSphere Catalog Manager
 - WebSphere Commerce 管理コンソール
 - 商品アドバイザー
 - Blaze Rules Server および Blaze Innovator Runtime
 - Macromedia LikeMinds クライアント
- IBM DB2 ユニバーサル・データベース 7.1.0.55
- IBM DB2 エクステンダー 7.1
- IBM HTTP Server 1.3.19.1
- WebSphere Application Server 4.0.2
- IBM WebSphere Payment Manager 3.1.2。これには、以下のものが含まれます。
 - Payment Manager SET Cassette 3.1.2
 - Payment Manager Cassette for CyberCash 3.1.2
 - Payment Manager Cassette for VisaNet 3.1.2
 - Payment Manager Cassette for BankServACH 3.1.2
- IBM WebSphere Commerce Analyzer 5.4
- Brio Broadcast Server 6.2
- IBM SecureWay Directory Server 3.2.1
- Segue SilkPreview 1.0™
- WebSphere Commerce 5.4 Recommendation Engine powered by LikeMinds 5.2.1™
- QuickPlace 2.9.8
- Sametime 2.5

代替の Web サーバー

WebSphere Commerce とともに提供されている Web サーバーは IBM HTTP Server ですが、Windows 2000 の Microsoft IIS 5.0、Windows NT、iPlanet Web サーバー Enterprise Edition 4.1.8 on Windows NT の Microsoft IIS 4.0、Lotus Domino Web サーバー 5.0.5、5.0.6、5.0.8 もサポートされています。



代替のデータベース

WebSphere Commerce とともに提供されているデータベースは IBM DB2 ユニバーサル・データベース 7.1.0.55 エンタープライズ・エディションですが、Oracle Database

8.1.7 Enterprise Edition または Standard Edition (Oracle 8i リリース 3 とも言います) も使用できます。Oracle Database 8.1.7 Enterprise Edition または Standard Edition ではなく DB2 ユニバーサル・データベースを使用する場合、*IBM WebSphere Commerce インストール・ガイド (DB2 ユニバーサル・データベースを使用)* を参照する必要があります。

代替の Lightweight Directory Access Protocol ソフトウェア

WebSphere Commerce 5.4 とともに以下のタイプの Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) ディレクトリー・サーバーを使用することができます。

- IBM SecureWay® Directory
-  Netscape Directory Server
-  Microsoft Active Directory

サポートされている Web ブラウザー

WebSphere Commerce のツールとオンライン・ヘルプにアクセスするには、WebSphere Commerce のマシンと同じネットワーク上にある Windows オペレーティング・システムを実行しているマシンで、Microsoft® Internet Explorer 5.5 を使用する必要があります (その他の方法でアクセスすることはできません)。Internet Explorer は、5.50.4522.1800 のフル・バージョンのもの (Internet Explorer 5.5 Service Pack 1 およびインターネット・ツール) あるいはそれ以降のもので、Microsoft 社による最新の重要なセキュリティ上の更新がなされているものを使用する必要があります。それより前のバージョンでは、WebSphere Commerce のツールが完全にはサポートされていません。

ショップパーは、以下のいずれかの Web ブラウザーを使用して Web サイトにアクセスできます。これらは、すべて WebSphere Commerce でテスト済みです。

- Netscape Communicator 4.6 以上でサポートされている Netscape Navigator のすべてのバージョン (Netscape Navigator 4.04 および 4.5 を含む)
- Macintosh 用の Netscape Navigator 3.0 および 4.0、またはそれ以降
- Microsoft Internet Explorer 4 および 5 またはそれ以上
- AOL 5 および 6 またはそれ以上

サポートされている構成

WebSphere Commerce とそのコンポーネント、および WebSphere Commerce でサポートされている代替ソフトウェアは、様々な構成でインストールできます。サポートされていて、本書で説明されている構成には、次のものがあります。

単一層インストール

この構成では、WebSphere Commerce の全コンポーネントが 1 つのマシンにインストールされます。この構成をインストールするには、Web サーバーごとに概説されているステップを実行する必要があります。

IBM HTTP Server

1. データベースをインストールする (11 ページの『第 2 章 Oracle データベースのインストール』で説明)。
2. IBM HTTP Server、WebSphere Application Server、および WebSphere Commerce をインストールする (25 ページの『第 4 章 WebSphere Commerce のインストール』で説明)。
3. Payment Manager をインストールする (43 ページの『第 5 章 IBM WebSphere Payment Manager 3.1.2 のインストール』で説明)。
4. 以下のタスクを実行する (55 ページの『第 6 章 構成前のステップ』で説明)。
 - WebSphere Application Server の開始
5. WebSphere Commerce インスタンスを作成する (63 ページの『第 7 章 構成マネージャーによるインスタンスの作成または変更』で説明)。
6. 以下のタスクを実行する (93 ページの『第 8 章 構成後のステップ』で説明)。ul>- Payment Manager を WebSphere Commerce と共に作動するように構成する。
- Payment Manager 設定を構成する。
- JavaServer Pages™ ファイルをコンパイルする。
- セキュリティー・チェッカー・ツールを実行する。
7. 次のようなオプション・タスクをすべて完了する。
 - サンプル・ストア・アーカイブからストアを作成する。
 - IBM HTTP Server を使った実動のために SSL を使用可能にする。

iPlanet Web サーバー

1. データベースをインストールする (11 ページの『第 2 章 Oracle データベースのインストール』で説明)。
2. iPlanet Web サーバーをインストールする (20 ページの『iPlanet Web サーバーのインストールおよび構成』で説明)。
3. WebSphere Application Server、および WebSphere Commerce をインストールする (25 ページの『第 4 章 WebSphere Commerce のインストール』で説明)。

4. Payment Manager をインストールする (43 ページの『第 5 章 IBM WebSphere Payment Manager 3.1.2 のインストール』で説明)。
5. 以下のタスクを実行する (55 ページの『第 6 章 構成前のステップ』で説明)。
 - iPlanet Web サーバーのプラグイン・レベルをアップグレードする。
 - WebSphere Application Server を開始する。
6. WebSphere Commerce インスタンスを作成する (63 ページの『第 7 章 構成マネージャーによるインスタンスの作成または変更』で説明)。
7. 以下のタスクを実行する (93 ページの『第 8 章 構成後のステップ』で説明)。
 - iPlanet Web サーバーのインストールを完了する。
 - Payment Manager を WebSphere Commerce と共に作動するように構成する。
 - Payment Manager 設定を構成する。
 - JavaServer Pages ファイルをコンパイルする。
 - セキュリティー・チェッカー・ツールを実行する。
8. 次のようなオプション・タスクをすべて完了する。
 - サンプル・ストア・アーカイブからストアを作成する。

Domino Web サーバー

1. データベースをインストールする (11 ページの『第 2 章 Oracle データベースのインストール』で説明)。
2. Domino Web サーバーをインストールする (21 ページの『Domino Web サーバーのインストールおよび構成』で説明)。
3. WebSphere Application Server、および WebSphere Commerce をインストールする (25 ページの『第 4 章 WebSphere Commerce のインストール』で説明)。
4. Payment Manager をインストールする (43 ページの『第 5 章 IBM WebSphere Payment Manager 3.1.2 のインストール』で説明)。
5. 以下のタスクを実行する (55 ページの『第 6 章 構成前のステップ』で説明)。
 - WebSphere Application Server を開始する。
6. WebSphere Commerce インスタンスを作成する (63 ページの『第 7 章 構成マネージャーによるインスタンスの作成または変更』で説明)。

7. 以下のタスクを実行する (93 ページの『第 8 章 構成後のステップ』で説明)。
 - Payment Manager を WebSphere Commerce と共に作動するように構成する。
 - Payment Manager 設定を構成する。
 - JavaServer Pages ファイルをコンパイルする。
 - セキュリティー・チェッカー・ツールを実行する。
8. 次のようなオプション・タスクをすべて完了する。
 - サンプル・ストア・アーカイブからストアを作成する。

Microsoft IIS

1. データベースをインストールする (11 ページの『第 2 章 Oracle データベースのインストール』で説明)。
2. Microsoft IIS をインストールする (19 ページの『WebSphere Commerce 用の Microsoft IIS のインストール』で説明)。
3. WebSphere Application Server、および WebSphere Commerce をインストールする (25 ページの『第 4 章 WebSphere Commerce のインストール』で説明)。
4. Payment Manager をインストールする (43 ページの『第 5 章 IBM WebSphere Payment Manager 3.1.2 のインストール』で説明)。
5. 以下のタスクを実行する (55 ページの『第 6 章 構成前のステップ』で説明)。
 - Microsoft IIS を構成する。
 - WebSphere Application Server を開始する。
6. WebSphere Commerce インスタンスを作成する (63 ページの『第 7 章 構成マネージャーによるインスタンスの作成または変更』で説明)。
7. 以下のタスクを実行する (93 ページの『第 8 章 構成後のステップ』で説明)。
 - Microsoft IIS の構成を完了する。
 - Payment Manager を WebSphere Commerce と共に作動するように構成する。
 - Payment Manager 設定を構成する。
 - JavaServer Pages ファイルをコンパイルする。
 - セキュリティー・チェッカー・ツールを実行する。
8. 次のようなオプション・タスクをすべて完了する。
 - サンプル・ストア・アーカイブからストアを作成する。

2 層インストール

この構成では、データベース・サーバーと他の WebSphere Commerce コンポーネントが別々のマシンにインストールされます。

IBM HTTP Server

1. データベースをインストールする (11 ページの『第 2 章 Oracle データベースのインストール』で説明)。
2. IBM HTTP Server、WebSphere Application Server、および WebSphere Commerce をインストールする (25 ページの『第 4 章 WebSphere Commerce のインストール』で説明)。
3. Payment Manager をインストールする (43 ページの『第 5 章 IBM WebSphere Payment Manager 3.1.2 のインストール』で説明)。
4. 以下のタスクを実行する (55 ページの『第 6 章 構成前のステップ』で説明)。
 - リモート・マシン上で Oracle を構成する。
 - WebSphere Application Server を開始する。
5. WebSphere Commerce インスタンスを作成する (63 ページの『第 7 章 構成マネージャーによるインスタンスの作成または変更』で説明)。
6. 以下のタスクを実行する (93 ページの『第 8 章 構成後のステップ』で説明)。
 - Payment Manager を WebSphere Commerce と共に作動するように構成する。
 - Payment Manager 設定を構成する。
 - JavaServer Pages ファイルをコンパイルする。
 - セキュリティー・チェッカー・ツールを実行する。
7. 次のようなオプション・タスクをすべて完了する。
 - サンプル・ストア・アーカイブからストアを作成する。
 - IBM HTTP Server を使った実動のために SSL を使用可能にする。

iPlanet Web サーバー

1. データベースをインストールする (11 ページの『第 2 章 Oracle データベースのインストール』で説明)。
2. iPlanet Web サーバーをインストールする (20 ページの『iPlanet Web サーバーのインストールおよび構成』で説明)。
3. WebSphere Application Server および WebSphere Commerce をインストールする (25 ページの『第 4 章 WebSphere Commerce のインストール』で説明)。

4. Payment Manager をインストールする (43 ページの『第 5 章 IBM WebSphere Payment Manager 3.1.2 のインストール』で説明)。
5. 以下のタスクを実行する (55 ページの『第 6 章 構成前のステップ』で説明)。
 - リモート・マシン上で Oracle を構成する。
 - iPlanet Web サーバーのプラグイン・レベルをアップグレードする。
 - WebSphere Application Server を開始する。
6. WebSphere Commerce インスタンスを作成する (63 ページの『第 7 章 構成マネージャーによるインスタンスの作成または変更』で説明)。
7. 以下のタスクを実行する (93 ページの『第 8 章 構成後のステップ』で説明)。
 - iPlanet Web サーバーのインストールを完了する。
 - Payment Manager を WebSphere Commerce と共に作動するように構成する。
 - Payment Manager 設定を構成する。
 - JavaServer Pages ファイルをコンパイルする。
 - セキュリティー・チェッカー・ツールを実行する。
8. 次のようなオプション・タスクをすべて完了する。
 - サンプル・ストア・アーカイブからストアを作成する。

Domino Web サーバー

1. データベースをインストールする (11 ページの『第 2 章 Oracle データベースのインストール』で説明)。
2. Domino Web サーバーをインストールする (21 ページの『Domino Web サーバーのインストールおよび構成』で説明)。
3. WebSphere Application Server および WebSphere Commerce をインストールする (25 ページの『第 4 章 WebSphere Commerce のインストール』で説明)。
4. Payment Manager をインストールする (43 ページの『第 5 章 IBM WebSphere Payment Manager 3.1.2 のインストール』で説明)。
5. 以下のタスクを実行する (55 ページの『第 6 章 構成前のステップ』で説明)。
 - リモート・マシン上で Oracle を構成する。
 - WebSphere Application Server を開始する。

6. WebSphere Commerce インスタンスを作成する (63 ページの『第 7 章 構成マネージャーによるインスタンスの作成または変更』で説明)。
7. 以下のタスクを実行する (93 ページの『第 8 章 構成後のステップ』で説明)。
 - Payment Manager を WebSphere Commerce と共に作動するように構成する。
 - Payment Manager 設定を構成する。
 - JavaServer Pages ファイルをコンパイルする。
 - セキュリティー・チェッカー・ツールを実行する。
8. 次のようなオプション・タスクをすべて完了する。
 - サンプル・ストア・アーカイブからストアを作成する。

Microsoft IIS

1. データベースをインストールする (11 ページの『第 2 章 Oracle データベースのインストール』で説明)。
2. Microsoft IIS をインストールする (19 ページの『WebSphere Commerce 用の Microsoft IIS のインストール』で説明)。
3. WebSphere Application Server および WebSphere Commerce をインストールする (25 ページの『第 4 章 WebSphere Commerce のインストール』で説明)。
4. Payment Manager をインストールする (43 ページの『第 5 章 IBM WebSphere Payment Manager 3.1.2 のインストール』で説明)。
5. 以下のタスクを実行する (55 ページの『第 6 章 構成前のステップ』で説明)。
 - リモート・マシン上で Oracle を構成する。
 - Microsoft IIS を構成する。
 - WebSphere Application Server を開始する。
6. WebSphere Commerce インスタンスを作成する (63 ページの『第 7 章 構成マネージャーによるインスタンスの作成または変更』で説明)。
7. 以下のタスクを実行する (93 ページの『第 8 章 構成後のステップ』で説明)。
 - Microsoft IIS の構成を完了する。
 - Payment Manager を WebSphere Commerce と共に作動するように構成する。
 - Payment Manager 設定を構成する。

- JavaServer Pages ファイルをコンパイルする。
 - セキュリティー・チェッカー・ツールを実行する。
8. 次のようなオプション・タスクをすべて完了する。
- サンプル・ストア・アーカイブからストアを作成する。

3 層インストール

この構成では、データベース・サーバーと Web サーバーが、それぞれ WebSphere Commerce サーバーや WebSphere Application Server とは別個のマシンにインストールされます。

IBM HTTP Server

1. データベースをインストールする（11 ページの『第 2 章 Oracle データベースのインストール』で説明）。
2. IBM HTTP Server、WebSphere Application Server、および WebSphere Commerce をインストールする（25 ページの『第 4 章 WebSphere Commerce のインストール』で説明）。
3. Payment Manager をインストールする（43 ページの『第 5 章 IBM WebSphere Payment Manager 3.1.2 のインストール』で説明）。
4. 以下のタスクを実行する（55 ページの『第 6 章 構成前のステップ』で説明）。
 - リモート・マシン上で Oracle を構成する。
 - WebSphere Application Server を開始する。
5. WebSphere Commerce インスタンスを作成する（63 ページの『第 7 章 構成マネージャーによるインスタンスの作成または変更』で説明）。
6. 以下のタスクを実行する（93 ページの『第 8 章 構成後のステップ』で説明）。
 - 3 層環境において IBM HTTP Server を構成する。
 - Web サーバーに資産をコピーする。
 - Payment Manager を WebSphere Commerce と共に作動するように構成する。
 - Payment Manager 設定を構成する。
 - JavaServer Pages ファイルをコンパイルする。
 - セキュリティー・チェッカー・ツールを実行する。
7. 次のようなオプション・タスクをすべて完了する。
 - サンプル・ストア・アーカイブからストアを作成する。
 - IBM HTTP Server を使った実動のために SSL を使用可能にする。

iPlanet Web サーバー

1. データベースをインストールする (11 ページの『第 2 章 Oracle データベースのインストール』で説明)。
2. iPlanet Web サーバーをインストールする (20 ページの『iPlanet Web サーバーのインストールおよび構成』で説明)。
3. WebSphere Application Server および WebSphere Commerce をインストールする (25 ページの『第 4 章 WebSphere Commerce のインストール』で説明)。
4. Payment Manager をインストールする (43 ページの『第 5 章 IBM WebSphere Payment Manager 3.1.2 のインストール』で説明)。
5. 以下のタスクを実行する (55 ページの『第 6 章 構成前のステップ』で説明)。
 - リモート・マシン上で Oracle を構成する。
 - iPlanet Web サーバーのプラグイン・レベルをアップグレードする。
 - WebSphere Application Server を開始する。
6. WebSphere Commerce インスタンスを作成する (63 ページの『第 7 章 構成マネージャーによるインスタンスの作成または変更』で説明)。
7. 以下のタスクを実行する (93 ページの『第 8 章 構成後のステップ』で説明)。ul>- iPlanet Web サーバーのインストールを完了する。
- Web サーバーに資産をコピーする。
- Payment Manager を WebSphere Commerce と共に作動するように構成する。
- Payment Manager 設定を構成する。
- JavaServer Pages ファイルをコンパイルする。
- セキュリティー・チェッカー・ツールを実行する。
8. 次のようなオプション・タスクをすべて完了する。
 - サンプル・ストア・アーカイブからストアを作成する。

Domino Web サーバー

1. データベースをインストールする (11 ページの『第 2 章 Oracle データベースのインストール』で説明)。
2. Domino Web サーバーをインストールする (21 ページの『Domino Web サーバーのインストールおよび構成』で説明)。

3. WebSphere Application Server および WebSphere Commerce をインストールする (25 ページの『第 4 章 WebSphere Commerce のインストール』で説明)。
4. Payment Manager をインストールする (43 ページの『第 5 章 IBM WebSphere Payment Manager 3.1.2 のインストール』で説明)。
5. 以下のタスクを実行する (55 ページの『第 6 章 構成前のステップ』で説明)。
 - WebSphere Application Server を開始する。
6. WebSphere Commerce インスタンスを作成する (63 ページの『第 7 章 構成マネージャーによるインスタンスの作成または変更』で説明)。
7. 以下のタスクを実行する (93 ページの『第 8 章 構成後のステップ』で説明)。
 - Web サーバーに資産をコピーする。
 - Payment Manager を WebSphere Commerce と共に作動するように構成する。
 - Payment Manager 設定を構成する。
 - JavaServer Pages ファイルをコンパイルする。
 - セキュリティー・チェッカー・ツールを実行する。
8. 次のようなオプション・タスクをすべて完了する。
 - サンプル・ストア・アーカイブからストアを作成する。

Microsoft IIS

1. データベースをインストールする (11 ページの『第 2 章 Oracle データベースのインストール』で説明)。
2. Microsoft IIS をインストールする (19 ページの『WebSphere Commerce 用の Microsoft IIS のインストール』で説明)。
3. WebSphere Application Server および WebSphere Commerce をインストールする (25 ページの『第 4 章 WebSphere Commerce のインストール』で説明)。
4. Payment Manager をインストールする (43 ページの『第 5 章 IBM WebSphere Payment Manager 3.1.2 のインストール』で説明)。
5. 以下のタスクを実行する (55 ページの『第 6 章 構成前のステップ』で説明)。
 - Microsoft IIS を構成する。
 - WebSphere Application Server を開始する。

6. WebSphere Commerce インスタンスを作成する (63 ページの『第 7 章 構成マネージャーによるインスタンスの作成または変更』で説明)。
7. 93 ページの『第 8 章 構成後のステップ』の 3 層の項に説明されている以下のタスクを完了する。
 - Microsoft IIS の構成を完了する。
 - Web サーバーに資産をコピーする。
 - Payment Manager を WebSphere Commerce と共に作動するように構成する。
 - Payment Manager 設定を構成する。
 - JavaServer Pages ファイルをコンパイルする。
 - セキュリティー・チェッカー・ツールを実行する。
8. 次のようなオプション・タスクをすべて完了する。
 - サンプル・ストア・アーカイブからストアを作成する。

WebSphere Commerce で使用されるポート番号

以下に、WebSphere Commerce またはそのコンポーネント製品によって使用されるデフォルトのポート番号のリストを示します。 WebSphere Commerce 以外のアプリケーションでは、これらのポートを使用しないようにしてください。システムにファイアウォールが構成されている場合には、これらのポートがアクセス可能になっていることを確認してください。

ポート番号	使用するソフトウェア
80	IBM HTTP Server 非セキュア Web サーバー
389	Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) Directory Server
443	IBM HTTP Server セキュア Web サーバー
900	WebSphere Application Server ブートストラップ
1099	WebSphere Commerce 構成マネージャー
1521	Oracle Listener (デフォルト)
8000	WebSphere Commerce Tools
8080	WebSphere Test Environment for VisualAge [®] for Java [™]
8620	Payment Manager Cassette for SET [™]
8888	iPlanet Web サーバー Administration
9000	WebSphere Application Server Location Server
16999	WebSphere Commerce Cache Daemon (デフォルト)

ユーザー ID、パスワード、および Web アドレスの早見表

WebSphere Commerce 環境での管理には、さまざまなユーザー ID が必要です。それらのユーザー ID と、それに必要な権限のリストを、次の表に示します。 WebSphere Commerce のユーザー ID に対して、デフォルトのパスワードが識別されます。

Windows ユーザー ID

Windows ユーザー ID には、管理者権限が必要です。

重要

使用している Windows ユーザー ID に管理者権限がない場合、ユーザー ID の長さが 8 文字を超える場合、またはローカル・マシン上でユーザー ID が定義されていない場合には、その問題についての通知が出され、インストールを続行することはできません。



上述の基準を満たすユーザー ID を作成する必要がある場合、Windows オンライン・ヘルプで Windows ユーザー ID の作成に関する情報を見つけることができます。

構成マネージャーのユーザー ID

構成マネージャー・ツールのグラフィカル・インターフェースを使用すれば、WebSphere Commerce の構成方法を変更できます。構成マネージャーのデフォルト・ユーザー ID およびパスワードは、webadmin および webibm です。構成マネージャーには、WebSphere Commerce マシンから、または WebSphere Commerce と同じネットワーク上の任意のマシンからアクセスできます。

IBM HTTP Server のユーザー ID

IBM HTTP Server を使用する場合、Web サーバーのホーム・ページには、Web ブラウザーをオープンし、以下の Web アドレスを入力することによってアクセスできます。

`http://host_name`

Web サーバーをカスタマイズした場合、ホスト名の後に Web サーバーのフロントページの名前を入力する必要があります。

WebSphere Commerce インスタンス管理者

インスタンス管理者のユーザー ID とパスワードは、以下の WebSphere Commerce ツールに適用されます。

- WebSphere Commerce Accelerator. Windows オペレーティング・システムが実行されているリモート・マシンから WebSphere Commerce Accelerator にアクセスするには、Internet Explorer Web ブラウザーを開いてから、以下の Web アドレスを入力します。


`https://host_name:8000/accelerator`

- WebSphere Commerce 管理コンソール. Windows オペレーティング・システムが実行されているリモート・マシンから WebSphere Commerce 管理コンソールにアクセスするには、Internet Explorer Web ブラウザーを開いてから、以下の Web アドレスを入力します。

`https://host_name:8000/adminconsole`

- ストア・サービス. ストア・サービスのページには、Web ブラウザーをオープンし、以下の Web アドレスを入力することによってアクセスできます。

`https://host_name:8000/storeservices`

-  組織管理コンソール. 組織管理コンソールには、Web ブラウザーをオープンし、以下の Web アドレスを入力することによってアクセスできます。

`https://host_name/orgadminconsole`

インスタンス管理者のデフォルト・ユーザー ID は `wcsadmin`、デフォルト・パスワードは `wcsadmin` です。

注: `wcsadmin` ユーザー ID は、決して削除しないでください。また、それには常にインスタンス管理者の権限が付与されていなければなりません。

WebSphere Commerce では、ユーザー ID とパスワードが次の規則になっていることが必要です。

- パスワードの長さは最低 8 文字。
- パスワードには、少なくとも 1 つの数字が含まれなければなりません。
- パスワードには、同じ文字が 4 回を超えて出現してはなりません。
- パスワードには、同じ文字を 3 回を超えて繰り返すことはできません。

Payment Manager 管理者

Payment Manager をインストールすると、WebSphere Commerce 管理者 ID `wcsadmin` に Payment Manager 管理者役割が自動的に割り当てられます。Payment Manager の Realm Class を `WCSRealm` にまだ切り替えていない場合、これを行うには、43 ページの『第 5 章 IBM WebSphere Payment Manager 3.1.2 のインストール』の指示に従ってください。

Payment Manager 管理者役割が割り当てられているユーザー ID では、Payment Manager の制御と管理が可能です。

第 1 部 WebSphere Commerce 5.4 のインストール

このセクションでは、次のようなトピックを記載しています。

- 3 ページの『第 1 章 インストール前の要件』
- 11 ページの『第 2 章 Oracle データベースのインストール』
- 19 ページの『第 3 章 Web サーバーのインストール』
- 25 ページの『第 4 章 WebSphere Commerce のインストール』
- 43 ページの『第 5 章 IBM WebSphere Payment Manager 3.1.2 のインストール』

WebSphere Commerce を正常にインストールするには、これらのトピックを完了する必要があります。

重要

本書では、以前のバージョンの WebSphere Commerce がインストールされていないマシンに WebSphere Commerce をインストールする方法を説明します。WebSphere Commerce Suite バージョン 5.1 がインストールされており、WebSphere Commerce 5.4 WebSphere Commerce Business Edition にアップグレードする場合は、*WebSphere Commerce マイグレーション・ガイド* の指示に従ってください。この資料は、IBM Web サイトから入手できます。その Web アドレスは以下のとおりです。

<http://www.ibm.com/software/webservers/commerce/>

第 1 章 インストール前の要件

この章では、WebSphere Commerce をインストールする前に行う必要のあるステップについて説明します。

知識に関する要件

WebSphere Commerce をインストールおよび構成するには、以下のことに関する知識が必要です。

- パーソナル・コンピューターと使用するオペレーティング・システム
- インターネット
- Web サーバーの運用と保守
- Oracle データベース
- オペレーティング・システムの基本的なコマンド

ストアまたはモールを作成しカスタマイズするには、以下のことに関する知識が必要です。

- WebSphere Application Server
- Oracle データベース
- HTML および XML
- 構造化照会言語 (SQL)
- Java のプログラミング

ストアまたはモールをカスタマイズする方法の詳細については、*WebSphere Commerce プログラマーズ・ガイド* を参照してください。WebSphere Commerce と WebSphere Commerce Studio には、いずれもこれらのマニュアルのコピーが付属しています。

Microsoft IIS 4.0、Microsoft IIS 5.0、iPlanet Web サーバー Enterprise Edition 4.1.8、または Lotus Domino Web サーバーを使用する場合、これらについても精通している必要があります。

Oracle の知識

このセクションでは、Oracle を WebSphere Commerce とともに使用する前に知っておく必要のある Oracle の重要な概念のいくつかを扱っています。これらの概念に関する情報は、Oracle システムに付属している *Oracle 8i Concepts* の資料で見つけることができます。Oracle システムのインストールとセットアップを行う前に、Oracle の製品に付属している Oracle 資料 (特に、概念、管理、およびインストールに関する情報) をお読みになり、理解しておくことをお勧めします。

Oracle システムを WebSphere Commerce とともに動作するよう構成する前に理解しておく必要のある概念として、以下の事柄があります。

- Oracle インスタンス
- データベース構造およびスペース管理。これには、以下のものが含まれます。
 - 論理データベース構造
 - 表スペース
 - スキーマおよびスキーマ・オブジェクト
 - データ・ブロック、エクステンツ、およびセグメント
 - 物理データベース構造
 - データ・ファイル
 - 再実行ログ・ファイル
 - 制御ファイル
- 構造化照会言語 (SQL)
- メモリー構造および処理
 - システム・グローバル域 (SGA)
 - プログラム・グローバル域 (PGA)
 - サーバーおよびバックグラウンド・プロセスを含む、Oracle プロセス・アーキテクチャー
- 通信ソフトウェアおよび Net8
- プログラム・インターフェース
- データベース管理者のユーザー名
 - SYS
 - SYSTEM
- システム ID (SID)
- データベース、表スペース、およびデータ・ファイル
 - SYSTEM 表スペース
 - 複数の表スペースの使用
 - 表スペース内のスペース管理
 - オンラインおよびオフラインの表スペース
 - 一時表スペース
 - データ・ファイル

前提条件となるハードウェア

WebSphere Commerce 5.4 をインストールする前に、以下の最低のハードウェア要件を満たしていることを確認しておかなければなりません。

専用の Pentium® III 733 MHz (実稼働環境では 1 GHz 以上を推奨) の IBM 互換パーソナル・コンピュータで、以下のハードウェアを備えたもの。

- プロセッサ当たり 768 MB 以上の RAM。 WebSphere Commerce インスタンスが 1 つ追加されるごとに、インスタンス当たりの RAM を 512 MB 追加する必要があります。
- ターゲット・インストール・ドライブ上に 2 GB 以上の空きディスク・スペース。
 - また、C: ドライブには、さらに 300 MB が必要です。使用しているマシンで FAT 区画が使用されていて、その区画が 1.024 GB を超える場合は、その 2 倍の空きディスク・スペースが必要になります。インストールの際に、十分な空きディスク・スペースがあるかチェックされ、十分なスペースがない場合には警告が出ます。
 - 使用しているマシンで FAT 区画が使用されていて、その区画が 2049 MB を超える場合は、その 3 倍の空きディスク・スペースが必要になります。
- RAM の 2 倍のページング・スペース (たとえば RAM が 512 MB なら 1024 MB のページング・スペース)。これは、Windows の「システムのプロパティ」の「仮想メモリ」パネルで調整できます。
- CD-ROM ドライブ。
- 少なくとも 256 色の色深度を持つ、グラフィックス対応モニター。
- マウスまたはその他のポインティング・デバイス。
- TCP/IP プロトコルがサポートするローカル・エリア・ネットワーク (LAN) アダプター。

注: WebSphere Application Server セキュリティーを使用可能にする場合には、ご使用のマシンが以下の要件を満たしているよう強くお勧めします。

- 1 GB 以上のマシン・メモリー
- WebSphere Commerce アプリケーション用に、384 MB 以上のヒープ・サイズ

前提条件となるソフトウェア

WebSphere Commerce をインストールする前に、以下の最低のソフトウェア要件を満たしていることを確認しておかなければなりません。

- 以下にいずれかのオペレーティング・システムがインストールされていること。
 - WebSphere Commerce サーバー上に、Windows NT Service パッケージ 4.0 (Service Pack 6a をインストール済み)。Service Pack は、以下の Web アドレスから入手できます。
<http://www.microsoft.com>

重要

WebSphere Commerce 5.4 をインストールする前に Service Pack 6a を適用しないと、WebSphere Commerce をインストールできません。



Service Pack 6a がインストールされているかどうかを調べるには、DOS プロンプトのコマンド行で `winver` と入力してください。Service Pack が正しくインストールされていれば、システム情報の中で *Service Pack 6a* について言及されています。

- Windows 2000 Server または Advanced Server Edition (Service Pack 2 をインストール済みのこと)。Service Pack は、以下の Web アドレスから入手できます。

<http://www.microsoft.com>

すでにインストール済みのコンポーネント

テスト用の SSL (Secure Sockets Layer) プロトコルの準備

IBM HTTP Server がすでにシステムにインストールされている場合、Secure Sockets Layer (SSL) プロトコルがテストに使えるようになっていることを確認する必要があります。SSL が使用可能になっている場合、Web ブラウザーで次の URL をオープンできるはずですが、

```
https://host_name
```

host_name は、IBM HTTP Server を稼働しているマシンの完全修飾ホスト名です。このセクションで作成したセキュリティー鍵ファイルは、ショッピングのトランザクションが無許可の個々のユーザーに対して表示されないように保護するわけではありません。ショッピングに対してストアをオープンする前に、143 ページの『第 12 章 IBM HTTP Server での実行のための SSL の使用可能化』の指示に従ってください。

上記の URL をオープンできない場合、システム上で SSL を準備する必要があります。システムを準備するには、以下を行います。

1. 162 ページの『IBM HTTP Server の開始および停止』の説明に従って、IBM HTTP Server を停止します。
2. ディレクトリーを `drive:\WebSphere\HTTPServer\conf` に変更します。
3. `httpd.conf` を一時ディレクトリーにバックアップします。
4. `httpd.conf` を `httpd.conf.bak` に名前変更します。
5. `httpd.conf.sample` を一時ディレクトリーにバックアップします。
6. `httpd.conf.sample` を `httpd.conf` に名前変更します。

7. 「スタート」 → 「プログラム」 → 「IBM HTTP Server」 → 「Start Key Management Utility (鍵管理ユーティリティの開始)」を選択します。
8. 「IBM Key Management (IBM 鍵管理)」ウィンドウの「Key Database File (鍵データベース・ファイル)」メニューをクリックして、「新規」を選択します。
9. IBM 鍵管理の「新規」ウィンドウで、ファイル名とファイルの場所を次のように入力します。

```
drive:/WebSphere/HTTPServer/ssl/keyfile.kdb
```

「OK」をクリックします。

10. 「Password Prompt (パスワード・プロンプト)」ウィンドウが表示されます。
11. IBM HTTP Server パスワードを入力および確認し、「Stash the password to a file (パスワードをファイルに隠す)」をオンにします。「OK」をクリックします。
12. 「作成」メニューをクリックし、「New Self-Signed Certificate (新規自己署名証明書)」を選択します。
13. 表示されたウィンドウで、オプションとしてリストに載っていないすべてのフィールドに入力します。「OK」をクリックします。
14. 162 ページの『IBM HTTP Server の開始および停止』の説明に従って、IBM HTTP Server を開始します。

その他のタスク

WebSphere Application Server 4.0.2 または IBM HTTP Server 1.3.19.1 がマシンにインストールされている場合、WebSphere Commerce のインストールを続行する前に、特定のタスクを完了しておく必要があります。

IBM HTTP Server および WebSphere Application Server がインストール済みの場合は、IBM HTTP Server プラグインが `drive:¥WebSphere¥HTTPServer¥conf¥httpd.conf` ファイルに適用されていることを確認します。ファイルの末尾に、以下のような 4 行が存在しなければなりません。

```
LoadModule ibm_app_server_http_module drive:¥WebSphere¥AppServer¥bin¥
    mod_ibm_app_server_http.dll
Alias /IBMWebAS/ drive:¥WebSphere¥AppServer¥web¥
Alias /WSsamples drive:¥WebSphere¥AppServer¥WSsamples¥
WebSpherePluginConfig drive:¥WebSphere¥AppServer¥config¥plugin-cfg.xml
```

欠落している行がある場合には、ファイルの末尾に追加してください。

DB2 ユニバーサル・データベースをインストールした場合、WebSphere Application Server Application Development Client がインストール済みで、JDBC 2 が使用可能であることを確認してください。

その他の要件

さらに、以下のことを実行する必要があります。

1. Administrator 権限を所有する Windows のユーザー ID を持っていることを確認してください。

重要

使用している Windows のユーザー ID に Administrator 権限がない場合や、ユーザー ID の長さが 8 文字を超える場合、またはローカル・マシン上で定義されていない場合には、その問題についての通知が出され、インストールを続行することはできません。

2. **NT** Windows NT を使用している場合は、Windows ユーザー ID が以下のユーザー権利を有していることを確認してください。
 - Create Token Object (トークン・オブジェクトの作成)
 - Increase Quota (割り当て量の増加)
 - Replace Quota Level Token (割り当て量レベル・トークンの置き換え)
3. 実行されているアプリケーションをすべて停止します。インストール・プロセスの中でマシンを再始動する必要があるため、実行中のアプリケーションはデータを失う可能性があります。
4. マシン上でロータス ノーツ (Lotus® Notes™) などのサーバーが実行されている場合には、そのサーバーを停止します。現在ポート 80、ポート 443、またはポート 8000 を使用している Web サーバーがマシン上にあれば無効にしてください。
5. WebSphere Commerce では IP アドレスとホスト名の両方が使用されるため、システムの IP アドレスがホスト名に対応付けられていなければなりません。IP アドレスを判別するには、コマンド・ウィンドウを開いて次のように入力します。

```
ping host_name
```

正しい IP アドレスからの応答があれば、正常に設定されています。

6. IBM HTTP Server を Web サーバーとして使用する場合には、Web サーバーのホスト名中に下線 (_) を使用しないようにしてください。IBM HTTP Server は、ホスト名中に下線を使用したマシンをサポートしていません。
7. Windows 2000 を使用している場合、オペレーティング・システムのデフォルト・インストールにおいて、Microsoft IIS Web サーバーのコピーがシステムにインストールされます。Microsoft IIS ではなく IBM HTTP Server を使用する場合、サポートされている Web サーバーのいずれかをインストールする前に、このサーバーをアンインストールするか、または以下のサービスを停止する必要があります。
 - IIS Admin Service
 - World Wide Web Publishing Service

- Simple Mail Transport Protocol (SMTP)

さらに、これらのサービスを自動ではなく手動に設定するか、または使用不可にして、システム再始動時に起動しないようにしてください。

第 2 章 Oracle データベースのインストール

この章では、Oracle を使用した WebSphere Commerce データベース・スキーマの作成について説明します。Oracle8i Database のインストールの詳細については説明していません。

注:

1. WebSphere Commerce は、Oracle Database 8.1.7.2.1, Enterprise Edition、または Standard Edition (Oracle 8i リリース 3 とも言います) だけをサポートします。
2. この章の指示に従うには、Oracle の高度な知識 (DBA レベル) が必要です。
3. Oracle について詳しくは、<http://www.oracle.com> にアクセスしてください。
<http://docs.oracle.com> からは、Oracle 資料のコピーを入手できます。Oracle ソフトウェアを入手する方法については、<http://technet.oracle.com> を参照してください。Oracle のインストールと構成に関するこの章の情報は、ガイドラインにすぎません。
4. Oracle の用語や概念について詳しくは、Oracle 製品に付属の *Oracle 8i Concepts* を参照してください。

Oracle8i Database のインストールおよび構成

データベース管理システムとして DB2® の代わりに Oracle を使用する場合は、以下のステップを実行する必要があります。

1. Oracle のインストール時にカスタム・インストールを選択し、Oracle CD-ROM から以下の Oracle 製品をインストールします (推奨)。
 - 単一マシン上での 1 層式 Oracle インストールの場合:
 - Net8
 - Oracle8 Enterprise Server
 - SQL*Plus
 - TCP/IP Protocol Adapter
 - JDBC™ Thin Driver
 - JDBC/OCI Driver
 - 2 層式インストールにおける Oracle サーバー・マシンの場合:
 - Net8
 - Oracle8 Enterprise Server
 - SQL*Plus
 - TCP/IP Protocol Adapter

- JDBC Thin Driver
- JDBC/OCI Driver
- 2 層式インストールにおける Oracle クライアント (WebSphere Commerce) マシンの場合:
 - Net8
 - Oracle8 Enterprise Client
 - SQL*Plus
 - JDBC Thin Driver
 - JDBC/OCI Driver

インストール可能なオプションのコンポーネントが多数あります。オプションの項目のいずれかが必要かどうかを調べるには、Oracle インストール資料を参照してください。

2. Oracle データベースを残りの WebSphere Commerce からリモート・インストールする場合は、WebSphere Commerce マシン上に Oracle クライアントをインストールする必要があります。
3. WebSphere Application Server、WebSphere Commerce、および WebSphere™ Payment Manager で使用するデータベースを作成します。それぞれのアプリケーションで独自のデータベースを使用するか、またはデータベースを共用することができます。作成するデータベースの数は、システムや要件によって異なります。

注:

- a. データベースを共用するには、以下のステップで表スペースを作成する際に、同じデータベース SID に接続してください。
 - b. 命名規則と文字制限に関する情報については、Oracle の資料を参照してください。
 - c. このステップで作成する各データベース・インスタンスについて、Oracle システム ID (SID) をメモしておいてください。これらの SID は後のステップで必要になります。
 - d. WebSphere Commerce データベースのグローバル・データベース名と Oracle システム ID (SID) は、同じであるか、*SID.domain_name* の形式でなければなりません。ここで、*domain_name* は、Oracle サーバーの完全修飾ドメイン・ネームです。
 - e. データベースを作成すると、Oracle では各データベースごとに *initSID.ora* という名前のファイルがディレクトリー *drive:¥oracle¥admin¥'SID'¥pfile* に作成されます。 *init.SID* ファイルは最初に作成したデータベースについて作成され、 *initSID.ora* はそれ以降に作成した各データベースについて作成されます。
4. WebSphere Commerce の Oracle ユーザー ID と WebSphere Commerce 用の表スペースを作成します。

以下のステップで示されている設定は、提案にすぎません。ご使用の WebSphere Commerce インストールに必要な設定は、ここで使用されているものとは異なる場合があります。

このステップの一部になっているコマンドでは、以下の変数が使用されます。

full_path_to_wc_datafile

WebSphere Commerce データベースのデータ・ファイルへの完全修飾パス。たとえば、'*drive:¥oracle¥oradata¥wc_SID¥wc01.dbf*' のようになります。新しいデータ・ファイルを作成するには、この値を単一引用符で囲まなければなりません。

wc_password

WebSphere Commerce Oracle ユーザーが使用するパスワード。このパスワードは、すべての Oracle パスワード規則とすべての WebSphere Commerce パスワード規則に従っていなければなりません。

wc_SID このユーザーと表スペースを使用する WebSphere Commerce データベース・インスタンスの Oracle システム ID (SID)。

wc_tablespace

データベース内に作成する WebSphere Commerce 表スペースの名前。

wc_user_ID

WebSphere Commerce Oracle ユーザーに割り当てる ID。

- a. Oracle DBA アカウントにログインし、コマンド・プロンプトから以下のコマンドを実行して、SQL*Plus セッションを開始します。

```
sqlplus system/manager@wc_SID
```

以下のステップで示されているコマンドはすべて、この SQL*Plus セッション内で実行されます。

- b. 以下のコマンドを実行して、WebSphere Commerce 表スペースを作成します。

```
CREATE TABLESPACE wc_tablespace  
  DATAFILE full_path_to_wc_datafile  
  SIZE 4M  
  AUTOEXTEND ON NEXT 2M  
  MAXSIZE UNLIMITED;
```

- c. 以下のコマンドを実行して、WebSphere Commerce Oracle ユーザーを作成します。

```
CREATE USER wc_user_ID  
  IDENTIFIED BY wc_password  
  DEFAULT TABLESPACE wc_tablespace  
  QUOTA UNLIMITED ON wc_tablespace;
```

- d. 以下のコマンドを実行して、作成した WebSphere Commerce Oracle ユーザーに特権を授与します。

```

GRANT create procedure to wc_user_ID;
GRANT create sequence to wc_user_ID;
GRANT create session to wc_user_ID;
GRANT create synonym to wc_user_ID;
GRANT create table to wc_user_ID;
GRANT create trigger to wc_user_ID;
GRANT create view to wc_user_ID;
GRANT create materialized view to wc_user_ID;
GRANT query rewrite to wc_user_ID;
GRANT unlimited tablespace to wc_user_ID;
ALTER USER wc_user_ID TEMPORARY TABLESPACE temp;
CONNECT wc_user_ID/wc_user_ID@wc_SID;
CREATE schema authorization wc_user_ID;

```

5. WebSphere Application Server ejssadmin ユーザー用の Oracle ユーザー ID と、WebSphere Application Server 用の表スペースを作成します。

以下のステップで示されている設定は、提案にすぎません。ご使用の WebSphere Commerce インストールに必要な設定は、ここで使用されているものとは異なる場合があります。

このステップの一部になっているコマンドでは、以下の変数が使用されます。

full_path_to_was_datafile

WebSphere Application Server データベースのデータ・ファイルへの完全修飾パス。たとえば、*drive:%oracle%ora81%database%was.ora*

ejssadmin_password

WebSphere Application Server ejssadmin Oracle ユーザーが使用するパスワード。このパスワードは、すべての Oracle パスワード規則とすべての WebSphere Application Server パスワード規則に従っていなければなりません。

was_SID

このユーザーと表スペースを使用する WebSphere Application Server データベース・インスタンスの Oracle システム ID (SID)。

was_database

作成しようとしている WebSphere Application Server データベースの名前。

- a. Oracle DBA アカウントにログインし、コマンド・プロンプトから以下のコマンドを実行して、SQL*Plus セッションを開始します。

```
sqlplus system/manager@was_SID
```

以下のステップで示されているコマンドはすべて、この SQL*Plus セッション内で実行されます。

- b. 以下のコマンドを実行して、WebSphere Application Server 表スペースを作成します。

```
CREATE TABLESPACE was_tablespace
  DATAFILE full_path_to_was_datafile
  SIZE 4M
  AUTOEXTEND ON NEXT 2M
  MAXSIZE UNLIMITED;
```

- c. 以下のコマンドを実行して、WebSphere Application Server EJSADMIN Oracle ユーザーを作成します。

```
CREATE USER ejadmin
  IDENTIFIED BY ejsadmin_password
  DEFAULT TABLESPACE was_tablespace
  QUOTA UNLIMITED ON was_tablespace;
```

- d. 以下のコマンドを実行して、作成した WebSphere Application Server Oracle ユーザーに特権を授与します。

```
GRANT dba TO ejadmin;
GRANT connect to ejadmin;
GRANT resource to ejadmin;
ALTER USER ejadmin TEMPORARY TABLESPACE temp;
```

6. WebSphere Application Server ejb ユーザー用の Oracle ユーザー ID を作成します。

以下のステップで示されている設定は、提案にすぎません。ご使用の WebSphere Commerce インストールに必要な設定は、ここで使用されているものとは異なる場合があります。

このステップの一部になっているコマンドでは、以下の変数が使用されます。

ejb_password

WebSphere Application Server ejb Oracle ユーザーが使用するパスワード。このパスワードは、すべての Oracle パスワード規則とすべての WebSphere Application Server パスワード規則に従っていなければなりません。パスワードの作成規則については、Oracle の資料を参照してください。

was_SID

このユーザーと表スペースを使用する WebSphere Application Server データベース・インスタンスの Oracle システム ID (SID)。

was_tablespace

以前に作成した WebSphere Application Server 表スペースの名前。

- a. Oracle DBA アカウントにログインし、コマンド・プロンプトから以下のコマンドを実行して、SQL*Plus セッションを開始します。

```
sqlplus system/manager@was_SID
```

以下のステップで示されているコマンドはすべて、この SQL*Plus セッション内で実行されます。

- b. 以下のコマンドを実行して、WebSphere Application Server ejb Oracle ユーザーを作成します。

```
CREATE USER ejb
  IDENTIFIED BY ejb_password;
  DEFAULT TABLESPACE was_tablespace
  QUOTA UNLIMITED ON was_tablespace;
```

- c. 以下のコマンドを実行して、作成した WebSphere Application Server ejb Oracle ユーザーに特権を授与します。

```
GRANT connect to ejb;
GRANT resource to ejb;
ALTER USER ejb TEMPORARY TABLESPACE temp;
```

7. WebSphere Payment Manager の Oracle ユーザー ID と WebSphere Payment Manager 用の表スペースを作成します。

以下のステップで示されている設定は、提案にすぎません。ご使用の WebSphere Commerce インストールに必要な設定は、ここで使用されているものとは異なる場合があります。

このステップの一部になっているコマンドでは、以下の変数が使用されます。

full_path_to_wpm_datafile

Payment Manager データベースのデータ・ファイルへの完全修飾パス。たとえば、*drive:¥oracle¥ora81¥database¥wpm.ora*

wpm_password

WebSphere Payment Manager Oracle ユーザーが使用するパスワード。このパスワードは、すべての Oracle パスワード規則とすべての WebSphere Payment Manager パスワード規則に従っていなければなりません。

wpm_SID

このユーザーと表スペースを使用する WebSphere Payment Manager データベース・インスタンスの Oracle システム ID (SID)。

wpm_tablespace

データベース内に作成する WebSphere Payment Manager 表スペースの名前。

wpm_user_ID

WebSphere Payment Manager Oracle ユーザーに割り当てる ID。

- a. Oracle DBA アカウントにログインし、コマンド・プロンプトから以下のコマンドを実行して、SQL*Plus セッションを開始します。

```
sqlplus system/manager@wpm_SID
```

以下のステップで示されているコマンドはすべて、この SQL*Plus セッション内で実行されます。

- b. 以下のコマンドを実行して、WebSphere Payment Manager 表スペースを作成します。


```
CREATE TABLESPACE wpm_tablespace
  DATAFILE full_path_to_wpm_datafile
  SIZE 4M
  AUTOEXTEND ON NEXT 2M
  MAXSIZE UNLIMITED;
```

- c. 以下のコマンドを実行して、WebSphere Payment Manager Oracle ユーザーを作成します。

```
CREATE USER wpm_user_ID
  IDENTIFIED BY wpm_password
  DEFAULT TABLESPACE wpm_tablespace
  QUOTA UNLIMITED ON wpm_tablespace;
```

- d. 以下のコマンドを実行して、作成した WebSphere Payment Manager Oracle ユーザーに特権を授与します。

```
GRANT connect, resource to wpm_user_ID;
ALTER USER wpm_user_ID TEMPORARY TABLESPACE temp;
```

8. 作成した各データベースごとに、*initSID.ora* または *init.SID* ファイルを以下のように変更します。ここで、*SID* は、データベースの Oracle システム ID (SID) です。

- a. *initSID.ora* または *init.SID* があるディレクトリーに変更します。たとえば、*drive:¥oracle¥ora81¥admin¥SID¥pfile* ディレクトリーに移動します。ここで、*SID* は、データベースの Oracle システム ID (SID) です。
- b. テキスト・エディターで、*init.SID* ファイルをオープンします。ここで、*SID* は、データベースの Oracle システム ID です。たとえば、WebSphere Application Server データベースの *SID* が *was* である場合は、ファイル *initwas.ora* をテキスト・エディターでオープンします。
- c. この Oracle8i Database 初期化ファイルで、*open_cursors* の値を 1000 に変更します。*open_cursors* エントリーは以下のようになります。

```
open_cursors = 1000
```

- d. Oracle8i Database 初期化ファイルで、*SORT_AREA_SIZE* の値を 655350 に変更します。*SORT_AREA_SIZE* エントリーは以下のようになります。

```
SORT_AREA_SIZE = 655350
```

- e. データベースを停止してから再始動すると、変更が有効になります。

WebSphere Application Server、WebSphere Commerce または Payment Manager で使用する予定の各データベースの *initSID.ora* または *init.SID* ファイルを変更しなければなりません。

Oracle8i Database インストールのテスト

Oracle をインストールしたら、Oracle データベースに正しく接続できるはずですが、以下のようにしてこれをテストします。

注: 1 層構成の場合、Oracle クライアントと Oracle サーバーは同じマシンです。

1. Oracle サーバーで、Oracle リスナー・サービスを開始します。
2. Oracle サーバーで、コマンド・プロンプトに以下のコマンドを入力して、Oracle インスタンスを始動します。

```
svrmgrl
connect internal
startup
quit
```

3. コマンド・プロンプトで以下のコマンドを入力して、作成した各 Oracle ユーザーごとに SQL*Plus セッションを開始します。

```
sqlplus wcs_user_ID/wcs_password@wcs_SID
sqlplus ejsadmin/ejsadmin_password@was_SID
sqlplus ejb/ejb_password@was_SID
sqlplus wpm_user_ID/wpm_password@wpm_SID
```

別のマシンへの Oracle8i Database のインストール

WebSphere Commerce サーバーの負荷を削減するため、データベースを別のマシンにインストールすることもできます。

リモート Oracle データベースを構成するには、以下のようにします。

1. 11 ページの『第 2 章 Oracle データベースのインストール』で説明されているように、サーバーおよびクライアント・マシンに Oracle をインストールして構成します。
2. Oracle クライアント・マシンで、引き続き 19 ページの『第 3 章 Web サーバーのインストール』を行います。

次のステップ

Oracle8i Database のインストールと構成を完了したら、Web サーバーをインストールして、インストール・プロセスを継続できます。19 ページの『第 3 章 Web サーバーのインストール』で示されている指示に従って、次に進んでください。

第 3 章 Web サーバーのインストール

WebSphere Commerce には IBM HTTP Server 1.3.19.1 のコピーが含まれていますが、Web サーバーとして iPlanet Web サーバー Enterprise Edition 4.1.8 または Lotus Domino Web サーバー 5.0.6 も使用できます。また、Windows NT ユーザーは Microsoft IIS 4.0 を、Windows 2000 ユーザーは Microsoft IIS 5.0 を使用できます。

IBM HTTP Server をインストールする場合は、25 ページの『第 4 章 WebSphere Commerce のインストール』に直接進んでください。他のいずれかの Web サーバーを使用する場合は、WebSphere Commerce をインストールする前に、Web サーバー・マシン上でこの章のステップを完了する必要があります。

重要

Web サーバーを WebSphere Commerce マシンからリモートにインストールする場合、両方の製品が同じドライブ名にインストールされていることを確認してください。たとえば、Web サーバー・ソフトウェアをリモート Web サーバー・マシン上のドライブ C: にインストールする場合は、WebSphere Commerce を WebSphere Commerce マシン上のドライブ C: にインストールします。

WebSphere Commerce 用の Microsoft IIS のインストール

Web サーバーとして Microsoft IIS を使用する場合は、Web サーバー・マシン上で以下のステップを完了してください。

1. Microsoft で指定されている手順に従って、Microsoft IIS をインストールします。

注: WebSphere Commerce をインストールする前に、Microsoft IIS の Web 関連サービスとアプリケーション (IIS Admin Service、World Wide Web Publishing Service、FTP サービス、デフォルト Web サイト、デフォルト FTP サイト、デフォルト SMTP 仮想サーバーを含む) をすべて停止しなければなりません。Microsoft IIS サーバーの構成によっては、Web サーバー・マシン上ですべてのサービスまたはサーバーが見つからない場合があります。これらのサービスおよびサーバーを停止する方法については、Microsoft IIS の資料を参照してください。

2. 次に、WebSphere Commerce をインストールして WebSphere Commerce インスタンスを作成する必要があります。
 - WebSphere Commerce をインストールする方法については、25 ページの『第 4 章 WebSphere Commerce のインストール』を参照してください。

- WebSphere Commerce インスタンスを作成するには、53 ページの『第 2 部 WebSphere Commerce の構成作業』を参照してください。

注: WebSphere Commerce をインストールして WebSphere Commerce インスタンスを作成したあと、Microsoft IIS の Web 関連サービスとアプリケーション (IIS Admin Service、World Wide Web Publishing Service、FTP サービス、デフォルト Web サイト、デフォルト FTP サイト、デフォルト SMTP 仮想サーバーを含む) をすべて開始しなければなりません。Microsoft IIS サーバーの構成によっては、Web サーバー・マシン上にすべてのサービスまたはサーバーが見つからない場合があります。これらのサービスおよびサーバーを停止する方法については、Microsoft IIS の資料を参照してください。

iPlanet Web サーバーのインストールおよび構成

制約事項

iPlanet Web サーバー Enterprise Edition 4.1.8 は、Windows NT でのみサポートされています。

Windows 2000 Server マシンでは、iPlanet Web サーバー Enterprise Edition 4.1.8 を Web サーバーとして使用できません。

Web サーバーとして iPlanet Web サーバー Enterprise Edition 4.1.8 を使用する場合は、Web サーバー・マシン上で以下のステップを完了してください。

1. Netscape で指定されている手順に従って、iPlanet Web サーバーをインストールします。次のコンポーネントを確実にインストールしてください。
 - Netscape Enterprise Server

「**Use Custom JDK (カスタム JDK を使用)**」を選択しないでください。
2. 3 つの Web サーバーを確実に作成してください。SSL 以外の通信 (ポート 80) 用のサーバーを 1 つ、SSL 通信 (ポート 443) 用のサーバーを 1 つ、SSL 通信 (ポート 443) 用の別のサーバーを 1 つです。
3. Netscape の指定する手順に従って、証明権限によって署名されたセキュア証明書をポート 443 およびポート 8000 上にインストールします。
4. iPlanet サブレットを使用不可にします。iPlanet サブレットを使用不可にするには、以下のようにします。
 - a. iPlanet Web サーバーを開始します。
 - b. 以下のようにして、iPlanet サブレットを使用不可にします。
 - 1) iPlanet コンソールで、変更が必要なサーバーを選択します。
 - 2) 「**Manage (管理)**」を選択します。

- 3) 「**Servlets (サーブレット)**」タブを選択します。
 - 4) サーブレット・エンジンをアクティブにするには、「**いいえ**」を選択します。
 - 5) 「**OK**」をクリックします。
 - 6) 「**Save and Apply (保管して適用)**」をクリックします。
 - 7) すべての iPlanet Web サーバーについて、このステップを繰り返します。
- c. ブラウザーを開始し、ローカル・マシンの名前を URL として入力します。 Web サーバーのホーム・ページを見ると、サーバーは正しくインストールされ、構成されています。
5. 次に、 WebSphere Commerce をインストールして WebSphere Commerce インスタンスを作成する必要があります。
- WebSphere Commerce をインストールする方法については、 25 ページの『第 4 章 WebSphere Commerce のインストール』を参照してください。
 - WebSphere Commerce インスタンスを作成するには、 53 ページの『第 2 部 WebSphere Commerce の構成作業』を参照してください。

重要:

デフォルトでは、外部ユーザーは iPlanet Web サーバーがサービスを提供できるどのファイルにもアクセスできます。セキュリティ上の理由から、Web ディレクトリーへのアクセスを制限する必要があります。ファイルおよびディレクトリーへのアクセスの制限については、iPlanet Web サーバーの資料を参照してください。また、obj.conf ファイルをオープンして、NameTrans エントリーを探す必要があります。ターゲット・ディレクトリーでファイルが保護されていることを確認してください。

Domino Web サーバーのインストールおよび構成

Web サーバーとして Lotus Domino 5.0.5、5.0.6、または 5.0.8 を使用する場合は、Web サーバー・マシン上で以下のステップを完了してください。

注: このセクションの優れた資料となるのは、IBM レッドブックです。このブックのコピーを入手するには、以下の IBM レッドブックの Web サイトを参照してください。

<http://www.redbooks.ibm.com/redbooks/SG245955.html>

1. Lotus で指定されている手順に従って、Domino Web サーバーをインストールします。
2. Lotus で指定されている手順に従って、Domino Web サーバー 管理クライアントをインストールします。インストール・プロセス時に、以下のオプションを選択する必要があります。
 - セットアップのタイプを選択するように指示されたら、**Domino Administrator** を選択していることを確認します。

- コンポーネントを選択するようにプロンプトが出されたら、「Domino Web Services (Domino Web サービス)」チェック・ボックスを選択していることを確認します。
 - Domino Web サーバーの構成時に、「Web Browser (Web ブラウザー)」セクションで「HTTP」チェック・ボックスを選択していることを確認します。
- 「Domino Administrator」ウィンドウで「Domino Administrator」を選択します。
3. Web サーバー・マシンから、「スタート」>「プログラム」>「ロータス アプリケーション」>「Lotus Domino Administrator」を選択します。
 4. Domino Web サーバーが実行中であることを確認します。
 5. 「ファイル」>「Open Server (サーバーのオープン)」を選択します。
 6. サーバー名を入力します (たとえば *host_name /domain_name*)。
 7. 「OK」をクリックして続行します。
 8. Domino Web サーバーの別名を作成します。Domino Web サーバーの別名を作成するには、以下のようになります。
 - a. 左側のパネルから、「All Server Document (すべてのサーバー資料)」を選択します。
 - b. *server_name* を選択します。
 - c. 「Web Server Configuration (Web サーバーの構成)」ボタンをクリックします。
 - d. 「Create URL Mapping/Redirection (URL マッピング / リダイレクトの作成)」を選択します。
 - e. 「Basics (基本)」タブを選択します。
 - f. 「What do you want to setup (セットアップする内容)」ドロップダウン・ボックスから、「URL」->「Redirection URL (リダイレクト URL)」オプションを選択します。
 - g. 「Mapping (マッピング)」タブを選択します。「Mapping/Redirection (マッピング / リダイレクト)」ウィンドウが表示されます。以下の表に示されている着信 URL およびリダイレクト URL を入力します。「Save and Close (保管してクローズ)」をクリックして、それぞれの別名を保管します。

注: 作成したい別名ごとに、ステップ 8a ~ 8g を繰り返します。

表 1.

別名	着信 URL	リダイレクト URL
accelerator	/accelerator	/WebSphere/AppServer/installedApps/WC_Enterprise_App_instance_name/ wctools.war/tools/common/accelerator.html

表 1. (続き)

adminconsole	/adminconsole	/WebSphere/AppServer/installedApps/WC_Enterprise_App_instance_name.ear/wctools.war/tools/adminconsole/wcsadmincon.html
orgadminconsole	/orgadminconsole	/WebSphere/AppServer/installedApps/WC_Enterprise_App_instance_name.ear/wcstores.war/tools/buyerconsole/wcsbuyercon.html
storeservices	/storeservices	/WebSphere/AppServer/installedApps/WC_Enterprise_App_instance_name.ear/wctools.war/tools/devtools/storeservices.html

9. さらに追加の別名構成ステップが必要です。 Domino Web サーバーを構成するには、以下のようにします。
 - a. 左側のパネルから、「**All Server Document (すべてのサーバー資料)**」を選択します。
 - b. *server_name* を選択します。
 - c. 「**Web Server Configuration (Web サーバーの構成)**」 ボタンをクリックします。
 - d. 「**Create URL Redirection/Mapping (URL リダイレクト / マッピングの作成)**」を選択します。
 - e. 「**Basics (基本)**」 タブをクリックします。
 - f. 「**What do you want to set up (セットアップする内容)**」ドロップダウン・ボックスから、「**URL**」->「**Directory (ディレクトリー)**」を選択します。
 - g. 「**Mapping (マッピング)**」タブを選択します。「**Mapping/Redirection (マッピング / リダイレクト)**」ウィンドウが表示されます。以下の表に示されている着信 URL およびリダイレクト URL を入力します。「**Save and Close (保管してクローズ)**」をクリックして、それぞれの別名を保管します。

表 2.

別名	着信 URL	ターゲット・サーバー・ディレクトリー
wcs	/wcs	drive:¥WebSphere¥AppServer¥installedApps¥WC_Enterprise_App_instance_name¥wctools.war
wcsstore	/wcsstore	drive:¥WebSphere¥AppServer¥installedApps¥WC_Enterprise_App_instance_name¥wcstores.war

表 2. (続き)

webeditor	/webeditor	<i>drive</i> :%WebSphere%AppServer%installedApps%WC_Enterprise_App_instance_name.ear%wcwebeditor.war
wcsdoc	/wcsdoc	<i>drive</i> :%WebSphere%CommerceServer%web%doc%<locale>
wcshep	/wcshep	<i>drive</i> :%WebSphere%CommerceServer%web%doc%<locale>

10. 左側のウィンドウで、「Web」 > 「Web Server Configuration (Web サーバー構成)」を選択します。
11. 「server_name」 > 「Domino Server」を拡張表示すると、追加した別名がリストされます。
12. 次に、Domino Web サーバーを再始動して、変更を適用する必要があります。Domino Web サーバーを再始動するには、以下のようになります。
 - a. キーボードで **Ctrl-C** と入力して、Domino Web サーバーを停止する。
 - b. 「スタート」 > 「プログラム」 > 「ロータス アプリケーション」 > 「Lotus Domino Server」を選択して、Domino Web サーバーを再始動する。
13. WebSphere Commerce のインストールが完了します。

第 4 章 WebSphere Commerce のインストール

この章では、WebSphere Commerce のインストール方法について説明します。

Microsoft IIS、Domino Web サーバー、iPlanet Web サーバーを使用する場合、または WebSphere Commerce マシン以外のマシンに Oracle8i Database をインストールする場合には、この章のステップを実行する前に、11 ページの『第 2 章 Oracle データベースのインストール』および 19 ページの『第 3 章 Web サーバーのインストール』のステップを完了する必要があります。

重要:

- この章では、製品パッケージに含まれる CD を使用して WebSphere Commerce をインストールする方法について説明します。ネットワーク・ドライブからインストールを行う目的で CD をネットワークにコピーする場合は、CD のフォルダー、パス、およびディレクトリーの名前を変更しない ようにしてください。インストール・プロセスの途中でコンポーネントまたは CD を要求するプロンプトが表示された場合は、コンポーネントの位置を指定します。
- アンチウイルス・ソフトウェアを実行している場合には、WebSphere Commerce をインストールする前に、「サービス」ウィンドウにおいてスタートアップの種類を「手動」に変更した上で、マシンを再始動する必要があります。WebSphere Commerce のインストール終了後、アンチウイルス・サービスのスタートアップの種類を「自動」に戻してください。
- WebSphere Commerce 5.4 のコンポーネントをすでにインストール済みの場合は、「コントロール パネル」の「サービス」ウィンドウで、関連したサービスがすべて停止していることを確認してください。
- Web サーバーをインストール済みの場合は、WebSphere Commerce をインストールする前に、関連したサービスやアプリケーションをすべて停止してください。

インストール手順

WebSphere Commerce をインストールするには、以下のようになります。

1. 管理者権限を持つ Windows ユーザー ID でログオンします。Windows ユーザー ID は、xxi ページの『ユーザー ID、パスワード、および Web アドレスの早見表』の「Windows ユーザー ID」の部分に示されている基準を満たしている必要があります。
2. WebSphere Commerce Disk 1 CD を CD-ROM ドライブに差し込みます。
3. WebSphere Commerce Disk 1 CD のルート・ディレクトリーに移動し、setup.exe を実行します。

4. 「Choose Setup Language (セットアップ言語の選択)」ウィンドウが表示されます。リストから言語を選択し、「OK」をクリックします。
5. ユーザーのシステムが事前インストールの要件を満たしていない場合、その要件の詳細を示すダイアログ・ボックスが表示されます。「キャンセル」をクリックした後、「Exit Setup (セットアップ終了)」をクリックして、インストール・プログラムを終了してください。リストされた事前インストールの要件を満たすための適切なステップを取り、それから再びインストールを開始してください。ご使用のシステムが WebSphere Commerce の最低要件を満たしているものの最適化されていない場合は、提示されているシステムの改善点に注意して事前インストールできるようにし、「次へ」をクリックして続行してください。
6. 「ウェルカム」ウィンドウが表示されます。「次へ」をクリックして、次へ進みません。
7. 「使用許諾契約書」画面が開きます。この画面が表示される前に、DOS ウィンドウが少しの時間表示されることがありますのでご注意ください。ご使用条件をよく読み、同意するかどうかを決定してください。ご使用条件に同意すると、インストール・プログラムが継続されます。同意しない場合、インストール・プログラムは終了します。
8. 「ユーザー ID およびパスワード」ウィンドウで、管理 Windows ユーザー ID およびパスワードを入力します。このユーザー ID とパスワードは、WebSphere Application Server、および IBM HTTP Server 用に使用されます (ただし、これらを WebSphere Commerce インストール・プログラムでインストールした場合)。パスワードを確認してから、「次へ」をクリックして先へ進みます。
9. WebSphere Commerce のいずれかのコンポーネントをすでにインストールしてある場合は、システムで自動的に「カスタム」インストール方法が選択されます。27 ページの『カスタム・インストール』に進んで、続行します。WebSphere Commerce のどのエレメントもまだインストールしていない場合は、「セットアップ・タイプ」ウィンドウが表示されます。「カスタム」をクリックし、「次へ」をクリックして続行します。この場合、実行するインストールのタイプによって、以下のようになります。

カスタム・インストール	<p>以下の場合、「カスタム」インストールを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • WebSphere Commerce システムで Microsoft IIS 4.0、Microsoft IIS 5.0、iPlanet Web サーバー Enterprise Edition 4.1.8、または Oracle Database 8.1.7 Enterprise Edition または Standard Edition を使用する場合。 • インストールするコンポーネントを選択する場合。 • データベースまたは Web サーバーを、WebSphere Commerce サーバー以外のマシンにインストールしている場合。
-------------	--

10. 「カスタム」を選択して、27 ページの『カスタム・インストール』のステップに進んでください。

カスタム・インストール

ステップ 9 (26 ページ) で「カスタム」インストールを選択した場合は、ここで次の選択肢の中から選択する必要があります。

- データベース、Web サーバー、アプリケーション・サーバー、および WebSphere Commerce サーバーをこの 1 つのノードにインストールするには、『単一層インストール』をご覧ください。
- Web サーバー、アプリケーション・サーバー、および WebSphere Commerce サーバーをこのノードにインストールするには、30 ページの『2 層インストール』をご覧ください。
- WebSphere Commerce をこのノードにインストールするには、33 ページの『3 層インストール - WebSphere Commerce サーバー』をご覧ください。
- Web サーバーをこのノードにインストールするか、またはこのノードで構成するには、36 ページの『3 層インストール - Web サーバー』を参照してください。

単一層インストール

1. 「カスタム・インストール」ウィンドウから、「**The commerce server, a Web server and a database (Commerce Server、Web サーバー、およびデータベース)**」チェック・ボックスを選択し、「次へ」をクリックして先へ進みます。
2. 「データベースおよび Web サーバーの選択」ウィンドウで、ドロップダウン・メニューを使用して、WebSphere Commerce とともに使用する Web サーバーおよびデータベース管理システムを指定します。以下の点を参考にしてください。

Web サーバー	<p>ドロップダウン・メニューを使用して、以下のいずれかを指定します。</p> <p>IBM HTTP Server 1.3.19.1 WebSphere Commerce とともに提供されている Web サーバーです。</p> <p>Microsoft IIS WebSphere Commerce とともに Microsoft IIS 4.0 または Microsoft IIS 5.0 を使用することを指定するには、リストからこのオプションを選択します。 19 ページの『第 3 章 Web サーバーのインストール』の手順に従って、Microsoft IIS がすでにインストールされていなければなりません。</p> <p>NT iPlanet Web サーバー Enterprise Edition 4.1.8 WebSphere Commerce とともに iPlanet Web サーバーを使用することを指定するには、リストからこのオプションを選択します。 19 ページの『第 3 章 Web サーバーのインストール』の手順に従って、iPlanet Web サーバーがすでにインストールされていなければなりません。この製品は Windows 2000 ではサポートされていません。</p> <p>Lotus Domino Web サーバー 5.0.6 WebSphere Commerce とともに Domino Web サーバーを使用することを指定するには、リストからこのオプションを選択します。 19 ページの『第 3 章 Web サーバーのインストール』の手順に従って、Domino Web サーバーがすでにインストールされていなければなりません。</p>
データベース	<p>ドロップダウン・メニューを使用して、以下を選択します。</p> <p>Oracle Database 8.1.7 Enterprise Edition または Standard Edition WebSphere Commerce とともに Oracle Database 8.1.7 Enterprise Edition または Standard Edition を使用する場合は、このオプションを選択します。 11 ページの『第 2 章 Oracle データベースのインストール』の説明に従って、Oracle8i Database がすでにインストールされていなければなりません。</p>

選択し終えたら、「次へ」をクリックしてください。

- Oracle8i Database サーバーの完全修飾ホスト名、および WebSphere Application Server データベースの Oracle SID を入力するウィンドウが表示されます。正確な値を入力して、「次へ」をクリックします。

4. 「**WebSphere Commerce コンポーネントの選択**」ウィンドウを使用して、次の WebSphere Commerce コンポーネントをインストールするかどうかを選択できません。

- 「**Commerce Server Samples**」。 WebSphere Commerce サンプル・ストアを使用する場合には、このチェック・ボックスを選択しなければなりません。
- 「**Commerce Server Documentation**」。 オンライン・ヘルプの詳細なバージョンを使用する場合には、このチェック・ボックスを選択しなければなりません。

選択を行った後、「次へ」をクリックして、次へ進んでください。

5. 「**Choose Destination (宛先の選択)**」ウィンドウを使用して、選択したコンポーネントごとにデフォルトのインストール・パスを指定変更できます。すでに旧バージョンのコンポーネントがインストールされている場合は、同じディレクトリー・パスに更新バージョンがインストールされます。

インストール・パスを選択したら、「次へ」をクリックします。



デフォルトでは、すべての選択項目をインストールするスペースが十分にあることを、 WebSphere Commerce インストール・プログラムが最初に検出したドライブが使用されます。必要に応じて、すべてのコンポーネント用のドライブを変更できます。または、コンポーネントごとに異なるドライブを使用できます。

6. 「**Select Program Folder (プログラム・フォルダーの選択)**」ウィンドウで、デフォルトのフォルダー名を受け入れるか、「スタート」メニューに WebSphere Commerce 用に作成されるフォルダーの名前を入力します。「次へ」をクリックして続行します。
7. インストール・ログ・ファイルの保存場所を指定するためのウィンドウが表示されます。デフォルト値をそのまま受け入れるか、または新しいディレクトリーを入力してから、「次へ」をクリックします。
8. 「要約」ウィンドウに、選択したオプションの要約が表示されます。このウィンドウには、セットアップ・タイプ、インストールされるコンポーネント、およびそれらのインストール先となるドライブ、およびアップグレードされるアプリケーションがあるかどうかが表示されます。「次へ」をクリックして、次に進みます。
9. 以下のことを実行するようプロンプトが出されます。
 - WebSphere Application Server, Advanced Edition CD を挿入して、IBM HTTP Server (選択した場合) および WebSphere Application Server をインストールします。「OK」をクリックして続行します。 WebSphere Application Server, Advanced Edition CD へのパスの入力を求めるプロンプトが出されます。「参照」ボタンをクリックし、パス `CD_drive:\nt\%httpd` を選択します。

注: iPlanet Web サーバーを使用する場合、非セキュア・サーバー用に `obj.conf` ファイルを含むディレクトリーを入力するように指示されます。

- WebSphere Commerce Disk 2 CD を挿入し、「OK」をクリックして次へ進みます。
 - インストール・プログラムによって、WebSphere Commerce 5.4 のインストールが完了したことが通知されます。「OK」をクリックして続行します。
10. インストール・プログラムによって、WebSphere Application Server FixPak 2 のインストールが完了したことが通知されます。「OK」をクリックして続行します。
 11. 「インストール完了」ウィンドウがオープンします。
 12. WebSphere Commerce のインストールが終了すると、再始動するよう促されます。「終了」をクリックします。
 13. マシンを再始動します。
 14. システムが再始動したなら、インストールの開始時に使用したのと同じ Windows ユーザー ID にログオンします。必ずシステムの WebSphere Application Server データベース作成処理が終わるのを待ってからログインしてください。
 15. 39 ページの『インストールの検証とトラブルシューティング』で説明されているステップを実行することにより、WebSphere Commerce 5.4 が正しくインストールされていることを確認してください。

2 層インストール

2 層インストールは、データベースが Web サーバーと Commerce サーバーとは別にインストールされる、中間構成です。このオプションでは、Web サーバー、アプリケーション・サーバー、および Commerce サーバーが現行マシンにインストールされます。データベース・サーバーは別のマシンにインストールする必要があります。

WebSphere Commerce を 2 層構成でインストールするには、以下のようになります。

1. 「カスタム・インストール」ウィンドウから、「**The commerce server, a Web server and a database (Commerce Server, Web サーバー、およびデータベース)**」チェック・ボックスを選択し、「次へ」をクリックして先へ進みます。
2. 「データベースおよび Web サーバーの選択」ウィンドウが表示されたら、ドロップダウン・メニューを使用して、WebSphere Commerce とともに使用する Web サーバーおよびデータベース管理システムを指定します。以下の点を参考にしてください。

Web サーバー	<p>ドロップダウン・メニューを使用して、以下のいずれかを指定します。</p> <p>IBM HTTP Server 1.3.19.1 WebSphere Commerce とともに提供されている Web サーバーです。</p> <p>Microsoft IIS WebSphere Commerce とともに Microsoft IIS 4.0 または Microsoft IIS 5.0 を使用することを指定するには、リストからこのオプションを選択します。 19 ページの『第 3 章 Web サーバーのインストール』の手順に従って、Microsoft IIS がすでにインストールされていなければなりません。</p> <p>NT iPlanet Web サーバー Enterprise Edition 4.1.8 WebSphere Commerce とともに iPlanet Web サーバーを使用することを指定するには、リストからこのオプションを選択します。 19 ページの『第 3 章 Web サーバーのインストール』の手順に従って、iPlanet Web サーバーがすでにインストールされていなければなりません。この製品は Windows 2000 ではサポートされていません。</p> <p>Lotus Domino Web サーバー 5.0.6 WebSphere Commerce とともに Domino Web サーバーを使用することを指定するには、リストからこのオプションを選択します。 19 ページの『第 3 章 Web サーバーのインストール』の手順に従って、Domino Web サーバーがすでにインストールされていなければなりません。</p>
データベース	<p>ドロップダウン・メニューを使用して、以下を選択します。</p> <p>Oracle Client V8.1.7 WebSphere Commerce とともに Oracle Database 8.1.7 Enterprise Edition または Standard Edition を使用する場合は、このオプションを選択します。 11 ページの『第 2 章 Oracle データベースのインストール』の説明に従って、Oracle Database 8.1.7 Enterprise Edition または Standard Edition がすでにインストールされていなければなりません。</p>

選択し終わったら、「次へ」をクリックしてください。

- Oracle サーバーの完全修飾ホスト名、および WebSphere Application Server データベースの Oracle SID を入力するウィンドウが表示されます。正確な値を入力して、「次へ」をクリックします。

4. 「**WebSphere Commerce コンポーネントの選択**」ウィンドウを使用して、次の WebSphere Commerce コンポーネントをインストールするかどうかを選択できます。
 - 「**Commerce Server Samples**」。 WebSphere Commerce サンプル・ストアを使用する場合には、このチェック・ボックスを選択しなければなりません。
 - 「**Commerce Server Documentation**」。 オンライン・ヘルプの詳細なバージョンを使用する場合には、このチェック・ボックスを選択しなければなりません。

選択を行った後、「次へ」をクリックして、次へ進んでください。

5. 「**Choose Destination (宛先の選択)**」ウィンドウを使用して、選択したコンポーネントごとにデフォルトのインストール・パスを指定変更できます。すでに旧バージョンのコンポーネントがインストールされている場合は、同じディレクトリー・パスに更新バージョンがインストールされます。
インストール・パスを選択したら、「次へ」をクリックします。



デフォルトでは、すべての選択項目をインストールするスペースが十分にあることを、 WebSphere Commerce インストール・プログラムが最初に検出したドライブが使用されます。必要に応じて、すべてのコンポーネント用のドライブを変更できます。または、コンポーネントごとに異なるドライブを使用できます。

6. 「**Select Program Folder (プログラム・フォルダーの選択)**」ウィンドウで、デフォルトのフォルダー名を受け入れるか、「スタート」メニューに WebSphere Commerce 用に作成されるフォルダーの名前を入力します。「次へ」をクリックして、次に進みます。
7. インストール・ログ・ファイルの保存場所を指定するためのウィンドウが表示されます。デフォルト値をそのまま受け入れるか、または新しいディレクトリーを入力してから、「次へ」をクリックします。
8. 「要約」ウィンドウに、選択したオプションの要約が表示されます。このウィンドウには、セットアップ・タイプ、インストールされるコンポーネント、およびそれらのインストール先となるドライブ、およびアップグレードされるアプリケーションがあるかどうかが表示されます。「次へ」をクリックして、次に進みます。
9. 以下のことを実行するようプロンプトが出されます。
 - WebSphere Application Server, Advanced Edition CD を挿入して、 IBM HTTP Server (選択した場合) および WebSphere Application Server をインストールします。「OK」をクリックして続行します。WebSphere Application Server, Advanced Edition CD へのパスの入力を求めるプロンプトが出されます。「参照」ボタンをクリックし、パス `CD_drive:\nt\httpd` を選択します。

注: iPlanet Web サーバーを使用する場合、非セキュア・サーバー用に `obj.conf` ファイルを含むディレクトリーを入力するように指示されます。

- WebSphere Commerce Web サーバーとして iPlanet Web サーバーを使用する場合は、非セキュア Web サーバー用の `obj.conf` ファイルの場所を指定するよう促されます。
 - WebSphere Commerce Disk 2 CD を挿入し、「OK」をクリックして次へ進みます。このインストールは完了までに数分かかることがあります。
 - インストール・プログラムによって、WebSphere Commerce 5.4 のインストールが完了したことが通知されます。「OK」をクリックして続行します。
10. インストール・プログラムによって、WebSphere Application Server FixPak 2 のインストールが完了したことが通知されます。「OK」をクリックして続行します。
 11. WebSphere Commerce のインストールが終了すると、再始動するよう促されます。「終了」をクリックします。
 12. マシンを再始動します。
 13. 39 ページの『インストールの検証とトラブルシューティング』で説明されているステップを実行することにより、WebSphere Commerce 5.4 が正しくインストールされていることを確認してください。

3 層インストール

3 層インストールとは、データベース、WebSphere Commerce サーバー、および Web サーバーが別々のマシンにインストールされる拡張構成です。このセクションでは、WebSphere Commerce サーバーおよび Web サーバーのインストールを完了する方法について説明します。データベース・サーバーをすでに別のマシンにインストール済みでなければなりません。

3 層インストール - WebSphere Commerce サーバー

3 層インストールとは、データベース、WebSphere Commerce サーバー、および Web サーバーが別々のマシンにインストールされる拡張構成です。このオプションでは、Commerce サーバーが WebSphere Commerce サーバー・マシンにインストールされます。データベース・サーバーをすでに別のマシンにインストール済みでなければなりません。

重要

Web サーバーを WebSphere Commerce マシンからリモートにインストールする場合、両方の製品が同じドライブ名にインストールされていることを確認してください。たとえば、Web サーバー・ソフトウェアをリモート Web サーバー・マシン上のドライブ C: にインストールする場合は、WebSphere Commerce を WebSphere Commerce マシン上のドライブ C: にインストールします。

WebSphere Commerce を 3 層構成でインストールするには、WebSphere Commerce サーバー・マシン上で以下のようにします。

1. 「カスタム・インストール」ウィンドウから、「**The commerce server (Commerce サーバー)**」チェック・ボックスを選択し、「次へ」をクリックして次に進みます。
2. 「データベースおよび Web サーバーの選択」ウィンドウが表示されたら、ドロップダウン・メニューを使用して、WebSphere Commerce とともに使用するデータベース管理システムを指定します。以下の点を参考にしてください。

データベース	ドロップダウン・メニューを使用して、以下を選択します。 Oracle Client V8.1.7 WebSphere Commerce とともに Oracle Database 8.1.7 Enterprise Edition または Standard Edition を使用する場合は、このオプションを選択します。11 ページの『第 2 章 Oracle データベースのインストール』の説明に従って、Oracle Database 8.1.7 Enterprise Edition または Standard Edition がすでにインストールされていなければなりません。
--------	--

選択し終わったら、「次へ」をクリックしてください。

3. 「**Use Remote Web server (リモート Web サーバーの使用)**」ウィンドウが表示されます。リモート Web サーバー・マシンの完全修飾名を入力します。
4. Oracle サーバーの完全修飾ホスト名、および WebSphere Application Server データベースの Oracle SID を入力するウィンドウが表示されます。正確な値を入力して、「次へ」をクリックします。
5. 「**WebSphere Commerce コンポーネントの選択**」ウィンドウを使用して、次の WebSphere Commerce コンポーネントをインストールするかどうかを選択できます。
 - 「**Commerce Server Samples**」。WebSphere Commerce サンプル・ストアを使用する場合には、このチェック・ボックスを選択しなければなりません。
 - 「**Commerce Server Documentation**」。オンライン・ヘルプの詳細なバージョンを使用する場合には、このチェック・ボックスを選択しなければなりません。

選択を行った後、「次へ」をクリックして、次へ進んでください。

6. 「**Choose Destination (宛先の選択)**」ウィンドウを使用して、選択したコンポーネントごとにデフォルトのインストール・パスを指定変更できます。すでに旧バージョンのコンポーネントがインストールされている場合は、同じディレクトリー・パスに更新バージョンがインストールされます。

インストール・パスを選択したら、「次へ」をクリックします。



デフォルトでは、すべての選択項目をインストールするスペースが十分にあることを、 WebSphere Commerce インストール・プログラムが最初に検出したドライブが使用されます。必要に応じて、すべてのコンポーネント用のドライブを変更できます。または、コンポーネントごとに異なるドライブを使用できます。

7. 「**Select Program Folder (プログラム・フォルダーの選択)**」ウィンドウで、デフォルトのフォルダー名を受け入れるか、「スタート」メニューに WebSphere Commerce 用に作成されるフォルダーの名前を入力します。「次へ」をクリックして続行します。
8. インストール・ログ・ファイルの保存場所を指定するためのウィンドウが表示されます。デフォルト値をそのまま受け入れるか、または新しいディレクトリーを入力してから、「次へ」をクリックします。
9. 「**要約**」ウィンドウに、選択したオプションの要約が表示されます。このウィンドウには、セットアップ・タイプ、インストールされるコンポーネント、およびそれらのインストール先となるドライブ、およびアップグレードされるアプリケーションがあるかどうかが表示されます。「次へ」をクリックして、次に進みます。
10. 以下のことを実行するようプロンプトが出されます。
 - WebSphere Application Server を挿入して、 IBM HTTP Server (選択した場合) および WebSphere Application Server をインストールします。「OK」をクリックして続行します。WebSphere Application Server, Advanced Edition CD へのパスの入力を求めるプロンプトが出されます。「参照」ボタンをクリックし、パス `CD_drive:\nt%httpd` を選択します。

注: iPlanet Web サーバーを使用する場合、非セキュア・サーバー用に `obj.conf` ファイルを含むディレクトリーを入力するように指示されます。

 - WebSphere Commerce Disk 2 CD を挿入し、「OK」をクリックして次へ進みます。
 - インストール・プログラムによって、 WebSphere Commerce 5.4 のインストールが完了したことが通知されます。「OK」をクリックして続行します。
11. インストール・プログラムによって、 WebSphere Application Server FixPak 2 のインストールが完了したことが通知されます。「OK」をクリックして続行します。
12. WebSphere Commerce のインストールが終了すると、再始動するよう促されます。「終了」をクリックします。
13. マシンを再始動します。
14. Web サーバー・ノードをインストールして構成するために、 36 ページの『3 層インストール - Web サーバー』にあるステップを完了します。

3 層インストール - Web サーバー

3 層インストールとは、データベース、WebSphere Commerce サーバー、および Web サーバーが別々のマシンにインストールされる拡張構成です。このオプションでは、Web サーバーが Web サーバー・マシンにインストールされ、構成されます。データベース・サーバーをすでに別のマシンにインストール済みでなければなりません。

重要

Web サーバーを WebSphere Commerce マシンからリモートにインストールする場合、両方の製品が同じドライブ名にインストールされていることを確認してください。たとえば、Web サーバー・ソフトウェアをリモート Web サーバー・マシン上のドライブ C: にインストールする場合は、WebSphere Commerce を WebSphere Commerce マシン上のドライブ C: にインストールします。

Domino Web サーバー、Microsoft IIS、または iPlanet Web サーバーを使用する場合には、19 ページの『第 3 章 Web サーバーのインストール』の説明に従って、これらがすでにインストール済みでなければなりません。インストール・プログラムは、Web サーバーが WebSphere Application Server と通信するよう単に構成するだけです。

WebSphere Commerce を 3 層構成でインストールするには、Web サーバー・マシン上で以下のようにします。

1. 「カスタム・インストール」ウィンドウから、「**A Web server (Web サーバー)**」チェック・ボックスを選択し、「次へ」をクリックして次に進みます。
2. 「データベースおよび Web サーバーの選択」ウィンドウが表示されたら、ドロップダウン・メニューを使用して、WebSphere Commerce とともに使用する Web サーバーを指定します。以下の点を参考にしてください。

Web サーバー	<p>ドロップダウン・メニューを使用して、以下のいずれかを指定します。</p> <p>IBM HTTP Server 1.3.19.1 WebSphere Commerce とともに提供されている Web サーバーです。</p> <p>Microsoft IIS WebSphere Commerce とともに Microsoft IIS 4.0 または Microsoft IIS 5.0 を使用することを指定するには、リストからこのオプションを選択します。 19 ページの『第 3 章 Web サーバーのインストール』の手順に従って、Microsoft IIS がすでにインストールされていなければなりません。</p> <p>NT iPlanet Web サーバー Enterprise Edition 4.1.8 WebSphere Commerce とともに iPlanet Web サーバーを使用することを指定するには、リストからこのオプションを選択します。 19 ページの『第 3 章 Web サーバーのインストール』の手順に従って、iPlanet Web サーバーがすでにインストールされていなければなりません。この製品は Windows 2000 ではサポートされていません。</p> <p>Lotus Domino Web サーバー 5.0.6 WebSphere Commerce とともに Domino Web サーバーを使用することを指定するには、リストからこのオプションを選択します。 19 ページの『第 3 章 Web サーバーのインストール』の手順に従って、Domino Web サーバーがすでにインストールされていなければなりません。</p>
----------	--

選択し終わったら、「次へ」をクリックしてください。

3. 「**WebSphere Commerce コンポーネントの選択**」ウィンドウを使用して、次の WebSphere Commerce コンポーネントをインストールするかどうかを選択できます。
 - 「**Commerce Server Samples**」。このチェック・ボックスは選択しないでください。
 - 「**Commerce Server Documentation**」。オンライン・ヘルプの詳細なバージョンを使用する場合には、このチェック・ボックスを選択しなければなりません。
 - 「**WebSphere Application Server Plugins V4.0**」。WebSphere Application Server Web サーバー・プラグインをインストールするには、このチェック・ボックスを選択しなければなりません。

注: 「**WebSphere Application Server Plugins V4.0 (WebSphere Application Server プラグイン V4.0)**」 チェック・ボックスを選択すると、Web サーバー・マシンは WebSphere Commerce マシンと通信できるようになります。

選択を行った後、「次へ」をクリックして、次へ進んでください。

4. 「**Choose Destination (宛先の選択)**」ウィンドウを使用して、選択したコンポーネントごとにデフォルトのインストール・パスを指定変更できます。すでに旧バージョンのコンポーネントがインストールされている場合は、同じディレクトリー・パスに更新バージョンがインストールされます。

インストール・パスを選択したら、「次へ」をクリックします。



デフォルトでは、すべての選択項目をインストールするスペースが十分にあることを、WebSphere Commerce インストール・プログラムが最初に検出したドライブが使用されます。必要に応じて、すべてのコンポーネント用のドライブを変更できます。または、コンポーネントごとに異なるドライブを使用できます。

5. 「**Select Program Folder (プログラム・フォルダーの選択)**」ウィンドウで、デフォルトのフォルダー名を受け入れるか、「スタート」メニューに WebSphere Commerce 用に作成されるフォルダーの名前を入力します。「次へ」をクリックして、次に進みます。
6. インストール・ログ・ファイルの保存場所を指定するためのウィンドウが表示されます。デフォルト値をそのまま受け入れるか、または新しいディレクトリーを入力してから、「次へ」をクリックします。
7. 「要約」ウィンドウに、選択したオプションの要約が表示されます。このウィンドウには、セットアップ・タイプ、インストールされるコンポーネント、およびそれらのインストール先となるドライブ、およびアップグレードされるアプリケーションがあるかどうかが表示されます。「次へ」をクリックして、次に進みます。
8. 以下のことを実行するようプロンプトが出されます。
 - WebSphere Application Server を挿入して、IBM HTTP Server (選択した場合) および WebSphere Application Server をインストールします。「OK」をクリックして続行します。WebSphere Application Server, Advanced Edition CD へのパスの入力を求めるプロンプトが出されます。「参照」ボタンをクリックし、パス `CD_drive:\nt\httpd` を選択します。

注: iPlanet Web サーバーを使用する場合、非セキュア・サーバー用に `obj.conf` ファイルを含むディレクトリーを入力するように指示されます。

- WebSphere Commerce Disk 2 CD を挿入し、「OK」をクリックして次へ進みます。
- インストール・プログラムによって、WebSphere Commerce 5.4 のインストールが完了したことが通知されます。「OK」をクリックして続行します。

9. インストール・プログラムによって、WebSphere Application Server FixPak 2 のインストールが完了したことが通知されます。「OK」をクリックして続行します。
10. WebSphere Commerce のインストールが終了すると、再始動するよう促されます。「終了」をクリックします。
11. マシンを再始動します。
12. システムが再始動したなら、インストールの開始時に使用したのと同じ Windows ユーザー ID にログオンします。
13. 『インストールの検証とトラブルシューティング』で説明されているステップを実行することにより、WebSphere Commerce 5.4 が正しくインストールされていることを確認してください。

インストールの検証とトラブルシューティング

WebSphere Commerce が正しくインストールされていることを確認するには、このセクションのステップを完了する必要があります。WebSphere Commerce のインストールタイプに応じて、以下のセクションのいずれかに説明されている作業を完了してください。

- 『1 層および 2 層環境でのインストールの検証とトラブルシューティング』
- 40 ページの 『3 層環境でのインストールの検証とトラブルシューティング』

1 層および 2 層環境でのインストールの検証とトラブルシューティング

WebSphere Commerce が正しくインストールされたことを確認するため、システムに以下のディレクトリが作成されていることを確認してください。

- `drive:¥WebSphere¥AppServer`
- `drive:¥WebSphere¥HTTPServer` (IBM HTTP Server を使用する場合)
- `drive:¥WebSphere¥CommerceServer`

以下のログ・ファイルにエラー・メッセージが含まれていないことも確認してください。

- インストール中に何か問題が発生した場合には、`drive:¥WCinstall.log` (インストール中に指定した場所) の中にそのことが示されます。
- WebSphere Application Server が正しくインストールされたことを確認するために、`drive:¥WebSphere¥AppServer¥logs¥wssetup.log` を調べて、間違った JDBC レベルがマシン上にインストールされていることを示すエラーが発生していないかを確認めます。このエラーは無視しても安全です。ログの末尾に `Install Complete` というステートメントがあれば、インストールは正常に実行されています。
- WebSphere Application Server FixPak が正しく適用されたことを確認するために、`drive:¥WebSphere¥AppServer¥logs¥was40_ae_ptf_2.log` を調べます。

- WebSphere Application Server efix が適切にインストールされたことを確認するために、`drive:¥WebSphere¥AppServer¥eFix` ディレクトリーを調べます。各ディレクトリー内の `Extractor.Log` ファイルを検査して、すべての `efix` が正しく適用されたことを確認する必要があります。 `Extractor.Log` に、エラーや警告が含まれてはなりません。

Web サーバーのインストールを検証するため、ブラウザで以下の Web ページにアクセスしてみてください。

- `http://host_name`

`host_name` は、実際の WebSphere Commerce マシンの完全修飾ホスト名です。 `http` アドレスがうまく動作しない場合には、Web サーバーが始動しているかどうかを確認してください。

注: WebSphere Commerce Installation and Configuration Checker (IC Checker) は、スタンドアロンのダウンロード可能な問題判別ツールです。これを使用して、WebSphere Commerce のインストールと構成を検査することができます。 IC Checker は構成データとログを収集して、簡単なエラー検査を実行します。 IC Checker については、181 ページの『ダウンロード可能なツール』を参照してください。

3 層環境でのインストールの検証とトラブルシューティング

WebSphere Commerce が正しくインストールされたことを確認するため、WebSphere Commerce マシンに以下のディレクトリーが作成されていることを確認してください。

- `drive:¥WebSphere¥AppServer`
- `drive:¥WebSphere¥CommerceServer`

Web サーバーが正しくインストールされたことを確認するため、Web サーバー・マシンに以下のディレクトリーが作成されていることを確認してください (IBM HTTP Server を使用する場合)。

- `drive:¥WebSphere¥AppServer`
- `drive:¥WebSphere¥HTTPServer` (IBM HTTP Server を使用する場合)
- `drive:¥WebSphere¥CommerceServer`

WebSphere Commerce マシン上の以下のログ・ファイルにエラー・メッセージが含まれていないことも確認してください。

- インストール中に何か問題が発生した場合には、`drive:¥WCinstall.log` (インストール中に指定した場所) の中にそのことが示されます。
- WebSphere Application Server が正しくインストールされたことを確認するために、`drive:¥WebSphere¥AppServer¥logs¥wssetup.log` を調べます。間違った JDBC レベルがマシン上にインストールされていることを示すエラーがログに記録されます。この

エラーは無視しても安全です。ログの末尾に `Install Complete` というステートメントがあれば、インストールは正常に実行されています。

- WebSphere Application Server FixPak が正しく適用されたことを確認するために、`drive:%WebSphere%AppServer%logs%was40_ae_ptf_2.log` を調べます。
- WebSphere Application Server efix が適切にインストールされたことを確認するために、`drive:%WebSphere%AppServer%eFix` ディレクトリーを調べます。各ディレクトリー内の `Extractor.Log` ファイルを検査して、すべての efix が正しく適用されたことを確認する必要があります。Extractor.Log に、エラーや警告が含まれていてはなりません。

Web サーバーのインストールを検証するため、ブラウザで以下の Web ページにアクセスしてみてください。

- `http://host_name`

`host_name` は、実際の WebSphere Commerce マシンの完全修飾ホスト名です。http アドレスがうまく動作しない場合には、Web サーバーが始動しているかどうかを確認してください。

注: WebSphere Commerce Installation and Configuration Checker (IC Checker) は、スタンドアロンのダウンロード可能な問題判別ツールです。これを使用して、WebSphere Commerce のインストールと構成を検査することができます。IC Checker は構成データとログを収集して、簡単なエラー検査を実行します。IC Checker については、181 ページの『ダウンロード可能なツール』を参照してください。

第 5 章 IBM WebSphere Payment Manager 3.1.2 のインストール

この章では、Payment Manager をローカル WebSphere Commerce マシン上に、または WebSphere Commerce マシンからリモートになっているマシン上にインストールして構成する方法について説明します。支払処理のパフォーマンスを向上させるには、Payment Manager をリモート・マシンにインストールします。この章に示されているステップを完了するには、IBM Payment Manager 3.1.2 の CD が必要です。

Payment Manager をローカル WebSphere Commerce マシンにインストールしたい場合は、WebSphere Commerce をインストールした後、WebSphere Commerce インスタンスを作成する前に、Payment Manager をインストールしなければなりません。これで、Payment Manager インストール・プログラムにより Payment Manager が WebSphere Commerce 用に自動的に構成されます。

詳しくは、Payment Manager CD に含まれている *IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms* インストール・ガイド、バージョン 3.1.2、および *IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms* 管理者ガイド、バージョン 3.1.2 をご覧ください。

インストールの前提条件

Payment Manager を WebSphere Commerce マシンにインストールする場合、Payment Manager のインストール前提条件のほとんどはすでに満たされています。46 ページの『Payment Manager のインストール前に』に直接進んで、Payment Manager をインストールしてください。WebSphere Commerce からリモートになっているマシンに Payment Manager をインストールする場合は、以下のセクションで記述する、マシンのハードウェアおよびソフトウェアの前提条件を満たす必要があります。

ハードウェア要件

- 450 MHz の Intel Pentium II 以上のプロセッサを搭載し、Windows NT バージョン 4.0 または Windows 2000 Server をサポートするパーソナル・コンピューター。
- TCP/IP プロトコルをサポートするネットワーク通信アダプター。
- インターネットへのネットワーク接続。
- CD-ROM ドライブ。
- 512 MB 以上の RAM。

- Payment Manager と WebSphere Application Server を同じファイル・システムにインストールする場合は、最低 150 MB の空きディスク・スペース (別々にインストールする場合は、Payment Manager システムに 75 MB、WebSphere Application Server システムに 75 MB)。
- TEMP 環境変数で指定されるすべてのディスク上に、最低 150 MB のディスク・スペース。

注: Windows 2000 では、各ユーザーはそれぞれ独自の TEMP 環境変数を持っており、デフォルトでは次のように設定されています。

`c:%Documents and Settings%logon_userid%Local Settings%Temp`

- データベース用に追加のディスク・スペース。
- 使用するすべての決済カセット用に追加のディスク・スペース。

一時ファイルの場所を見つけるには、DOS コマンド・プロンプトで以下を入力します。

```
set TEMP
```

注: ディスク・スペースの合計は、Payment Manager に同梱されているすべてのソフトウェア製品の合計よりも大きくすることをお勧めします。この数値によって、インストール後のデータベースとログ・ファイルの増加が左右されます。

ソフトウェア要件

- 以下のいずれかが必要です。
 - Windows NT Version 4.0 Workstation または Server (Service Pack 6a を適用済み) (またはそれ以降)。最新の Service Pack は、次の URL からダウンロードできません。
`http://www.microsoft.com`
 - Windows 2000 Server または Advanced Server Edition (Service Pack 2 付き)。
オペレーティング・システムのアップグレードについては、Windows の資料を参照してください。
- データベース製品。IBM Payment Manager 3.1.2 では、以下のデータベースがサポートされています。
 - IBM DB2 ユニバーサル・データベース 7.1.0.55
 - Oracle Database 8.1.7 Enterprise Edition または Standard Edition
- WebSphere Application Server 4.0.2
- IBM SDK for Java。WebSphere Application Server 4.0.2 では IBM Developer Kit for Windows, Java 2 Technology Edition, v1.3 が必要です。(このソフトウェアは、WebSphere Application Server 4.0.2 のインストール時にデフォルトでインストールされます。) IBM SDK for Java を入手するには、次の URL を参照してください。
`http://www.ibm.com/java/jdk/download/index.html`

- Web サーバー (WebSphere Application Server 4.0.2 をインストールすると、デフォルトで IBM HTTP Server 1.3.19.1 がインストールされます)。サポートされている Web サーバーについては、WebSphere Application Server の資料を参照してください。
- Payment Manager のユーザー・インターフェースを表示できる Web ブラウザー。Payment Manager は、以下のブラウザー用に最適化されています。
 - Netscape Communicator 4.08 (またはそれ以降)。
 - Microsoft Internet Explorer 4.01 (Service Pack 2 を適用済み) (またはそれ以降)。

注: Web ブラウザーを Payment Manager と同じマシンにインストールする必要はありませんが、Web ブラウザーから Payment Manager ユーザー・インターフェースおよび WebSphere Application Server にアクセスできる必要があります。

標準インストール

IBM WebSphere Payment Manager 3.1.2 には、以下のソフトウェア製品が必要です。

- データベース製品
- IBM WebSphere Application Server
- Web サーバー製品

Payment Manager のインストール・プログラムは、前提条件に適合した製品のセットがインストールされているかどうかを判別します。WebSphere Application Server と適切な Web サーバーがインストールされていない場合は、それらをシステム上で検出できなかったというメッセージが、Payment Manager のインストール・プログラムから出されます。IBM WebSphere Payment Manager 3.1.2 をインストールする前に、これらのコンポーネントがインストールされており、実行中でなければなりません。

次のソフトウェアを、WebSphere Commerce パッケージに同梱されている CD-ROM からインストールできます。

- IBM DB2 ユニバーサル・データベース 7.1.0.55
- WebSphere Application Server 4.0.2 Advanced Edition
- IBM HTTP Server 1.3.19.1
- IBM Developer Kit for Windows, Java 2 Technology Edition, v1.3 .

上記のものとはレベルが異なるソフトウェアを使用する場合、または Payment Manager の旧バージョンからマイグレーションする場合は、*IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms* インストール・ガイド、バージョン 3.1.2 で、追加の計画とインストールの注意点をご覧ください。

データベースおよび WebSphere Application Server のインストール

WebSphere Application Server 4.0.2 を、Payment Manager をインストールするマシンにまだインストールしていない場合は、以下のようにそれらをインストールする必要があります。

1. WebSphere Commerce に同梱されている WebSphere Application Server, Advanced Edition CD を CD-ROM ドライブに挿入します。 WebSphere Application Server インストール・プログラムが自動的に起動されない場合は、その CD のルートにある `setup.exe` をダブルクリックします。「言語の選択」ウィンドウで、ご使用の言語を選択し、オンラインのインストール手順に従って、WebSphere Application Server をインストールします。

Payment Manager のインストール前に

1. 最新の README ファイル `readme.framework.html` をお読みください。これには、次の Payment Manager の Web サイトの文書リンクでアクセスできます。

<http://www.ibm.com/software/webservers/commerce/paymentmanager/support.html>

また、Payment Manager CD-ROM 内の文書リンクでもアクセスできます。

2. Payment Manager では IBM Developer Kit for Windows, Java 2 Technology Edition, v1.3 が必要です。旧バージョンの IBM SDK for Java を使用する旧バージョンの WebSphere Application Server (たとえば、バージョン 2.0.3.x または 3.0.2.x) を使用する場合は、Payment Manager をインストールする前に、WebSphere Application Server をアップグレードして、IBM Developer Kit for Windows, Java 2 Technology Edition, v1.3 をインストールしておく必要があります。WebSphere Application Server 4.0.2 は IBM Developer Kit for Windows, Java 2 Technology Edition, v1.3 を使用します。

3. 次のようにして、Payment Manager で使用するデータベース製品をあらかじめインストールしていなければなりません。

- Payment Manager 用のデータベース (たとえば、wpm) を作成します。詳しくは、11 ページの『第 2 章 Oracle データベースのインストール』を参照してください。
- Payment Manager のインストール時には、データベースが実行されていなければなりません。それを確認するには、コマンド・プロンプトで以下のように入力してください。

```
sqlplus Payment_manager_user/Payment_manager_password@SID
```

多層環境で Payment Manager を構成する場合には、必ずデータベース・クライアント・マシンから上記のコマンドを実行してください。

4. インストールを開始する前に、以下を確認します。
 - WebSphere Application Server がインストールされます。インストール時には、WebSphere Application Server 管理サーバーが実行されていなければなりません。また、WebSphere Application Server には、別の目的で (たとえば他の製品で使用するために) 構成された **WebSphere Payment Manager** という名前のアプリケ

ーション・サーバーがないことを確認してください。もしすでに構成済みなら、その名前を変更するか、または削除してください。それを削除するには、以下のようになります。

- a. WebSphere Application Server 管理コンソールから、Payment Manager アプリケーション・サーバーを選択します。選択したものを右マウス・ボタン・クリックします。
 - b. 「除去」を選択します。
- Payment Manager バージョン 2.1 またはバージョン 2.2 からマイグレーションする場合は、Payment Manager が**実行中でない**ことを確認してください。
5. Payment Manager またはいずれかの決済カセットをインストールするときは、その前に必ず WebSphere のセキュリティを使用不可にします。セキュリティを使用不可にする方法については、175 ページの『WebSphere Application Server セキュリティを使用不可にする』を参照してください。その後、Payment Manager およびいずれかの決済カセットをインストールするための手順を実行した後で、再びセキュリティを使用可能にすることができます。

Payment Manager のインストール

Payment Manager をインストールするには、以下のステップに従います。

1. 管理者権限を持つ Windows ユーザー ID でログオンします。Windows ユーザー ID は、xxi ページの『ユーザー ID、パスワード、および Web アドレスの早見表』の「Windows ユーザー ID」の部分に示されている基準を満たしている必要があります。
2. ディスプレイの解像度が 800 × 600 ピクセル以上であることを確認してください。これは、Payment Manager のインストール・プログラムが最適な状態で表示されるようにするためです。
3. *Payment Manager for Windows NT and Windows 2000* CD-ROM を挿入します。
4. その CD-ROM のルート・ディレクトリーに移動します。
5. コマンド・プロンプトで、**Install** と入力します。
6. 「Payment Manager Install (Payment Manager のインストール)」画面で、「次へ」をクリックします。
7. デフォルトのインストール先ディレクトリーをそのまま受け入れるか、または別のディレクトリーを入力し、「次へ」をクリックします。
8. Payment Manager バージョン 2.2 またはバージョン 2.1 からマイグレーションする場合、インストール・プログラムで検出された Test Cassette は削除され、その削除が通知されます。「次へ」をクリックして先行します。
9. WebSphere Application Server 4.0.2 がすでにインストールされており、WebSphere Application Server がどの IBM SDK for Java を使用するかをインストール・プログラムによって判断できない場合は、IBM SDK for Java ディレクトリーの場所を

入力するよう求められます。表示された場所が正しければ、「次へ」をクリックします。そうでない場合は、正しい場所を入力してから「次へ」をクリックします。

10. Payment Manager で使用するデータベースを選択します。「Oracle 8.0/8i」を選択して、「次へ」をクリックします。
11. JDBC のドライバー情報が検出されたなら、「次へ」をクリックしてください。JDBC ドライバー情報が検出されなかった場合は、データベース製品に応じて次の情報を使用してください。

Oracle8i Database

- JDBC ドライバー・クラス名: `oracle.jdbc.driver.OracleDriver`
- JDBC クラスの位置:
`Oracle_install_directory\ora81\jdbc\lib\classes12.zip`
- JDBC ドライバーの共用ライブラリーのパス:
`Oracle_install_directory\ora81\bin\`

注: 正しくないデータベース情報を入力し、そのためにデータベース・エラーが発生した場合、「戻る」ボタンを使うと、さらにデータベース・エラー・ポップアップが表示されることになります。その場合には、「キャンセル」をクリックしてからインストールをやり直すことができます。または、「戻る」を使って画面をいくつか戻ってから、「次へ」ボタンを使って、データベース入力画面まで進むこともできます (途中の画面で正しい値を入力します)。その画面が再度表示されたなら、正しい情報を入力できます。

12. 「Payment Manager Database Access Information (Payment Manager データベース・アクセス情報)」画面で、Payment Manager で使用するデータベースに応じた値を入力し、「次へ」をクリックして続行します。

Oracle8i Database

- データベース所有者のユーザー ID
- データベース管理者のユーザー ID
- データベース管理者のパスワード
- Payment Manager データベースの Oracle システム ID (SID)

注: ここに入力する Oracle システム ID (SID) は、データベースを作成する際に使用した SID と正確に一致していなければなりません。データベース SID を正確に入力しないと、IBMPayServer を開始できません。

- データベースのホスト名

注: 2 層または 3 層環境では、リモート・データベース・マシンの完全修飾ホスト名を入力する必要があります。

- データベース・サービス TCP ポート (デフォルトを使用)

13. 「Payment Manager WebSphere Configuration Information (Payment Manager WebSphere 構成情報)」画面で、デフォルト・ノード名をそのまま受け入れるか (ただしマシンに対して正しいものである場合)、あるいは Payment Manager を実行するマシンの WebSphere Application Server ノード名を入力します。ノード名は、使用するマシンのノード名として WebSphere Application Server 管理コンソールに表示されるものと同じでなければなりません。
14. 「Installation Summary (インストールの要約)」画面で、選択されているパラメーターを確認します。「次へ」をクリックしてインストールを続行します。

注: インストール中に、進行状況表示バーが停止したように見えることがあります。それでもインストールは継続していますので、終了しないでください。システム・リソースの状態に応じて、進行状況表示バーが再び動くようになります。
15. 「IBM WebSphere Payment Manager 3.1.2 Readme」ウィンドウがオープンします。「次へ」をクリックして続行します。
16. Payment Manager のインストールが完了します。
17. システムを再始動します。

Windows のショートカット

インストールの一部として、Windows の「スタート」メニューにショートカットを指定できます。これらのショートカットを使用して、以下のことを行えます。

- Payment Manager へのログオン
- README ファイルの表示 (まだ行っていない場合)
- Payment Manager のアンインストール
- IBM Web サイトの Payment Manager 製品資料の表示

インストール後のステップ

オペレーティング・システムに IBM Payment Manager 3.1.2 をインストールしたなら、必要に応じて以下のことを実行します。

- Payment Manager で使う予定の決済カセットをインストールします。

決済カセットをインストールする前に、以下のことを行います。

 - WebSphere Application Server と Web サーバーが、162 ページの『WebSphere Application Server の開始および停止』および 162 ページの『IBM HTTP Server の開始および停止』で示されているように、開始済みであることを確認します。
 - 実行中の場合は、WebSphere Application Server 管理コンソールから WebSphere Payment Manager Application Server を停止します。これは、決済カセットのインストール・プログラムが Payment Manager 用の構成ファイルを更新できるようにするためです。複数のタイプのカセットをインストールする場合は、各カセットを

インストールする前に Payment Manager アプリケーションを停止してください。
詳しくは、163 ページの『Payment Manager の開始および停止』を参照してください。

Payment Manager と共にインストールされる CustomOffline Cassette または OfflineCard Cassette の使用については、*Payment Manager for Multiplatforms 管理者ガイド* をご覧ください。

その他の決済カセットのインストールについては、インストールするカセット用の補足資料をご覧ください。IBM カセットについては、以下の資料をご覧ください。

- *IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms Cassette for SET* 補足 (PDF ファイル形式、paymgrset.pdf)
- *IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms Cassette for VisaNet Supplement* (PDF ファイル形式、paymgrvisanet.pdf)
- *IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms Cassette for CyberCash* 補足 (PDF ファイル形式、paymgrcyber.pdf)
- *IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms Cassette for BankServACH Supplement* (PDF ファイル形式、paymgrbank.pdf)

サード・パーティー製のカセットについては、カセットに付属の情報をご覧ください。

Lotus Domino Server の構成

Lotus Domino Server リリース 5 を Payment Manager とともに使用する場合、Payment Manager をインストールした後 (しかし、Payment Manager ユーザー・インターフェースに初めてログインする前)、ユーザー admin を Lotus Domino Server に追加する必要があります。ユーザー admin を Domino ディレクトリーに追加するには、以下のようにします。

1. Web ブラウザーで以下のコマンドを入力します。
`http://host_name/webadmin.nsf`
2. 「**Directories (ディレクトリー)**」→「**People (人物)**」→「**Add Person (個人の追加)**」を選択します。
3. 「**姓**」フィールドに、admin と入力します。
4. 「**ユーザー名**」フィールドに、admin と入力します。
5. 「**Internet password (インターネット・パスワード)**」フィールドに、admin と入力します。

注: WebSphere Commerce 管理コンソールを介して Payment Manager にアクセスするには、デフォルトの WebSphere Commerce インスタンス管理者のユーザー ID およびパスワードを追加する必要があります。たとえば、wcsadmin のようにします。

Payment Manager ユーザーを追加するたびに、上記の説明に従って、最初に Lotus リリ

ース 5 にユーザーを追加する必要があります。 WebSphere レalmにユーザーを追加する必要もあります。 Payment Manager は WebSphere Application Server の下に独自のレalmを作成します。

ユーザーをレalmに追加するには、PSDefaultRealm.cmd を使用します。たとえば、コマンド・プロンプトに以下のように入力します。

```
PSDefaultRealm realm_file_name add userID password
```

ここで、*realm_file_name* は Payment Manager レalm・ファイル名 (たとえば、WCSRealm) で、*userID* および *password* は希望するユーザー ID およびパスワードです。

リモート Payment Manager の場合の構成

WebSphere Commerce 5.4 からリモートのシステムに IBM Payment Manager 3.1.2 をインストールした場合、IBM Payment Manager 3.1.2 は PSDefaultRealm を使用します。IBM Payment Manager 3.1.2 を WebSphere Commerce とともに使用する場合には、PSDefaultRealm ではなく WCSRealm を使用するように、IBM Payment Manager 3.1.2 システムを手動で構成しなければなりません。

これを行うには、(IBM Payment Manager 3.1.2 システム上で) 以下のステップに従ってください。

1. WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンします。
2. 次のようにして、WebSphere Payment Manager アプリケーション・サーバーにナビゲートし、アクセスします。
 - a. 「**WebSphere Administrative Domain (WebSphere 管理可能ドメイン)**」を拡張表示します。
 - b. 「**Nodes (ノード)**」を拡張表示します。
 - c. 「*node_name*」を拡張表示します。
 - d. 「**Application Servers (アプリケーション・サーバー)**」を拡張表示します。
 - e. 「**WebSphere Payment Manager**」を選択します。「**停止**」ボタンをクリックして、WebSphere Payment Manager アプリケーション・サーバーを停止します。
3. WebSphere Payment Manager アプリケーション・サーバーが停止した後、「**JVM Settings (JVM 設定)**」タブ・ページを選択します。「System Properties (システム・プロパティ)」ボックスで、`wpm.RealmClass` 初期化パラメーターを選択して値を変更します。
 - `com.ibm.etill.framework.payserverapi.PSDefaultRealm` を `com.ibm.commerce.payment.realm.WCSRealm` に置き換えます。値を変更したら、「**適用**」をクリックします。

4. IBM Payment Manager 3.1.2 システムで SSL を使用可能にする場合、 172 ページの『WebSphere Application Server のポート・ホスト別名の追加』の説明に従って、WebSphere Application Server 管理コンソールの default_host ウィンドウで *.443 エントリーを追加します。

注: SSL を使用可能にしない場合は、 WebSphere Commerce インスタンスの作成時に、 WebSphere Commerce 構成マネージャーの Payment Manager 設定ページ内で、 WebSphere Commerce サーバーが非 SSL Payment Manager クライアントを使用するよう構成しなければなりません。インスタンスを作成した後で Payment Manager 設定を変更することもできますが、変更内容を有効にするために、インスタンスを再始動する必要があります。

5. WebSphere Payment Manager ディレクトリーの WCSRealm.properties ファイルをオープンします。このファイルには、 WCSHostName と WCSWebPath の定義が含まれています。
6. WCSHostName について、 WebSphere Commerce がインストールされているリモート・マシンの完全修飾ホスト名を入力します。(このデフォルトは、 Payment Manager がインストールされているシステムのホスト名です。) WCSWebPath プロパティーに指定した値を変更する必要はありません。
7. 変更を有効にするために、 WebSphere Application Server 管理コンソールで、 WebSphere Payment Manager Application Server を始動します。

第 2 部 WebSphere Commerce の構成作業

このセクションでは、次のようなトピックを記載しています。

- 55 ページの『第 6 章 構成前のステップ』
- 63 ページの『第 7 章 構成マネージャーによるインスタンスの作成または変更』
- 93 ページの『第 8 章 構成後のステップ』

WebSphere Commerce を正常に構成するには、55 ページの『第 6 章 構成前のステップ』 および 93 ページの『第 8 章 構成後のステップ』にある適切なステップを完了する必要があります。インスタンスの作成は、構成マネージャー・ツールを使用して、63 ページの『第 7 章 構成マネージャーによるインスタンスの作成または変更』のステップに従って行います。

第 6 章 構成前のステップ

この章には、WebSphere Commerce インスタンスを構成する前に完了する必要がある作業のリストが載せられています。以下のリストの該当する項を完了してください。

- PATH の変更
- リモート・マシンでの Oracle の構成 (Oracle データベース・サーバーが WebSphere Commerce からリモートにある場合)
- iPlanet Web サーバー プラグイン・レベルのアップグレード (iPlanet Web サーバーユーザー)
- WebSphere Application Server の開始 (すべてのユーザー)

PATH の変更

PATH が正しく構成されていることを確認する必要があります。PATH が正しく構成されていることを確認するには、次のようにします。

1. Windows システム変数を調べて、以下のような行が PATH に入っていることを確認します。

```
drive:¥WebSphere¥AppServer¥java¥bin;
```

2. この行がない場合はコマンド行ウィンドウを開いて、次のようなコマンドを入力します。

```
set PATH=drive:¥WebSphere¥AppServer¥java¥bin;%PATH%
```

3. PATH が正しく設定されているかどうかをテストするには、以下を実行します。

```
java -fullversion
```

正しいバージョンのソフトウェアがインストール済みであることを知らせるメッセージが表示されます。

リモート・マシンでの Oracle の構成

リモート Oracle 構成を構成する前に、Oracle サーバー・マシン上で以下のようになっています。

1. Oracle Database 8.1.7 Enterprise Edition または Standard Edition サーバーが別個のマシンにインストールされ、WebSphere Application Server、WebSphere Commerce および Payment Manager で必要なデータベースと表スペースが作成されていることを確認します。

2. 11 ページの『第 2 章 Oracle データベースのインストール』で説明されているように、すべての Oracle ユーザーが作成され、それらのユーザーに特権が付与されていることを確認します。

リモート Oracle インストールの確認

Oracle データベースの接続を検査するために、Oracle クライアント・マシンから以下のステップを完了してください。

1. SQL*Plus を介して接続性を確認します。SQL*Plus を実行する前に Oracle ユーザー ID にログオンし、このコマンドの使用時にはパスワードに続けて @SID を指定してください。
2. JDBC クライアントを介して接続性を確認します。それには、次のステップを行います。
 - a. コマンド・プロンプトから、以下の JDBC デモンストレーション・ディレクトリーに移動します。

```
cd drive:¥oracle¥ora81¥jdbc¥demo
```

- b. ファイル demo.zip を同じディレクトリーに解凍します。samples サブディレクトリーが作成されます。

- c. 以下のディレクトリーに移動します。

```
cd drive:¥oracle¥ora81¥jdbc¥demo¥samples¥thin¥basic
```

- d. Employee.java ファイルのバックアップ・コピーを作成します。

```
copy Employee.java Employee.java.bak
```

- e. Employee.java ファイルを編集して、以下の行を変更します。

```
Connection conn = DriverManager.getConnection  
("jdbc:oracle:thin:@dlsun511:1721:dbms733", "scott", "tiger");
```

これを、以下のように変更します。

```
Connection conn = DriverManager.getConnection  
("jdbc:oracle:thin:@database_hostname:1521:ORACLE_SID",  
"db_userid", "password");
```

各値の意味は以下のとおりです。

database_hostname

Oracle を実行しているサーバーのホスト名。

ORACLE_SID

Oracle インスタンス名。この値を調べるには、Oracle データベース管理者 (DBA) としてデータベース・サーバーにログオンして、コマンド・プロンプトから以下のコマンドを実行します。


```
sqlplus system/manager
connect internal
select instance_name from v$instance;
exit
```

戻される instance_name が *ORACLE_SID* です。あるいは、Server Manager (svrmgrl) その他のツールを使用して、上記のコマンドを実行することもできます。

1521 Oracle リスナー用のデフォルト・ポート番号

db_userid

任意の Oracle データベース・ユーザー ID (たとえば SYSTEM)

password

db_userid に関連付けられたパスワード (たとえば MANAGER)

上記の例では、表示上の理由で、行を分けていることに注意してください。

f. さらに、Employee.java の中で以下の行を変更します。

```
ResultSet rset = stmt.executeQuery ("select ENAME from EMP");
```

これを、以下のように変更します。

```
ResultSet rset = stmt.executeQuery ("select sysdate from dual");
```

g. Employee.java をコンパイルする前に、クラス・パス

drive:¥oracle¥ora81¥jdbc¥lib¥classes12.zip が存在することを確認してください。

h. Java プログラムをコンパイルします。コマンド・プロンプトから、以下のように入力します。

```
javac Employee.java
```

i. エラーが発生せずにコンパイルが完了したら、以下のようにしてプログラムを実行します。

```
java Employee
```

j. プログラムは、現在日付を出力します。

Oracle 接続のチェックが終わったら、63 ページの『第 7 章 構成マネージャーによるインスタンスの作成または変更』の説明に従って WebSphere Commerce インスタンスを構成してください。

Microsoft IIS の構成

WebSphere Commerce インスタンスを作成する前に、Microsoft IIS を構成する必要があります。Microsoft IIS を構成するには、Web サーバー・マシンで以下のようになります。

1. Microsoft MetaEdit 2.2 Utility をダウンロードしてインストールします。このユーティリティーは次の Web サイトにあります。
http://www.microsoft.com/
2. 「検索」フィールドに (Q232068) を入力し、「進む」をクリックします。
3. 「**FILE: How to Download, Install, and Uninstall the IIS MetaEdit 2.2 Utility (Q232068)** (ファイル: **IIS MetaEdit 2.2 Utility** のダウンロード、インストール、およびアンインストールの方法 (Q232068))」リンクを選択し、Microsoft MetaEdit 2.2 Utility のインストールおよび構成の方法に関する指示に従います。
4. MetaEdit 2.2 Utility をオープンし、
HKEY LM¥W3SVC¥FilesePlugins¥FilterPath にあるパス名が長いパス名であることを確認します。たとえば、
drive:¥WebSphere¥AppServer¥bin¥iisWASPlugin_http.dll などとなります。
5. Microsoft IIS Server を構成するには、以下のようにします。
 - a. Microsoft IIS 5.0 を使用している場合、**IIS Default Web Site (IIS デフォルト Web サイト)** に追加された仮想パス名が長い名前であることを確認します。
 - 1) 「プログラム」>「管理ツール」>「インターネット サービス マネージャ」を選択します。
 - 2) 「host_name」を拡張表示します。
 - 3) 「既定の Web サイト」をクリックします。
 - 4) 以下のフィールドに表示されるパス名が長い名前であることを確認します。例として、デフォルトのパス名が以下に示されています。

表 3.

フィールド名	パス
sePlugins	drive:¥WebSphere¥AppServer¥bin
IBMWebAS	drive:¥WebSphere¥AppServer¥web
WSsamples	drive:¥WebSphere¥AppServer¥WSsamples¥
theme	drive:¥WebSphere¥AppServer¥WSsamples¥ images

パス名を変更するには、以下のようにします。

- a) 「既定の Web サイト」を拡張表示します。
- b) 別名を右クリックします。
- c) 「プロパティ」を選択します。
- d) 「参照」をクリックして、正しいパスを選択します。
- e) 「OK」をクリックします。
- f) 再び「OK」をクリックします。

g) それぞれの別名ごとに、ステップ 5a4b (58 ページ) ~ ステップ 5a4f (58 ページ) までを繰り返します。

5) 「適用」をクリックします。

6. マシンを再始動します。

7. WebSphere Application Server が開始されていることを確認します。

iPlanet Web サーバー・プラグイン・レベルのアップグレード

WebSphere Commerce インストール・プログラムは iPlanet Web サーバー プラグインのインストール後に WebSphere Application Server のレベルをアップグレードするため、プラグインを再インストールして、適切なレベルにする必要があります。iPlanet Web サーバーのプラグイン・レベルをアップグレードするには、iPlanet Web サーバー・マシンで以下のようにします。

1. `drive:¥WebSphere¥AppServer¥bin` ディレクトリーで、`plugin_common.dll` および `ns41_http.dll` のバックアップ・コピーを作成します。
2. 「コントロール パネル」の「サービス」ウィンドウで、iPlanet Web サーバー関連のサービスがすべて停止されていることを確認してください。
3. ここで、iPlanet Web サーバー ポート 443 に Webserver プラグインを構成する必要があります。プラグインをインストールするには、以下のようにします。
 - a. WebSphere Application Server, Advanced Edition CD を挿入してインストール・プログラムを実行し、**Webserver プラグイン**のみをインストールするよう選択します。
 - b. 「**WebSphere Application Server 4.0 構成 iPlanet Enterprise v4.0**」ウィンドウで、`https-host_name-https-443` だけを選択します。WebSphere Application Server Webserver プラグインのインストールを完了します。
4. ここで、iPlanet Web サーバー ポート 8000 に Webserver プラグインを構成する必要があります。プラグインをインストールするには、以下のようにします。
 - a. WebSphere Application Server, Advanced Edition CD を挿入してインストール・プログラムを実行し、**Webserver プラグイン**のみをインストールするよう選択します。
 - b. 「**WebSphere Application Server 4.0 構成 iPlanet Enterprise v4.0**」ウィンドウで、`https-host_name-https-8000` だけを選択します。WebSphere Application Server Webserver プラグインのインストールを完了します。
5. `plugin_common.dll` および `ns41_http.dll` のバックアップ・コピーを `drive:¥WebSphere¥AppServer¥bin` ディレクトリーにリストアします。

WebSphere Application Server の開始

WebSphere Application Server を開始するには、以下のようにします。

1. Administrator 権限を持つ Windows ユーザー ID でログインし、「サービス」ウィンドウをオープンします。「サービス」ウィンドウをオープンする方法については、161 ページの『「Windows サービス」パネルをオープンする』を参照してください。
2. データベースがデータベース・マシン上で開始済みであることを確認します。
3. Web サーバー・マシンで以下のようになります。
 - Web サーバーが WebSphere Application Server と同じマシンに置かれている場合は、Web サーバーが開始されていることを確認します。開始されていない場合は、それらのサービスを選択して、「開始」をクリックします。IBM HTTP Server の場合は、IBM HTTP Server サービスが開始されている必要があります。サービスが開始されない場合は、本書のトラブルシューティングの項を参照してください。
 - リモート Web サーバーを使用している場合、`drive:¥WebSphere¥AppServer¥config¥plugin-cfg.xml` ファイルを、WebSphere Commerce から Web サーバー・マシン上の同じディレクトリーおよびドライブ名にコピーする必要があります。Web サーバー上にこのディレクトリーが存在しない場合、作成してください。次に、Web サーバーを再始動します。
4. 「サービス」リストから、**IBM WS AdminServer** を選択します。
5. 「開始」をクリックします。

WebSphere Application Server を開始した後に、適切に作動しているか検査する必要があります。WebSphere Application Server が適切に作動しているか検査するには、以下のようになります。

1. 「スタート」→「プログラム」→「IBM WebSphere → Application Server V4.0」→「管理コンソール」を選択します。
2. 「WebSphere Administrative Domain (WebSphere 管理可能ドメイン)」→「ノード」→`Node_name`→「Application Servers (アプリケーション・サーバー)」の順に拡張表示します。
3. 「Default Server (デフォルト・サーバー)」を選択して、右マウス・ボタンでクリックします。「開始」を選択します。
4. Web ブラウザーをオープンして、以下の URL を入力します。

注: 3 層構成で WebSphere Commerce をインストール済みの場合、

`drive:¥WebSphere¥AppServer¥config¥plugin-cfg.xml` ファイルを、WebSphere Commerce から Web サーバー・マシン上の同じディレクトリーおよびドライブ名にコピーする必要があります。Web サーバー上にこのディレクトリーが存在しない場合、作成してください。次に、Web サーバーを再始動します。

`http://host_name/servlet/snoop`

テスト・サーブレットがエラーにならずに稼働している必要があります。

Default Server はテスト専用なので、いつでも除去してシステム・リソースを節約することができます。Default Server は WebSphere Commerce では不要なので、実動サーバー上で実行しないでください。

次のステップ

この章に示されている必要なステップがすべて完了したら、以下の章のステップを行うことによって、構成マネージャーを使ってインスタンスを作成できます。

- 63 ページの『第 7 章 構成マネージャーによるインスタンスの作成または変更』

第 7 章 構成マネージャーによるインスタンスの作成または変更

この章では、構成マネージャーを使用してインスタンスを作成または変更する方法について説明します。55 ページの『第 6 章 構成前のステップ』で説明されている手順を先に完了しないと、インスタンスを作成することはできません。

注:

1. IBM WebSphere Payment Manager 3.1.2 を使用してインスタンスのオンライン・トランザクションを処理するには、インスタンスを作成する前に Payment Manager をインストールしなければなりません。インスタンスは、自動的に Payment Manager を処理するように構成されます。Payment Manager をインストールする方法については、43 ページの『第 5 章 IBM WebSphere Payment Manager 3.1.2 のインストール』を参照してください。
2. XMLConfig.bat ファイル (通常 `drive:¥WebSphere¥AppServer¥bin` ディレクトリーにある) をカスタマイズしてある場合は、構成マネージャーを実行する前に、そのカスタマイズを除去する必要があります。除去しないと、WebSphere Application Server 中の WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーのセットアップが失敗します。
3. WebSphere Application Server 4.0.2 では、単一の WebSphere Commerce サーバーは、インストールされた EJB モジュール、および 1 つ以上のストアへのクライアント要求の役割を果たす、インストールされた Web モジュールから構成されます。WebSphere Commerce 構成マネージャーでは、個々の WebSphere Commerce インスタンスは、インスタンス・ツリー中の別々のルート・カテゴリーとして表示されます。WebSphere Application Server のトポロジー・ビューでは、WebSphere Commerce インスタンスは、別個の WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーとしてノード・エントリーの下に表示されます。

この章のチェックリスト

- データベース・サーバーが実行中であることを確認します。
- Web サーバーが WebSphere Commerce と同じマシンにインストールされている場合は、Web サーバーが実行中であることを確認します。
- Windows の「サービス」パネルをオープンして、「**IBM WC 構成マネージャー・サーバー**」を選択し、**IBM WC 構成マネージャー・サーバー**のサービスが開始されていることを確認します。サービスが停止している場合は、「**開始**」を選択します。

重要

IBM WC 構成マネージャー・サーバー・サービスが実行されていると、セキュリティ上の問題が発生することがあります。構成マネージャーを使用しないときは、**WC 構成マネージャー・サーバー・サービス**を停止してください。

セキュリティ上の問題が発生しないようにするためには、さらに **IBM WC 構成マネージャー・サーバー**のスタートアップの種類が「自動」ではなく「手動」に設定されていることを確認してください。

- WebSphere Application Server が開始されていることを確かめます。サーバーを開始するには、「サービス」ウィンドウをオープンし、「**IBM WS AdminServer V4.0**」を選択して、「開始」をクリックします。

重要: WebSphere Application Server セキュリティをオンにしている場合は、インスタンスを作成する前に使用不可にしなければなりません。

構成マネージャーの起動

構成マネージャーにアクセスするには、以下のステップを完了します。

1. **IBM WC 構成マネージャー・サーバー**のプロセスが実行されていることを、「サービス」パネルで確認します。

重要

IBM WC 構成マネージャー・サーバー・サービスが実行されていると、セキュリティ上の問題が発生することがあります。構成マネージャーを使用しないときは、**WC 構成マネージャー・サーバー・サービス**を停止してください。

セキュリティ上の問題が発生しないようにするためには、さらに **IBM WC 構成マネージャー・サーバー**のスタートアップの種類が「自動」ではなく「手動」に設定されていることを確認してください。

2. 「スタート」メニューから、「プログラム」 → 「**IBM WebSphere Commerce**」 → 「構成」を選択します。
3. 構成マネージャーのユーザー ID とパスワードを入力します。構成マネージャーのデフォルト・ユーザー ID は webadmin、パスワードは webibm です。
4. 初回ログイン時に、パスワードを変更するよう促されます。あとでユーザー ID またはパスワードを変更するには、169 ページの『構成マネージャー・パスワードの変更』を参照してください。

インスタンス作成ウィザード

インスタンスを作成するには、WebSphere Commerce 構成マネージャーで以下のようにします。

1. ホスト名を拡張表示します。
2. 「インスタンス・リスト」をマウスの右ボタンでクリックします。
3. 表示されるポップアップ・メニューで、「インスタンスの作成」を選択します。
4. 「インスタンス作成ウィザード」がオープンします。以下の各パネルのフィールドに入力してください。

インスタンス

インスタンス名

インスタンスのために使用する名前。デフォルトの名前は `demo` です。

インスタンスのルート・パス

WebSphere Commerce インスタンスに関連するすべてのファイルを保存するパスを入力します。デフォルトのパスは、

`drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥instances¥instance_name` です。

マーチャント・キー

これは、構成マネージャーが暗号鍵として使用する 16 桁の 16 進数です。

「マーチャント・キー」フィールドには、**ユーザー独自の鍵を入力してください**。特に実動サーバーの場合、サイト保護に十分な鍵を入力するようにしてください。ストアを作成した後は、この鍵を変更できるのは、**データベース更新ツール**を使用する場合だけです。このツールを使用するには、構成マネージャーにアクセスし、データベース・ノードをマウスの右マウス・ボタン・クリックして、「**データベース更新ツール**」を選択します。

PDI 暗号化

このチェック・ボックスは、ORDPAYINFO と ORDPAYMTHD のテーブルに指定された情報を暗号化することを指定するのに使います。このチェック・ボックスを選択すると、支払い情報がデータベースに暗号化された形式で保管されます。

PVC ヘッダー使用可能

将来のリリースのために予約済み。

URL マッピング・ファイル

URL マッピングのために使用するファイルのパスを入力します。デフォルトのファイル `drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥xml¥mapping¥urlmapper.xml` をそのまま使用することもできます。

データベース

データベース名

データベースに割り当てる名前を入力するか、またはデフォルトを受け入れません。

Oracle の場合は、Oracle のインストール時に定義した WebSphere Commerce グローバル・データベース名を入力します (たとえば ORCL)。

Oracle SID

セクション 3 (12 ページ) で、WebSphere Commerce サーバーが使用するために作成した、データベースの SID を入力します。

データベース・タイプ

ドロップダウン・リストから、使用する予定のデータベース管理システムの名前を選択します。

データベース・ユーザー名

Oracle の場合は、11 ページの『第 2 章 Oracle データベースのインストール』で作成した Oracle ユーザー ID を使用します。

データベース・ユーザー・パスワード

上記のデータベース・ユーザー名に関連したパスワードです。

ステージング・サーバーの使用

「ステージング・サーバーの使用」を選択すると、構成マネージャーは、このデータベースをステージング・サーバーで使用するものとして定義します。ステージング・サーバーについては、WebSphere Commerce のオンライン情報をご覧ください。(その情報にアクセスする方法については、185 ページの『オンライン・ヘルプの使用』を参照してください。)

アクティブ・データベースとして設定

WebSphere Commerce インスタンスでこのデータベースを使用する場合、このオプションをオンにします。インスタンスとして別のデータベースを使用する場合は、このオプションを使用不可にします。

リモート・データベースの使用

データベース・サーバーが WebSphere Commerce とは異なるノード上にある場合は、このチェック・ボックスを使用可能にします。

注: WebSphere Commerce と異なるノードにデータベース・サーバーをインストールしている場合 (たとえば、2 層または 3 層環境を構成する場合)、このチェック・ボックスを選択する必要があります。

データベース・サーバー・ホスト名

このフィールドは、「リモート・データベースの使用」を選択した場合に使用可能です。データベースが存在するノードの完全修飾ホスト名を入力します。

データベース・サーバー・ポート

このフィールドは、「リモート・データベースの使用」を選択した場合に使用可能です。Oracle のデフォルト・ポートは、1521 です。

言語

構成マネージャーの「言語」パネルは、必要なすべての言語をサポートするようにデータベースを構成する場合に使います。ドロップダウン・リストからデフォルトの言語を選択します。デフォルトの言語に一致する `wcs.bootstrap_multi_xx_XX.xml` ファイルが「選択言語」ウィンドウに表示されるはずですが、追加言語へのサポートをデータベースに追加するには、以下のステップを完了します。

1. 「使用可能な言語」ウィンドウから、該当する言語の `.xml` ファイルを選択します。`.xml` ファイルは、`wcs.bootstrap_multi_xx_XX.xml` という形式です (`xx_XX` は選択する言語の 4 文字のロケール・コード)。
2. 「選択言語」ウィンドウを指す矢印をクリックします。選択した言語が「選択言語」ウィンドウに表示されます。
3. ステップ 1 と 2 を、サポートの必要な言語ごとに実行します。

注: 複数の言語をサポートするストア、たとえば英語でもスペイン語でも使用可能なストアを作成しようとする場合、ストアがサポートするすべての言語を選択する必要があります。その場合、「選択言語」ウィンドウに英語とスペイン語の両方が示されていなければなりません。WebSphere Commerce に付属しているサンプル・ストアは複数の言語をサポートしています。「言語」パネルで言語を 1 つしか選択しない場合、複数の言語をサポートしていないサンプル・ストアの部分は表示されません。

Web サーバー

リモート Web サーバーの使用

Web サーバーを WebSphere Commerce サーバーとは別のマシンにインストールする場合は、このチェック・ボックスを選択します。このボックスが選択されると、Web サーバーは構成マネージャーでは構成されません。このチェック・ボックスを選択した場合は、93 ページの『第 8 章 構成後のステップ』の説明に従って、Web サーバー・マシンを手動で構成する必要があります。

注: WebSphere Commerce とは異なるノードに Web サーバーをインストールする場合 (たとえば、3 層環境を構成する場合)、このチェック・ボックスを選択する必要があります。

ホスト名

デフォルトを受け入れるか、または Web サーバー・マシンの完全修飾ホスト名を入力します (完全修飾名は `hostname.domain.com` という形式です)。デフォルトは、WebSphere Commerce マシンのホスト名です。ホスト名のフィールド

ドに `www` 接頭部は入力しないでください。デフォルト・ホスト名を受け入れる場合は、そのデフォルト・ホスト名が完全修飾名であることを確認してください。

Web サーバー・タイプ

ドロップダウン・リストから、使用する予定の Web サーバー・ソフトウェアを選択します。

1 次文書ルート

Web サーバーの文書ルートのパスとして、デフォルトをそのまま受け入れるか、または入力します。入力するパスは、既存のパスでなければなりません。

サーバー・ポート

WebSphere Commerce サーバーで使用するポート番号を入力します。デフォルト値は、80 です。

認証モード

この WebSphere Commerce インスタンスで使用する認証モードを選択します。選択肢は以下のとおりです。

基本 認証は、カスタム証明書を使って実行されます。

X.509 認証は、X.509 証明書規格を使って実行されます。

セキュア・サーバー構成パス

セキュア Web サーバー (ポート 443) 用の `obj.conf` ファイルのディレクトリー・パスを入力します。このフィールドは、Web サーバーとして Netscape iPlanet を使用する場合のみ表示されます。リモート Web サーバーをご使用の場合には、このフィールドは表示されません。

非セキュア・サーバー構成パス

非セキュア Web サーバー (ポート 80) 用の `obj.conf` ファイルのディレクトリー・パスを入力します。このフィールドは、Web サーバーとして Netscape iPlanet を使用する場合のみ表示されます。リモート Web サーバーをご使用の場合には、このフィールドは表示されません。

セキュア・ツール・サーバー構成パス

このフィールドは、Netscape iPlanet を Web サーバー (ポート 8000) として選択した場合のみ表示されます。Netscape iPlanet セキュア・ツール・サーバーの `obj.conf` ファイルの絶対パスを入力します。リモート Web サーバーをご使用の場合には、このフィールドは表示されません。

WebSphere

データ・ソース名

WebSphere Commerce が作業するデータベースにアクセスするための接続プールのセットアップに使用します。

ポート番号

WebSphere Application Server が listen するポート・アドレスを入力します。
WebSphere Application Server の開始時に別のポートを指定していなければ、デフォルトを受け入れることができます。

JDBC ドライバーの場所

JDBC ファイル (classes12.zip) の位置を入力します。

ストア Web アプリケーション

WebSphere Application Server において WebSphere Commerce Server の下にデフォルトのストア Web アプリケーションを構成する場合、これを選択します。

ツール Web アプリケーション

WebSphere Application Server において WebSphere Commerce Server の下にデフォルトのツール Web アプリケーションを構成する場合、これを選択します。

ツールのポート番号

WebSphere Commerce の管理ツールへのアクセスに使用されるポート番号。デフォルト・ポート番号は、8000 です。Domino Web サーバーをご使用の場合は、このポート番号を 443 に変更する必要があります。

WebSphere Catalog Manager

このチェック・ボックスを選択すると、WebSphere Catalog Manager WebEditor がインストールされます。これには、https://host_name:8000/wcm/webeditor からアクセスすることができます。これはデフォルトでインストールされます。

Payment Manager

ホスト名

Web サーバー・マシンの完全修飾ホスト名を入力します。デフォルトは、WebSphere Commerce のホスト名です。Payment Manager または Web サーバーを WebSphere Commerce からリモート・インストールした場合、その Payment Manager が使用する Web サーバー・マシンの完全修飾ホスト名をこのフィールドに必ず入れてください。

プロファイル・パス

WebSphere Commerce Payment Manager Cashier の標準のプロファイルの保存先ディレクトリーの絶対パス名。デフォルト値は `drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥instances¥instance_name¥xml¥ payment` です。

非 SSL Payment Manager クライアントの使用

WebSphere Commerce に非 SSL Payment Manager クライアントを使用して Payment Manager サーバーと通信させる場合は、このチェック・ボックスをオ

ンにします。それにより、WebSphere Commerce は、SSL を使わずに Payment Manager と通信できるようになります。

Web サーバー・ポート

Payment Manager が使用する Web サーバーの TCP ポートを入力します。「非 SSL Payment Manager クライアントの使用」チェック・ボックスを選択した場合、このフィールドのデフォルト値は 80 (非セキュア・ポート) です。「非 SSL Payment Manager クライアントの使用」チェック・ボックスをオンにしなかった場合、このフィールドのデフォルト値は 443 (SSL ポート) です。

Socks サーバーの使用

WebSphere Commerce が Payment Manager にアクセスするために Socks サーバーが必要な場合、このチェック・ボックスをオンにします。

Socks ホスト名

このフィールドは、「**Socks サーバーの使用**」チェック・ボックスを選択した場合に使用可能になります。Socks サーバーの完全修飾ホスト名を入力してください。

Socks ポート番号

このフィールドは、「**Socks サーバーの使用**」チェック・ボックスを選択した場合に使用可能になります。Socks サーバーが使用するポート番号を入力してください。

ログ・システム

トレース・ファイルの場所

これは、デバッグ情報の収集先となるファイルの場所です。その中には、英語のデバッグ・メッセージが入れられます。注: 「トレース・ファイルの場所」が「メッセージ・ファイルの場所」と同じときは、それらのファイルの内容はマージされます。

トレース・ファイル・サイズ

これは、トレース・ファイルの最大サイズ (MB) です。トレース・ファイルがこのサイズに達すると、別のトレース・ファイルが作成されます。

メッセージ・ファイルの場所

これは、WebSphere Commerce システムの状態を記述するメッセージの収集先ファイルの場所です。メッセージは、ロケールに依存します。注: 「トレース・ファイルの場所」が「メッセージ・ファイルの場所」と同じときは、それらのファイルの内容はマージされます。

メッセージ・ファイル・サイズ

これは、メッセージ・ファイルの最大サイズ (MB) です。メッセージ・ファイルがこのサイズに達すると、追加のメッセージ・ファイルが作成されます。

アクティビティー・ログ・キャッシュ・サイズ

アクティビティー・ログのキャッシュの最大サイズを入力します。

通知使用可能

エラー・レベル・メッセージが通知されるようにする場合には、このチェック・ボックスを選択します。それらのメッセージを受け取るには、WebSphere Commerce 管理コンソールでも通知情報を変更する必要があります。

メッセージング

ユーザー・テンプレート・ファイル

これは、新しいインバウンド XML メッセージがシステムでサポートされるようにするための XML メッセージ・テンプレート定義ファイルの名前です。このファイルには、サポートする新しい XML メッセージごとに 1 つのアウトラインを追加する必要があります。テンプレート・パス・ディレクトリーに保存されるデフォルトの `user_template.xml` を使用することをお勧めします。

インバウンド・メッセージ DTD パス

これは、インバウンド XML メッセージのすべての DTD ファイルの保存先となるパスです。デフォルトは `drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥xml¥messaging` です。

WebController ユーザー ID

これは、すべての WebSphere Commerce MQSeries® アダプター・インバウンド・メッセージを実行するために WebSphere Commerce が使用する ID です。この ID は、サイト管理者権限が付与されたものでなければなりません。デフォルトは `wcsadmin` です。ユーザー・テンプレート・ファイルとシステム・テンプレート・ファイルを更新するための権限は、許可された人だけに付与されるようにしてください。というのは、この ID の使用により WebSphere Commerce コマンドを実行するためにインバウンド XML メッセージをマッピングできるからです。

システム・テンプレート・ファイル

これは、WebSphere Commerce MQSeries アダプターによってサポートされるすべてのインバウンド XML メッセージのアウトラインを含む XML メッセージ・テンプレート定義ファイルの名前です。このファイルは、メッセージを該当する WebSphere Commerce コントローラー・コマンドにマッピングし、メッセージ内の各フィールドをそのコマンドの該当するパラメーターにマッピングすることにより、各メッセージのデータ・フィールドを定義します。テンプレート・パス・ディレクトリーに保存されるデフォルトの `sys_template.xml` を使用することをお勧めします。

テンプレート・パス

これは、ユーザー・テンプレート・ファイルとシステム・テンプレート・ファイルの保存先のパスです。デフォルトは `drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥xml¥messaging` です。

インバウンド・メッセージ DTD ファイル

これは、インバウンド XML メッセージのための DTD および組み込みファイルのリストです。新しいインバウンド XML メッセージを追加する場合は、それをこのフィールドに追加する必要があります。

オークション

オークションを使用可能にする

オークションを使用可能にする場合、「使用可能」チェック・ボックスを選択します。

SMTP サーバー

E メール・メッセージを受け取るのに使う SMTP サーバーを定義します。

応答 E メール

送信側の E メール情報を定義します。

インスタンス作成の開始

すべてのパネルに必要な情報を入力したなら、「終了」ボタンが使用可能になります。「終了」をクリックすると、WebSphere Commerce インスタンスが作成されます。

Oracle データベースにデータを取り込むかどうかを尋ねられます。データベースを取り込む場合は「はい」を、データベースを取り込まない場合は「いいえ」を選択します。

システムの速度によって、インスタンスの作成に数分から数時間かかることがあります。インスタンス作成が開始されると進行状況表示バーが表示されます。プロセスが完了すると、そのことが進行状況表示バーに示されます。インスタンスが作成されると WebSphere Commerce は、そのインスタンスに関連する WebSphere Commerce Server の開始を試行します。この試行が正常に完了したら、「OK」をクリックして、「インスタンス作成」ウィザードをクローズしてから、コンピューターを再始動します。

インスタンス作成の検証

インスタンスが正しく作成されたことを確認するには、以下のファイルを調べます。

- `drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥instances¥instance_name¥xml¥instance_name.xml`。このファイルには、作成される WebSphere Commerce インスタンスについての構成情報がすべて入れられます。
- `drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥instances¥instance_name¥logs¥createdb.log`。このファイルには、WebSphere Commerce データベース作成に関する情報が入れられます。
- `drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥instances¥instance_name¥logs¥populatedb.log`。このファイルには、WebSphere Commerce データベース移植処理に関する情報が入れられます。

- `drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥instances¥instance_name¥logs¥WASConfig.log`。
このファイルには、WebSphere Application Server 中の新規 WebSphere Commerce インスタンスのインストールと構成に関する情報が入れられます。
- `drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥instances¥instance_name¥logs¥sec_check.log`。
このファイルには、機密漏れの可能性に関する情報が入れられます。
- `drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥instances¥instance_name¥logs¥wcs.log`。このファイルには、WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーの操作に関する情報が記録されます。このログを使用して、サーバーが正しく開始されたことを確認してください。

インスタンスの開始と停止

インスタンスが作成されると、インスタンスは自動的に開始されます。あとでインスタンスを変更する場合は、WebSphere Application Server 管理コンソールで、インスタンスの停止と再始動を行う必要があります。そのためには、以下のステップを完了します。

1. 「スタート」メニューから、WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンします。
2. **WebSphere Administrative Domain (WebSphere 管理可能ドメイン)** を拡張表示します。
3. 「ノード」を拡張表示します。
4. ホスト名を拡張表示します。
5. 「**Application Servers (アプリケーション・サーバー)**」を拡張表示します。
6. 「**WebSphere Commerce Server**」 - 「`instance_name`」を選択し、右マウス・ボタン・クリックします。必要に応じて「**開始**」または「**停止**」を選択します。

構成の追加オプション

基本インスタンスを作成して開始したら、以下のノードで、WebSphere Commerce をさらに構成することができます。

インスタンス・プロパティ

インスタンス作成ウィザードで使用可能だったすべてのパネルが、「構成マネージャー」の「インスタンス・プロパティ」ノードの下に表示されます。以下のパネルは新規のものか、または「インスタンス作成ウィザード」パネルから変更されたものです。

データベース

構成マネージャーの「データベース」パネルを使用して、WebSphere Commerce を特定のデータベースで作業するように構成します。以下のようにフィールドに入力します。

データベース管理者名

データベース管理者の名前を入力します。

データベース管理者パスワード

データベース管理者のパスワードを入力します。

データベース名

このインスタンス用に作成するデータベースの名前を入力するか、または作成するインスタンスに関連付ける既存のデータベースの名前を入力します。

データベース・タイプ

データベース管理システムとして使用する製品を選択します。

データベース・ユーザー名

このデータベースのユーザー名を入力します。データベース管理システムとして Oracle を使用する場合は、データベースのインストール時に作成したユーザー名を入力します。

データベース・ユーザー・パスワード

このデータベースのユーザー名に関連付けられているパスワードを入力します。

ステージング・サーバーの使用

このデータベースをステージング・サーバーに使用する場合は、このチェック・ボックスを選択します。

アクティブ・データベースとして設定

このデータベースが WebSphere Commerce インスタンスで使用するデータベースの場合は、このチェック・ボックスを選択します。インスタンスの作成後、追加のデータベースを複数作成して、インスタンスで使用するものを選択することができます。

リモート・データベースの使用

データベース・サーバーが WebSphere Commerce と異なるノード上にある場合は、このチェック・ボックスを使用可能にします。

注: WebSphere Commerce と異なるノードにデータベース・サーバーをインストールしている場合、このチェック・ボックスを選択する必要があります。それはたとえば、2 層または 3 層環境を構成する場合です。

データベース・サーバー・ホスト名

このフィールドは、「リモート・データベースの使用」を選択した場合に使用可能です。データベースが存在するノードの完全修飾ホスト名を入力します。

データベース・サーバー・ポート

このフィールドは、「リモート・データベースの使用」を選択した場合に使用可能です。Oracle のデフォルト・ポートは、1521 です。

WebSphere

構成マネージャーの「WebSphere」パネルを使用して、WebSphere Application Server が WebSphere Commerce と対話する方法を構成します。以下のようにフィールドに入力します。

データ・ソース名

WebSphere Commerce が作業するデータベースにアクセスするための接続プールのセットアップに使用します。

ポート番号

WebSphere Application Server が接続されているポート・アドレスを入力します。WebSphere Application Server の開始時に別のポートを指定していなければ、デフォルトを受け入れることができます。

JDBC ドライバーの場所

JDBC ファイル (名前は classes12.zip) の場所を入力します。

ストア Web アプリケーション

WebSphere Application Server において WebSphere Commerce Server の下にデフォルトのストア Web アプリケーションを構成する場合、これを選択します。

ツール Web アプリケーション

WebSphere Application Server において WebSphere Commerce Server の下にデフォルトのツール Web アプリケーションを構成する場合、これを選択します。

ツールのポート番号

WebSphere Commerce の管理ツールへのアクセスに使用されるポート番号。デフォルト・ポート番号は、8000 です。Domino Web サーバーをご使用の場合は、このポート番号を 443 に変更する必要があります。

WebSphere Catalog Manager

このチェック・ボックスを選択すると、WebSphere Catalog Manager WebEditor がインストールされます。これには、`http://host_name:8000/webeditor` でアクセスすることができます。これはデフォルトでインストールされます。

Web サーバー

「Web サーバー」パネルの「一般」タブには、「インスタンス作成」ウィザードで表示されるバージョンのパネルと同じパラメーターが示されています。

構成マネージャーの「Web サーバー」パネルを使って、WebSphere Commerce を Web サーバーを使用するように構成します。以下のようにフィールドに入力します。

リモート Web サーバーの使用

Web サーバーを WebSphere Commerce サーバーとは別のマシンにインストールする場合は、このチェック・ボックスを選択します。このボックスが選択されると、Web サーバーは構成マネージャーでは構成されません。このチェッ

ク・ボックスを選択した場合は、93 ページの『第 8 章 構成後のステップ』の説明に従って、Web サーバー・マシンを手動で構成する必要があります。

注: WebSphere Commerce と異なるノードに Web サーバーをインストールした場合、このチェック・ボックスを選択する必要があります。それはたとえば、3 層環境を構成する場合です。

ホスト名

WebSphere Commerce インスタンスの完全修飾ホスト名を入力します (完全修飾は `hostname.domain.com` という形式です)。「ホスト名」フィールドに `www` を入力しないでください。デフォルトは、Web サーバーがインストールされているマシンの完全修飾ホスト名です。

Web サーバー・タイプ

ドロップダウン・リストから、使用する Web サーバー・ソフトウェアを選択します。

1 次文書ルート

Web サーバーの文書ルートのパスとして、デフォルトをそのまま受け入れるか、または入力します。入力するパスは、既存のパスでなければなりません。

サーバー・ポート

Web サーバーが実行されるポート番号を入力します。デフォルト値は、80 です。

認証モード

この WebSphere Commerce インスタンスで使用する認証モードを選択します。選択肢は以下のとおりです。

- 基本認証は、カスタム証明書を使って実行されます。
- X509 認証は、X509 証明書規格を使って実行されます。

セキュア・サーバー構成パス

セキュア Web サーバー (ポート 443) 用の `obj.conf` ファイルのディレクトリ・パスを入力します。このフィールドは、Web サーバーとして Netscape iPlanet を使用する場合のみ表示されます。リモート Web サーバーをご使用の場合には、このフィールドは表示されません。

非セキュア・サーバー構成パス

非セキュア Web サーバー (ポート 80) 用の `obj.conf` ファイルのディレクトリ・パスを入力します。このフィールドは、Web サーバーとして Netscape iPlanet を使用する場合のみ表示されます。リモート Web サーバーをご使用の場合には、このフィールドは表示されません。

セキュア・ツール・サーバー構成パス

このフィールドは、Netscape iPlanet を Web サーバー (ポート 8000) として選択した場合のみ表示されます。Netscape iPlanet セキュア・ツール・サーバー

の `obj.conf` ファイルの絶対パスを入力します。リモート Web サーバーをご使用の場合には、このフィールドは表示されません。

「**拡張**」タブには、すべての Web サーバーの別名のリストが含まれています。新規の別名を追加するには、「**拡張**」タブを選択し、マウスの右ボタンでクリックして、「**Add row (行の追加)**」を選択します。別名を削除するには、削除したい別名を選択し、マウスの右ボタンでクリックして、「**Delete row (行の削除)**」を選択します。

インスタンス

構成マネージャーの「インスタンス」パネルは、インスタンスに関する基本情報を指定するときに使用します。複数のインスタンスを作成する場合は、各インスタンスが異なる名前とルート・パスを持つようにしてください。

インスタンス名

WebSphere Commerce インスタンスに付ける名前を入力します。デフォルト名 `"demo"` を受け入れることもできます。この名前はあとで変更できないため、慎重に選んでください。

インスタンスのルート・パス

WebSphere Commerce インスタンスに関連するすべてのファイルを保存するパスを入力します。インスタンスが作成されたら、このパスを変更することはできません。デフォルト・パスは次のとおりです。

```
drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥instances¥instance_name
```

PDI 暗号化

ORDPAYINFO および ORDPAYMTHD テーブルに指定された情報を暗号化するには、このチェック・ボックスを選択します。このチェック・ボックスを選択すると、支払い情報がデータベースに暗号化された形式で保管されます。

PVC ヘッダー使用可能

将来のリリースのために予約済み。

URL マッピング・ファイル

URL マッピングのために使用するファイルのパスを入力します。デフォルトのファイル `drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥properties¥urlmapper.xml` をそのまま使用することもできます。

Payment Manager

ホスト名

Web サーバー・マシンの完全修飾ホスト名を入力します。デフォルトは WebSphere Commerce ホスト名です。リモート・マシンに Payment Manager をインストールしている場合は、このフィールドには Web サーバー・マシンの完全修飾ホスト名を入れてください。

プロファイル・パス

WebSphere Commerce Payment Manager Cashier の標準のプロファイルの保存

先ディレクトリーの絶対パス名。デフォルト値は
`drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥instances¥instance_name¥xml¥payment` です。

非 SSL Payment Manager クライアントの使用

WebSphere Commerce に非 SSL Payment Manager クライアントを使用して Payment Manager サーバーと通信させる場合は、このチェック・ボックスをオンにします。それにより、WebSphere Commerce Server は、SSL を使わずに Payment Manager と通信できるようになります。

Web サーバー・ポート

Payment Manager が使用する Web サーバーの TCP ポートを入力します。
「非 SSL Payment Manager クライアントの使用」をオンにした場合、このフィールドのデフォルト値は 80 (非セキュア・ポート) です。そのチェック・ボックスをオンにしなかった場合、このフィールドのデフォルト値は 443 (SSL ポート) です。

Socks サーバーの使用

WebSphere Commerce が Payment Manager にアクセスするために Socks サーバーが必要な場合、このチェック・ボックスをオンにします。

Socks ホスト名

このフィールドは、「**Socks サーバーの使用**」チェック・ボックスを選択した場合に使用可能になります。Socks サーバーの完全修飾ホスト名を入力してください。

Socks ポート番号

このフィールドは、「**Socks サーバーの使用**」チェック・ボックスを選択した場合に使用可能になります。Socks サーバーが使用するポート番号を入力してください。

メンバー・サブシステム

構成マネージャーの「メンバー・サブシステム」パネルを使用して、WebSphere Commerce をディレクトリー・サーバーを使用するように構成します。

認証モード

「LDAP」、「データベース」、または「その他」を選択して、認証の代替モードを選択します。「LDAP」を選択すると、このパネルの他のフィールドは使用できません。

LDAP バージョン

WebSphere Commerce Server が LDAP サーバーとの通信に使用する LDAP プロトコルのバージョン。

LDAP タイプ

WebSphere Commerce で使用するディレクトリー・サーバーのソフトウェアを選択します。SecureWay Directory Server (WebSphere Commerce に組み込まれ

ています)、 Netscape のディレクトリー・サーバー・ソフトウェア、 Microsoft Active Directory、または Lotus Domino の中から選択します。

単一サインオン

WebSphere Application Server によってすでに認証済みのユーザーが WebSphere Commerce で認識されるようにするには、このチェック・ボックスを選択します。現時点では、単一サインオンは WebSphere Commerce によってサポートされていません。

ホスト LDAP サーバーがインストールされている場所を指定する完全修飾ホスト名。

ポート LDAP サーバーで使用されるポート。デフォルト・ポートは、389 です。

管理者識別名

LDAP サーバー管理者の識別名。

管理者のパスワード

LDAP サーバー管理者のパスワード。

確認パスワード

LDAP 管理者のパスワードを再入力します。

LDAP 認証モード

LDAP サーバーが使用する認証メカニズムを指定します。「なし」の場合は、WebSphere Commerce は LDAP サーバーに認証されないことになります。

「シンプル」の場合は、WebSphere Commerce は LDAP サーバーへの認証に識別名とパスワードを使用することになります。

タイムアウト

LDAP の検索がタイムアウトになるまでの時間 (秒数)。

エントリー・ファイル名

LDAP サーバーの初期設定に使用されるエントリー・ファイル。

メッセージング

ユーザー・テンプレート・ファイル

これは、新しいインバウンド XML メッセージがシステムでサポートされるようにするための XML メッセージ・テンプレート定義ファイルの名前です。このファイルには、サポートする新しい XML メッセージごとに 1 つのアウトラインを追加する必要があります。テンプレート・パス・ディレクトリーに保存されるデフォルトの user_template.xml を使用することをお勧めします。

インバウンド・メッセージ DTD パス

これは、インバウンド XML メッセージのすべての DTD ファイルの保存先となるパスです。デフォルトは

`drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥xml¥messaging` です。

WebController ユーザー ID

これは、すべての WebSphere Commerce MQSeries アダプター・インバウン

ド・メッセージを実行するために WebSphere Commerce が使用する ID です。この ID は、サイト管理者権限が付与されたものでなければなりません。デフォルトは `wcsadmin` です。ユーザー・テンプレート・ファイルとシステム・テンプレート・ファイルを更新するための権限は、許可された人だけに付与されるようにしてください。というのは、この ID の使用により WebSphere Commerce コマンドを実行するためにインバウンド XML メッセージをマッピングできるからです。

システム・テンプレート・ファイル

これは、WebSphere Commerce MQSeries アダプターによってサポートされるすべてのインバウンド XML メッセージのアウトラインを含む XML メッセージ・テンプレート定義ファイルの名前です。このファイルは、メッセージを該当する WebSphere Commerce コントローラー・コマンドにマッピングし、メッセージ内の各フィールドをそのコマンドの該当するパラメーターにマッピングすることにより、各メッセージのデータ・フィールドを定義します。テンプレート・パス・ディレクトリーに保存されるデフォルトの `sys_template.xml` を使用することをお勧めします。

テンプレート・パス

これは、ユーザー・テンプレート・ファイルとシステム・テンプレート・ファイルの保存先のパスです。デフォルトは `drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥xml¥messaging` です。

インバウンド・メッセージ DTD ファイル

これは、インバウンド XML メッセージのための DTD および組み込みファイルのリストです。新しいインバウンド XML メッセージを追加する場合は、それをこのフィールドに追加する必要があります。

セッション管理

構成マネージャーの「セッション管理」パネルには、以下に示す 2 つのタブがあります。

「一般」タブ:

cookie 使用可能

このチェック・ボックスでは、セッション管理用に cookie をサイトで使用することを指定します。これは、WebSphere Commerce の場合は、常に使用可能になっています。

URL 再書き込み使用可能

セッション管理に URL 再書き込みを使用する場合は、このチェック・ボックスを選択します。

cookie 受け入れテスト

ショッピングのブラウザーが、cookie のみサポートしているサイトの cookie を受け入れるかどうか調べる場合は、このチェック・ボックスを選択します。

cookie セッション・マネージャー

cookie の管理に、WebSphere Commerce と WebSphere Application Server の、どちらを使用するかを選択することができます。デフォルトは WebSphere Commerce です。

「拡張」タブ:

cookie パス

cookie のパスを指定します。これは cookie の送信先の URL のサブセットです。

cookie 有効期限

このフィールドは変更できません。デフォルトでは、ブラウザがクローズされたときに cookie の有効期限が切れます。

cookie ドメイン

ドメインの制限パターンを指定します。 cookie を受け取るサーバーを、ドメインで指定します。デフォルトでは、cookie はその発信元の WebSphere Commerce サーバーだけに返送されます。

セキュリティー

セキュリティーは、構成マネージャーを介して構成できます。

セキュリティー使用可能

EJB セキュリティーを使用可能にするには、このチェック・ボックスを選択します。

注: このチェック・ボックスを選択する前に、 WebSphere Application Server 内でグローバル・セキュリティー設定を有効にしてください。

認証モード

ユーザーの認証に使用するレジストリーのタイプを決定します。オペレーティング・システムのユーザー・レジストリーと LDAP のユーザー・レジストリーがあります。

ユーザー ID

各 EJB にアクセスできるユーザー名を入力します。

ユーザー・パスワード

上記のユーザー ID に関連付けられているパスワードを入力します。

パスワード無効化

パスワード無効化機能を使用可能または使用不可にするには、「構成マネージャー」の「パスワード無効化」ノードを使用します。この機能を使用可能にすると、WebSphere Commerce ユーザーのパスワードの有効期限が切れると、そのユーザーはパスワードの変更を要求されます。その場合、ユーザーは、パスワードの変更が必要となるページに

リダイレクトされます。ユーザーは、パスワードの変更を完了するまで、そのサイトのどのセキュア・ページにもアクセスすることができません。この機能を使用可能にするには、以下のようにします。

1. 構成マネージャーの「パスワード無効化」ノードに移動します。これは、「*instance_name*」 → 「インスタンス・プロパティ」の下にあります。
2. パスワード無効化機能をアクティブにするには、「使用可能」チェック・ボックスをクリックします。
3. インスタンスの変更を適用するには、「適用」をクリックします。
4. インスタンスの構成が正常に更新されると、更新が正常に行われたことを示すメッセージが表示されます。

ログイン・タイムアウト

構成マネージャーの「ログイン・タイムアウト」ノードを使って、ログイン・タイムアウト機能を使用可能または使用不可にします。この機能を使用可能にすると、長時間にわたって非アクティブの WebSphere Commerce ユーザーは、システムからログオフされ、ログオンし直すように要求されます。その後ユーザーが正常にログオンすると、WebSphere Commerce は、そのユーザーによって行われていた元の要求を実行します。ユーザーのログオンが失敗した場合は、元の要求は廃棄され、そのユーザーはシステムからログオフされたままになります。この機能を使用可能にするには、以下のようにします。

1. 「構成マネージャー」を呼び出し、次のようにして、インスタンスの「ログイン・タイムアウト」ノードに移動します。
「WebSphere Commerce」 → 「*host_name*」 → 「インスタンス・リスト」 → 「*instance_name*」 → 「インスタンス・プロパティ」 → 「ログイン・タイムアウト」
2. ログイン・タイムアウト機能をアクティブにするには、「使用可能」チェック・ボックスをクリックします。
3. 「ログイン・タイムアウト値」フィールドに、ログイン・タイムアウト値を秒単位で入力します。
4. インスタンスの変更を適用するには、「適用」をクリックします。
5. インスタンスの構成が正常に更新されると、更新が正常に行われたことを示すメッセージが表示されます。

パスワード保護されたコマンド

「パスワード保護されたコマンド」機能を使用可能または使用不可にするには、「構成マネージャー」の「パスワード保護されたコマンド」ノードを使用します。この機能を使用可能にすると、WebSphere Commerce ではユーザーは、まずパスワードを入力してから、指定の WebSphere Commerce コマンドの実行要求に移るよう求められます。この機能を使用可能にするには、以下のようにします。

1. 構成マネージャーをオープンし、次のようにして、インスタンスの「パスワード保護されたコマンド」ノードに移動します。「WebSphere Commerce」 → 「host_name」 → 「インスタンス・リスト」 → 「instance_name」 → 「インスタンス・プロパティ」 → 「パスワード保護されたコマンド」
2. 「一般」タブで、以下のようにします。
 - a. 「パスワード保護されたコマンド」機能をアクティブにするには、「使用可能」をクリックします。
 - b. 「再試行」フィールドに再試行の回数を入力します。（デフォルトの再試行回数は 3 です。）
3. 「拡張」タブで、以下のようにします。
 - a. 保護したい WebSphere Commerce コマンドを「Password Protected Command List (パスワード保護されたコマンドのリスト)」ウィンドウのリストから選択して、「追加」をクリックします。選択したコマンドが「Current Password Protected List (現行のパスワード保護されたコマンドのリスト)」ウィンドウにリストされます。
 - b. いずれかの WebSphere Commerce コマンドのパスワード保護を使用不可にしたい場合は、「Current Password Protected Command list (現行のパスワード保護されたコマンドのリスト)」ウィンドウにあるコマンドを選択して、「除去」をクリックします。
4. インスタンスの変更を適用するには、「適用」をクリックします。
5. インスタンスの構成が正常に更新されると、更新が正常に行われたことを示すメッセージが表示されます。

注: WebSphere Commerce では、使用可能コマンドのリストの CMDREG テーブルで「認証済み」として指定されているコマンドのみ表示します。

サイト間スクリプト保護

サイト間スクリプト保護機能を使用可能または使用不可にするには、「構成マネージャー」の「サイト間スクリプト保護」ノードを使用します。この機能を使用可能にすると、許可しないものとして指定されている属性または文字を含むユーザー要求は、すべて拒否されます。構成マネージャーのこのノードで、許可しない属性と文字を指定することができます。この機能を使用可能にするには、以下のようにします。

1. 構成マネージャーをオープンし、次のようにして、インスタンスの「サイト間スクリプト保護」ノードに移動します。
「WebSphere Commerce」 → 「host_name」 → 「インスタンス・リスト」 → 「instance_name」 → 「インスタンス・プロパティ」 → 「サイト間スクリプト保護」
2. サイト間スクリプト保護機能をアクティブにするには、次のように「一般」タブを使用します。
 - a. 「使用可能」をクリックします。

- b. WebSphere Commerce コマンドに対して許可したくない属性を追加するには、「禁止属性」テーブルをマウスの右ボタンでクリックして、「**行の追加**」を選択します。許可したくない属性をコンマ (,) で区切って追加します。たとえば、user_id, passwd のようにします。
 - c. 「禁止属性」テーブルから属性を除去するには、そのテーブルにあるその属性を含む行を強調表示して、それをマウスの右ボタンでクリックし、「**行の削除**」を選択します。
 - d. WebSphere Commerce コマンドには許可したくない文字を追加するには、「禁止文字」テーブルをマウスの右ボタンでクリックして、「**行の追加**」を選択します。許可したくない文字をコンマ (,) で区切って追加します。たとえば、<, > のようにします。
 - e. 「禁止文字」テーブルから文字を除去するには、「禁止文字」テーブルにあるその文字を含む行を強調表示して、それをマウスの右ボタンでクリックし、「**行の削除**」を選択します。
3. 選択した WebSphere Commerce コマンドの指定した属性のサイト間スクリプト保護を使用不可にするには、次のように「**拡張**」タブを使用します。
 - a. 「コマンド・リスト」ボックスからコマンドを選択します。
 - b. 属性をコンマで区切ったリストを入力します。それらについては、「例外属性のリスト」ウィンドウで禁止文字が許可されます。「**追加**」をクリックします。
 - c. コマンドをその属性とともに除去するには、「例外コマンドのリスト」ウィンドウからそのコマンドを選択して、「**除去**」をクリックします。属性を選択して「**除去**」をクリックすることにより、コマンドから特定の属性を除去することもできます。
 4. 構成マネージャーへの変更を適用するには、「**適用**」をクリックします。
 5. インスタンスの構成が正常に更新されると、更新が正常に行われたことを示すメッセージが表示されます。

取引

取引は、構成マネージャーを介して構成できます。

XML パス

取引コンポーネント用の xml ファイルが保管される場所のパス。

DTD パス

取引コンポーネント用の dtd ファイルが保管される場所のパス。

DTD ファイル名

取引コンポーネント用の dtd ファイル名。

コラボレーション - SameTime

Lotus Sametime は、カスタマー・ケアのコラボレーションを可能にします。これは、顧客サービス担当者とストアの顧客またはバイヤーの間で、Lotus Sametime を使用して、

同期テキスト・インターフェース (インスタント・メッセージング (IM)) を介した顧客サービス・リアルタイム・サポートを提供します。

使用可能

カスタマー・ケアのコラボレーション機能をサイトで使用可能にする場合は、このチェック・ボックスを選択します。

ホスト名

Sametime サーバーの完全修飾ホスト名を入力します (完全修飾は `hostname.domain.com` という形式です)。「ホスト名」フィールドに `www` を入力しないでください。デフォルトは、WebSphere Commerce サーバーがインストールされているマシンの完全修飾ホスト名です。

登録 URL

Sametime サーバーの登録 URL を入力します。サイト管理者は、WebSphere Commerce 管理コンソールのユーザー・リスト「Register Customer Care (カスタマー・ケアの登録)」ボタンを使用して、Sametime サーバーにお客様サービス担当者を登録できます。

アプレット CodeBase URL

すべてのアプレット・コードが配置されているアプレット CodeBase URL を入力します。アプレット・コードが Sametime サーバー・マシンにインストールされていることを確認してください。

モニター・タイプ

カスタマー・ケア・アプレットで使用するモニターのタイプを選択します。

- 待機中のキューのモニター。
- ストア内のすべてのショッパーのモニター。
- ストア内のすべての待機中のキューとすべてのショッパーのモニター。

デフォルトは、待機中のキューのモニターです。

開始タイプ

カスタマー・ケアのコラボレーション中にヘルプ要求を開始できる人物を選択します。

- ショッパーによるヘルプの開始。
- 顧客と CSR の両方によるヘルプの開始。

ヘルプ・セッション限度

顧客サービス担当者が一度にオープンできるヘルプ・セッションの数を設定する値を入力します。この値は整数でなければなりません。デフォルト値は 7 です。

コラボレーション・ワークスペース - ディレクトリー・アクセス



ディレクトリー・アクセスを適正に構成するためには、メンバー・サブシステムの認証モードとして LDAP を指定しなければなりません。

BaseDN

WebSphere Commerce メンバー・サブシステムで使用される LDAP の接尾部です (例、o= ルート組織)。

コラボレーション・ワークスペース - QuickPlace

Business

QuickPlace は、チーム・コラボレーションに使用されるセルフサービスの Web ツールです。QuickPlace によって、Web 上に安全な中央ワークスペースをただちに作成できます。即時に参加できるように構造化されているため、チームは QuickPlace を使用して以下のことを実行できます。

- 調整: 人員、タスク、計画、およびリソース。
- コラボレート: アイデアの共用とディスカッション、問題の解決、文書の共著、ファイルの交換、および情報共有の管理。
- 通信: アクションと決定、鍵検索とレッスン、広範囲の読者を対象とした出版知識。

チームは、プロジェクト管理、随時イニシアチブに対する迅速な応答、および拡張された企業と値のチェーンに及ぶ個別のビジネス・プロセスを促進するために QuickPlace を使用します。

ドメイン

QuickPlace サーバーのドメイン。

ホスト名

QuickPlace サーバーのホスト名。

管理者ログイン

Domino 管理者のログイン名の末尾に /domain を追加したもの。

管理者のパスワード

Domino 管理者のパスワード。

コラボレーション管理者

コラボレーション・ワークスペース機能のスーパーユーザーのログイン名の末尾に /domain を追加したもの。

コラボレーション管理パスワード

コラボレーション・ワークスペースのスーパーユーザーのパスワード。

ロケール

QuickPlace サーバーのロケール。

コンポーネント

コンポーネント・ノードには、WebSphere Commerce インスタンスのために作成したすべてのコンポーネントのリストが入っています。コンポーネントを選択して「Enable Component (コンポーネント使用可能)」チェック・ボックスを選択すれば、任意のコンポーネントを使用可能または使用不可にすることができます。個々のコンポーネントについての詳細は、WebSphere Commerce のオンライン・ヘルプを参照してください。

このノードで、コンポーネントの作成または削除も行うことができます。コンポーネントを除去するには、それを選択し、マウスの右ボタンをクリックして「**コンポーネントの除去**」を選択します。コンポーネントを追加するには、「**コンポーネント**」を選択し、マウスの右ボタンをクリックして、「**コンポーネントの作成**」を選択します。そのコンポーネントに付ける名前、およびそのコンポーネントに関連付けるクラスを入力して、「**コンポーネント使用可能**」を選択します。

保護パラメーター

保護パラメーターとは、WebSphere Commerce で生成されるトレース・ファイルの中のプレーン・テキストには値が現れないパラメーターのことです。これには、クレジット・カード番号やユーザー・パスワードなどの機密情報が含まれます。構成マネージャーの「保護パラメーター」パネルには、現在保護されているすべてのパラメーターのリストが表示されます。

このリストにパラメーターを追加するには、以下のステップを完了します。

1. 「保護パラメーター」パネルでマウスの右ボタンをクリックして、「**行の追加**」を選択します。
2. 作成されているテーブルの行に、保護するパラメーターの名前を入力します。
3. 「**適用**」をクリックします。

このリストからパラメーターを除去するには、パラメーターをマウスの右ボタンでクリックして、「**行の削除**」を選択します。

レジストリー

レジストリーは通常、データベースに保管される、比較的静的な情報をキャッシュに入れるために使用されます。RequestServlet の初期化の際に、レジストリー・マネージャーが、構成マネージャーを介して定義されたすべてのレジストリーを、WebSphere Commerce の内部定義されたレジストリーとともに初期化します。データベース情報は、パフォーマンスの向上のためにレジストリー内のキャッシュに入れられます。

レジストリーを作成するには、「**レジストリー**」をマウスの右ボタンでクリックして、「**レジストリーの作成**」を選択します。これにより「レジストリーの作成」ウィザードが起動します。以下のようにフィールドに入力します。

レジストリー名

作成するレジストリーに割り当てる名前を入力します。

レジストリー・クラス名

新規のレジストリーに関連付けるクラスの名前を入力します。

オークション

オークションを使用可能にする

オークションを使用可能にする場合、「使用可能」チェック・ボックスを選択します。

SMTP サーバー

E メール・メッセージを受け取るのに使う SMTP サーバーを定義します。

応答 E メール

送信側の E メール情報を定義します。

外部サーバー・リスト

外部サーバー・リストには、デフォルトの LikeMinds サーバー・アドレスが含まれています。また、外部イベントを処理するリスナー・クラスのリストも含まれています。

LikeMinds リスナーは、デフォルトで追加されています。このリスナーにより、外部イベントが LikeMinds サーバーに追加されます。

Commerce アクセラレーター

構成マネージャーの Commerce アクセラレーター・ノードを使用すると、WebSphere Commerce のビジネス・インテリジェンス・コンポーネントを構成して、それを WebSphere Commerce Analyzer に組み込むことができます。Commerce Analyzer は、WebSphere Commerce に付属のオプションのソフトウェア・パッケージです。Commerce Analyzer のインストールと構成についての詳細は、*WebSphere Commerce 追加ソフトウェア・ガイド* を参照してください。

ビジネス・インテリジェンスを構成するには、以下のフィールドに入力します。

統計ソース

統計データが保持されているマシンの完全修飾ホスト名を入力します。これは、実動サーバーかステージング・サーバーのどちらかにすることができます。デフォルト値は、WebSphere Commerce がインストールされているマシンです。

WebSphere Commerce Analyzer はインストールされていますか?

Commerce Analyzer をインストールし、構成してある場合に、それを WebSphere Commerce で使用するには、「はい」を選択します。

レポート文書ルート

Commerce Analyzer によって作成されるレポートを保管する場所のパスを入力

します。このフィールドに入力されたパスは、インスタンス・ディレクトリ
ー・ルートの終わりに付加されます。デフォルトのパスは、
`drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥instances¥instance_name` です。

ログ・システム

「ログ・システム」ノードの「一般」タブには、インスタンス作成ウィザードに含まれているすべてのパラメーターが含まれています。「拡張」タブを使用すると、トレース・ファイルに入れるコンポーネントと障害追跡のレベルを選択することができます。トレースするコンポーネントとそのトレース・レベルを選択して、「適用」をクリックします。

個々のコンポーネントについての詳細は、WebSphere Commerce のオンライン・ヘルプを参照してください。

キャッシング・サブシステム

構成マネージャーのキャッシュ・ノードを使用して、キャッシュの構成、キャッシュへのコマンドの追加、コマンドからの鍵セットの除去、および鍵セットからの鍵の除去を行うことができます。

キャッシュ・ノードを選択して、適切な値を入力することにより、キャッシュを構成します。これらの値についての追加情報は、構成マネージャーの「ヘルプ」をクリックするか、または「Caching Parameters (キャッシュ・パラメーター)」でのオンライン・ヘルプで参照してください。

キャッシュにコマンドを追加するには、キャッシュ・ウィザードを使用します。このウィザードを起動するには、「キャッシュ」をマウスの右ボタンでクリックして、「**Add a command to the cache (キャッシュへコマンドを追加)**」を選択します。3つのパネルのフィールドをすべて入力して、すべてのパラメーターを入力したら「終了」をクリックします。キャッシュからコマンドを除去するには、除去するコマンドを選択してマウスの右ボタンでクリックし、「**Remove a command from the cache (キャッシュからコマンドを除去)**」を選択します。

鍵セットを削除するには、削除する鍵セットを選択してマウスの右ボタンでクリックして、「**Remove key set from this cached command (キャッシュされたコマンドから鍵セットを除去)**」を選択します。鍵を削除するには、関連した鍵を選択します。

「**Advanced (拡張)**」タブで、削除する鍵セットを選択してマウスの右ボタンでクリックしてから、「**Delete row (行の削除)**」を右マウス・ボタンでクリックします。

ストア・サービス構成

ストア・サービスを利用すると、WebSphere Commerce 付属のサンプルに基づくストア・アーカイブを短時間で作成できます。ストア・サービスの使用方法に関する追加情報については、WebSphere Commerce のオンライン・ヘルプを参照してください。

構成マネージャーの「ストア・サービス構成」ノードを使用して、ストア・サービスの以下の 3 つのパラメーターを構成できます。

一時パス

ストア・サービスが、一時ファイルを発行時にコピーする際に使用するディレクトリです。発行が完了したら、それらのファイルはこのディレクトリから自動的に除去されます。デフォルト・ディレクトリは、`drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥tools¥devtools¥temp` です。

最大エラー

発行プロセスがストア・データのロード中に許容できるエラーの最大数です。この数を超えた場合は、発行が停止してロールバックします。デフォルト値は、1 です。

コミット・カウント

この数は発行時に使用されます。レコードの各コミット・カウント数がロードされた後、データベースがコミットされます。データの中にエラーがあると、データベースは最新のコミット・ポイントまでロールバックされます。ロードするデータの量に応じてこの数を変更してください。その場合、コミット・カウントをアーカイブ内の行の数より大きな数に設定すると、ロールバックが発生した場合に、アーカイブ全体がロールバックされることとなります。デフォルト値は、1000 です。

トランスポート

デフォルトでは、E メール・トランスポート・システムが使用可能になっています。ただし、エラーの発生を防ぐために、メール・ホストを設定する必要があります。E メール・ホストを設定するには、以下のステップを完了します。

1. 「トランスポート」、「アウトバウンド」、「**JavaMail**」と拡張表示して、「**ConnectionSpec**」を選択します。
2. 「拡張」タブを選択します。
3. ホストの行の値のフィールドに、SMTP メール・サーバーの完全修飾ホスト名を入力します。
4. プロトコルの行の値のフィールドに、値として `smtp` がリストされていることを確認してください。
5. 「適用」をクリックします。
6. WebSphere Application Server 管理コンソールで WebSphere Commerce Server を停止してから、再始動します。

アウトバウンド・トランスポートまたはインバウンド・トランスポートの対話仕様の構成には、構成マネージャーは使用できません。トランスポート関連の作業については、オンライン・ヘルプを参照してください。

インバウンド・トランスポート接続仕様を構成するには、「接続仕様」パネルの「拡張」タブを選択して、必要に応じてその情報を変更します。トランスポート・パラメーターに関する追加情報は、オンライン・ヘルプを参照してください。

ライセンス・ユーザー管理

「ライセンス・ユーザー管理 (LUM)」パネルは、WebSphere Commerce について購入したストア・ライセンスの数を入力するために使用します。以下のようにフィールドに入力します。

ストア・ライセンス

購入したライセンスの数を入力します。

ハード・ストップ

購入したライセンスの数を超えないように WebSphere Commerce で防止するには、「ハード・ストップ」をオンにします。

ソフト・ストップ

購入したライセンスの数を超えた場合に WebSphere Commerce によって警告メッセージが表示されるようにするには、「ソフト・ストップ」をオンにします。

次のステップ

WebSphere Commerce インスタンスを構成して開始したら、システムのセットアップを終了するために、93 ページの『第 8 章 構成後のステップ』のステップを完了する必要があります。その章のステップを完了しないと、WebSphere Commerce Accelerator または WebSphere Commerce 管理コンソールにアクセスできません。

第 8 章 構成後のステップ

この章には、WebSphere Commerce の構成を終了するために完了する必要があるすべてのステップが記載されています。この章では、以下の作業について説明します。

- 93 ページの 『1 層および 2 層の構成後のステップ』
- 102 ページの 『3 層の構成後のステップ』

1 層および 2 層の構成後のステップ

この章には、1 層または 2 層環境で WebSphere Commerce の構成を終了するために完了する必要があるすべてのステップが記載されています。この章では、以下の作業について説明します。

- Microsoft IIS の構成を完了する (すべての Microsoft IIS ユーザー)
- iPlanet Web サーバーのインストールを完了する (すべての iPlanet Web サーバー・ユーザー)
- Payment Manager を WebSphere Commerce とともに作動するように構成する (すべてのユーザー)
- Oracle のリモート・インストールを完了する (Oracle データベース・サーバーが WebSphere Commerce とはリモートの場合)
- Payment Manager 設定を構成する (すべてのユーザー)
- JavaServer Pages ファイルをコンパイルする (すべてのユーザー)
- セキュリティー・チェッカーを実行する (オプション)

Microsoft IIS の構成の完了

WebSphere Commerce のインストールと WebSphere Commerce インスタンスの作成が正常に完了したら、以下のステップに進んでください。

注: WebSphere Commerce をインストールして WebSphere Commerce インスタンスを作成した後、Microsoft IIS の Web 関連サービスとアプリケーション (IIS Admin Service、デフォルト Web サイト、デフォルト FTP サイト、デフォルト SMTP 仮想サーバーを含む) をすべて開始しなければなりません。これらのサービスを開始する方法については、Microsoft IIS の資料を参照してください。

1. Microsoft 社の資料の手順に従って、証明権限によって署名されたセキュア証明書をインストールします。
2. Microsoft IIS Server の別名を作成します。Microsoft IIS Server の別名を作成するには、以下のようになります。
 - a. ご使用のオペレーティング・システムに応じて、以下のようになります。

- Windows NT の場合、以下を行います。
 - 1) 「スタート」メニューから、「プログラム」 → 「Windows NT 4.0 オプション・パック」 → 「Microsoft Internet Information Server」 → 「インターネット・サービス・マネージャー」を選択します。
 - 2) 「Internet Information Server」を拡張表示します。
 - 3) 「host_name」を拡張表示します。
- Windows 2000 の場合、以下を行います。
 - 1) 「プログラム」 → 「管理ツール」 → 「コンピュータの管理」を選択します。
 - 2) 「インデックス サービス」を拡張表示します。
- b. 「Default Web Site (デフォルト Web サイト)」を選択します。
- c. 「動作」 → 「New (新規)」 → 「Virtual Directory (仮想ディレクトリー)」を選択します。
- d. 「Alias Generation Wizard (別名生成ウィザード)」が表示されます。「次へ」をクリックして、以下の表のように別名とディレクトリー名を入力します。以下の別名ごとに実行許可を付与してください。

注: 作成したい別名ごとに、ステップ 2b ~ 2d を繰り返す必要があります。

表 4.

別名	ディレクトリー	デフォルト・ファイル名
accelerator	<i>drive</i> :¥WebSphere¥AppServer¥installedApps¥WC_Enterprise_App_instance_name.ear¥wctools.war¥tools¥common	accelerator.html
storeservices	<i>drive</i> :¥WebSphere¥AppServer¥installedApps¥WC_Enterprise_App_instance_name.ear¥wctools.war¥tools¥devtools	storeservices.html
orgadminconsole	<i>drive</i> :¥WebSphere¥AppServer¥installedApps¥WC_Enterprise_App_instance_name.ear¥wcstores.war¥tools¥buyerconsole	wcsbuyercon.html
wcsstore	<i>drive</i> :¥WebSphere¥AppServer¥installedApps¥WC_Enterprise_App_instance_name.ear¥wcstores.war	
adminconsole	<i>drive</i> :¥WebSphere¥AppServer¥installedApps¥WC_Enterprise_App_instance_name.ear¥wctools.war¥tools¥adminconsole	wcsadmincon.html
wcs	<i>drive</i> :¥WebSphere¥AppServer¥installedApps¥WC_Enterprise_App_instance_name.ear¥wctools.war	

表 4. (続き)

wcsdoc	<i>drive</i> :%WebSphere%CommerceServer%web%doc%	
wcshelp	<i>drive</i> :%WebSphere%CommerceServer%web%doc%<locale>	
webeditor	<i>drive</i> :%WebSphere%AppServer%installedApps%WC_Enterprise_App_instance_name.ear%wcwebeditor.war	

- e. 「**Default Web Site (デフォルト Web サイト)**」を選択します。
 - f. 「**動作**」 → 「**Properties (プロパティ)**」を選択します。
 - g. 「**マニュアル**」タブを選択します。
 - h. 「**追加**」ボタンをクリックして、以下の資料をそれぞれ対応する別名に追加します。
 - accelerator.html
 - storeservices.html
 - wcsadmincon.html
 - wcsbuyercon.html
 - i. 「**適用**」をクリックします。
 - j. 各ファイルごとに、ステップ 2f ~ 2i を繰り返します。
3. SSL ポート 8000 を追加するには、以下のようにします。
 - a. 「**Default Web Site (デフォルト Web サイト)**」を右マウス・ボタン・クリックして、「**Properties (プロパティ)**」を選択します。
 - b. 「**Web Site (Web サイト)**」タブで、「**拡張**」ボタンをクリックします。
 - c. 「**追加**」をクリックします。
 - d. SSL ポート 8000 を追加して、「**OK**」をクリックします。
 4. マシンを再始動します。
 5. WebSphere Application Server を再始動します。

WebSphere Commerce をインストールした後に Payment Manager をインストールして構成するよう計画している場合には、追加の構成ステップをいくつか実行する必要があります。Microsoft IIS を IBM WebSphere Payment Manager 3.1.2 とともに実行するよう構成するには、以下を行う必要があります。

1. 「**プログラム**」→「**管理ツール**」→「**Internet Services Manager (インターネット・サービス・マネージャー)**」を選択します。
2. ホスト名を拡張表示します。
3. 「**Default Web Site (デフォルト Web サイト)**」を右マウス・ボタン・クリックします。

4. 「**Properties (プロパティ)**」を選択して、デフォルト Web サイトのプロパティ・ページをオープンします。
5. 「**Properties (プロパティ)**」ノートブックから、「**Directory Security (ディレクトリーのセキュリティ)**」タブを選択します。
6. 右側の「**編集**」ボタンをクリックして、「**Authentication Methods (認証方法)**」ダイアログ・ボックスを表示させます。
7. 「**Anonymous Access (匿名アクセス)**」のチェック・ボックスが選択され、その他のオプションが選択解除されていることを確認します。
8. 「**OK**」をクリックして、変更を完了します。

iPlanet Web サーバーのインストールの完了

iPlanet Web サーバーを使用する WebSphere Commerce インスタンスを作成または更新したら、そこで行った変更を、セキュア・サーバーおよび非セキュア・サーバーの obj.conf ファイルに適用する必要があります。

1. ブラウザーで、以下の URL を入力して、iPlanet Web サーバー管理者を立ち上げます。

`http://host_name:8888/`

2. 使用可能なサーバーのリストから非セキュア・サーバーを選択して、「**Manage (管理)**」をクリックします。

注: ご使用の iPlanet Web サーバーの構成に応じて、警告メッセージが表示されることがあります。「**OK**」をクリックします。

3. 右上隅の「**適用**」をクリックします。
4. 「**Load Configuration Files (構成ファイルのロード)**」をクリックします。正常に行われたことを示すメッセージが表示されます。「**OK**」をクリックします。
5. ドロップダウン・リストから再度サーバーを選択して、右上隅の「**適用**」をクリックします。
6. 「**Apply Changes (変更を適用)**」をクリックします。正常に行われたことを示すメッセージが表示されます。「**OK**」をクリックします。
7. 各セキュア・サーバー (ポート 8000 とポート 443) について、ステップ 1 ~ 5 を繰り返します。

Payment Manager を WebSphere Commerce とともに作動するように構成する

Payment Manager を WebSphere Commerce とともに作動するように構成するには、以下のようにします。

1. WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンします。
2. 以下のようにして、別名を作成します。

- a. 「**WebSphere Administrative Domain (WebSphere 管理可能ドメイン)**」を拡張表示します。
- b. 「**Virtual Hosts (仮想ホスト)**」を選択します。
- c. 右側のパネルで `default_host` を選択します。
- d. 「**一般**」タブで、「**追加**」をクリックします。
- e. 「**別名**」フィールドに `*:443` と入力し、「**適用**」をクリックします。

注: SSL を使用可能にしない場合は、WebSphere Commerce インスタンスの作成時に、WebSphere Commerce 構成マネージャーの Payment Manager 設定ページ内で、WebSphere Commerce サーバーが非 SSL Payment Manager クライアントを使用するよう構成しなければなりません。インスタンスを作成した後で Payment Manager 設定を変更することもできますが、変更内容を有効にするために、インスタンスを再始動する必要があります。

3. コマンド・ウィンドウをオープンして、以下のディレクトリーに移動します。

```
drive:¥WebSphere¥AppServer¥bin
```

4. 以下のコマンドを入力します。

```
GenPluginCfg.bat -adminNodeName node_name
```

ここで、`node_name` は、ノードの短縮論理名です。

5. WebSphere Application Server を停止します。WebSphere Application Server を停止するには、以下のようにします。

注: Payment Manager が WebSphere Commerce と同じマシンにインストールされている場合、ステップ 5 ~ 7 だけを実行してください。

- a. WebSphere Application Server 管理コンソールを終了します。
 - b. 「**サービス**」ウィンドウから、「**IBM WS AdminServer 4.0**」を選択します。
 - c. 「**停止**」をクリックします。
6. テキスト・エディターで、以下のファイルをオープンします。

```
drive:¥WebSphere¥AppServer¥config¥plugin-cfg.xml
```

7. 以下の行を、`plugin-cfg.xml` ファイルの `<Config>` の下に直接追加します。

```
<Property name="CacheLibrary" value="drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥bin¥wccache.dll" />
```

8. Web サーバーを停止してから、再始動します。IBM HTTP Server を使用する場合は、162 ページの『IBM HTTP Server の開始および停止』を参照して追加情報を調べてください。
9. WebSphere Application Server を始動します。WebSphere Application Server を開始するには、以下のようにします。
 - a. 「**サービス**」ウィンドウから、「**IBM WS AdminServer 4.0**」を選択します。
 - b. 「**開始**」をクリックします。

- c. WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンします。

重要

Payment Manager を使用する前に、少なくとも一度 WebSphere Commerce 管理コンソールにログインすることをお勧めします。 WebSphere Commerce 管理コンソールにログインするには、「スタート」メニューから「プログラム」→「IBM WebSphere Commerce」→「管理コンソール」を選択します。デフォルトの管理コンソールのユーザー ID (wcsadmin)、およびデフォルトのパスワード (wcsadmin) を入力します。初回ログイン時に、パスワードを変更するよう促されます。

Payment Manager 管理者の役割

Payment Manager をインストールする時点で、 WebSphere Commerce 管理者 ID wcsadmin に Payment Manager 管理者役割が自動的に割り当てられます。Payment Manager 管理者役割が割り当てられている ID では、 Payment Manager の制御と管理が可能です。

注:

1. ログオン・ユーザー ID wcsadmin は削除したり名前を変更したりしないでください。また、wcsadmin に事前に割り当てられている Payment Manager の役割は変更しないようにしてください。変更すると、 Payment Manager の整合性に関連した WebSphere Commerce の機能の一部が動作しなくなります。
2. WebSphere Commerce の管理者に Payment Manager の役割を割り当てた場合、後でその管理者のログオン・ユーザー ID を削除したり名前を変更したりするときには、ID を削除または名前変更する前に、まずその管理者に割り当てた Payment Manager の役割を削除してください。

重要

wcsadmin ユーザー ID に加えて、Payment Manager は Payment Manager 管理者役割を以下の 2 つの管理者 ID に割り当てます。

- admin
- ncadmin

あるユーザーが誤ってその Payment Manager 管理者役割を取得することがないようにするには、以下のようにします。

- WebSphere Commerce 管理コンソールを使用して、WebSphere Commerce の中で上記の管理者 ID を作成します。
- Payment Manager のユーザー・インターフェースで、「ユーザー」を選択します。
 - この ID から Payment Manager 管理者の役割を削除します。

Payment Manager マシンのセットアップ

Payment Manager マシンを構成するときは、*IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms 管理者ガイド* の『はじめに』の章を参照してください。このセクションでは、以下のプロセスを説明しています。

- Payment Manager のユーザー・インターフェースの開始
- Payment Manager のマーチャントの作成、およびカセットの許可
- ユーザー役割の割り当て
- アカウントの作成
- 支払処理の管理

Payment Manager のユーザー・インターフェースにログオンする前に、WebSphere Commerce が実行されていること、および Payment Manager アプリケーション・サーバーも開始され、初期化済みであることを確認します。詳しくは、163 ページの『Payment Manager の開始および停止』を参照してください。

重要

Payment Manager のユーザー・インターフェースの「**Payment Manager 設定**」パネルにリストされるホスト名が、完全修飾ホスト名であることを確認してください。そうでない場合は、「ホスト名」フィールドを完全修飾ホスト名に変更して、「更新」をクリックし、「**Disable Payment Manager (Payment Manager 使用不可)**」をクリックしてから、「**Enable Payment Manager (Payment Manager 使用可能)**」をクリックします。

WebSphere Commerce インスタンス用の支払いノードを構成マネージャーでまだ更新していない場合は、69 ページの『Payment Manager』の説明に従って、これを更新してください。

このほか、Payment Manager の管理機能へは、サイト・マネージャーの「Payment Manager」メニューから WebSphere Commerce 管理コンソールを介してもアクセスできます。

JavaServer Pages ファイルのコンパイル

この時点で JavaServer Pages ファイルをコンパイルすることをお勧めします。

JavaServer Pages ファイルをコンパイルすれば、WebSphere Commerce ツールのロードにかかる時間が大幅に短縮されます。JavaServer Pages (JSP) ファイルのバッチ・コンパイルを実行するには、以下のようにします。

1. コマンド・プロンプトで、`drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥bin` に切り替えます。
2. 以下のコマンドを実行します。

注: このコマンドには大文字小文字の区別があるので、情報を提示されているとおり正確に入力してください。 `enterpriseApp`、`webModule`、または `nameServerHost` 名にスペースが含まれている場合は、以下のように二重引用符で囲まなければなりません。

```
WCSJspBatchCompiler -enterpriseApp "WebSphere  
Commerce Enterprise Application - instance_name"  
-webModule "WCS Tools" -nameServerHost short_host_name  
-nameServerPort 900
```

それらのコンパイルを実行すると、いくつかのエラーが発生することがあります。これらのエラーは無視しても安全です。

セキュリティー・チェッカーの実行

ここでは、WebSphere Commerce のセキュリティー・チェッカーによってシステムのセキュリティーを検査する方法について説明します。セキュリティー・チェッカーは、システムに機密漏れがないかどうかを検査し、削除すべきファイルを識別し、機密情報

を含むファイルの許可と所有権を確認し、IBM HTTP Server および WebSphere Application Server 内のセキュリティー・レベルを検査します。

セキュリティー・チェッカーを使用するには、以下のようになります。

1. 「スタート」メニューから、「プログラム」 → 「IBM WebSphere Commerce」 → 「管理コンソール」を選択します。デフォルトの管理コンソールのユーザー ID (wcsadmin)、およびデフォルトのパスワード (wcsadmin) を入力します。初回ログイン時に、パスワードを変更するよう促されます。
2. 「サイト / ストア」選択ページから「サイト」を選択し、「OK」をクリックして続行します。
3. サイト管理コンソールで、「セキュリティー」メニューから、「Security Checker (セキュリティー・チェッカー)」を選択します。
4. セキュリティー・チェッカーには、セキュリティー・チェッカーを起動するための「立ち上げ」ボタンと、最後に実行されたセキュリティー検査の結果が表示されます。構成マネージャーが正しく構成されている場合は、「機密漏れは見つかりません。」というメッセージが表示されます。
5. ツールの実行が終了したら、「OK」をクリックします。

セキュリティー・チェッカーを実行することによって、次のログが作成されます。

- `drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥instances¥instance_name¥logs¥sec_check.log`。このファイルには、機密漏れの可能性に関する情報が入れられません。

次のステップ

WebSphere Commerce の構成を完了するために必要なステップをすべて終了したら、続いて以下のいずれか 1 つ以上を行います。

- ストア・サービスを使って、独自のストアを作成して発行します。ストア・サービスの使用方法については、WebSphere Commerce のオンライン・ヘルプを参照してください。WebSphere Commerce のオンライン・ヘルプへのアクセスについては、185 ページの『付録 E. 詳細情報の参照先』に記載されています。
- 典型的なストアの構築方法を理解するために、WebSphere Commerce で用意されているデモンストレーション・ストアの InFashion を発行します。ストア・サービスを使って InFashion を発行します。ストア・サービスの使用方法については、WebSphere Commerce のオンライン・ヘルプを参照してください。WebSphere Commerce のオンライン・ヘルプへのアクセスについては、185 ページの『付録 E. 詳細情報の参照先』に記載されています。
- 次のような追加オプションを構成します。
 - 『第 12 章 IBM HTTP Server での実行のための SSL の使用可能化』
 - 『第 9 章 複数の WebSphere Commerce インスタンスの作成』
 - 『第 13 章 WebSphere Application Server のセキュリティーの使用可能化』

- WebSphere Commerce には、追加のソフトウェアが含まれています。次の製品のインストールおよび構成に関する情報は、 *IBM WebSphere Commerce 追加ソフトウェア・ガイド* にあります。
 - IBM DB2 テキスト・エクステンダー 7.1
 - WebSphere Commerce Analyzer
 - Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) を WebSphere Commerce とともに使用する
 - SilkPreview
 - LikeMinds Personalization Server
 - Sametime
 - QuickPlace

3 層の構成後のステップ

この章には、3 層環境で WebSphere Commerce の構成を終了するために完了する必要があるすべてのステップが記載されています。この章では、以下の作業について説明します。

- リモート IBM HTTP Server の構成を完了する (すべての IBM HTTP Server ユーザー)
- Microsoft IIS の構成を完了する (すべての Microsoft IIS ユーザー)
- iPlanet Web サーバーのインストールを完了する (すべての iPlanet Web サーバー・ユーザー)
- Web サーバーに資産をコピーする (すべてのユーザー)
- 別のマシン上の Oracle のために構成する
- Payment Manager を WebSphere Commerce とともに作動するように構成する (すべてのユーザー)
- リモート Oracle のインストールを完了する
- JavaServer Pages ファイルをコンパイルする (すべてのユーザー)
- セキュリティー・チェッカーを実行する (オプション)

3 層環境での IBM HTTP Server の構成

重要

Web サーバーを WebSphere Commerce マシンからリモートにインストールする場合、両方の製品が同じドライブ名にインストールされていることを確認してください。たとえば、Web サーバー・ソフトウェアをリモート Web サーバー・マシン上のドライブ C: にインストールする場合は、WebSphere Commerce を WebSphere Commerce マシン上のドライブ C: にインストールします。

3 層構成では、Web サーバー・マシン上にある httpd.conf ファイルは未構成です。winaliases.txt ファイルは、WebSphere Commerce Disk 2 CD の drive:¥Software_Patches ディレクトリにあります。このファイルには、httpd.conf ファイルを構成するために必要な別名が示されています。以下のようにして、httpd.conf ファイルを手動で編集する必要があります。

1. IBM HTTP Server を停止します。
2. Web サーバー・マシン上で、httpd.conf をバックアップします。
3. httpd.conf ファイルをテキスト・エディターでオープンします。
4. #LoadModule ibm_ssl_module modules/IBMModuleSSL128.d11 で始まる行のコメントを解除します。行のコメントを解除するには、# 文字を除去します。
5. #Listen 443 で始まる行のコメントを解除します。行のコメントを解除するには、# 文字を除去します。
6. Listen 443 で始まる行の下に、以下の行を追加します。

注: 上記のすべての行が途中で改行されているのは、単に読みやすくするためです。Alias またはパス (たとえば、drive:¥WebSphere¥CommerceServer/web/doc) を含む各行は、httpd.conf ファイルでは単一の行になっています。

```
##### IBM WebSphere Commerce (Do not edit this section)#####
Listen 8000
##### End of IBM WebSphere Commerce (Do not edit this section) ###
## VirtualHost: Allows the daemon to respond to requests for more than
## one server address, if your server machine is configured to accept IP
## packets for multiple addresses. This can be accomplished with the
## ifconfig alias flag, or through kernel patches like VIF.
#
## Any httpd.conf or srm.conf directive may go into a VirtualHost command.
## See also the BindAddress entry.
#
##### IBM WebSphere Commerce #####
#Instance name : instance_name
<VirtualHost webserver_IP_address>
  ServerName fully_qualified_webserver_name
  DocumentRoot "drive:/WEBSPH~1/HTTPSE~1/htdocs"
  Alias /wcsdoc "drive:¥WebSphere¥CommerceServer/web/doc"
  Alias /wchelp "drive:¥WebSphere¥CommerceServer/web/doc/en_US"
  Alias /storeservices
    "drive:¥WebSphere¥AppServer¥installedApps¥
WC_Enterprise_App_instance_name.ear/wctools.war/tools/
devtools/storeservices.html"
  Alias /adminconsole
    "drive:¥WebSphere¥AppServer¥installedApps¥
WC_Enterprise_App_instance_name.ear/wctools.war/tools/
adminconsole/wcsadmincon.html"
  Alias /wcsstore "drive:¥WebSphere¥AppServer¥installedApps¥
WC_Enterprise_App_instance_name.ear/wcstores.war"
  Alias /accelerator
    "drive:¥WebSphere¥AppServer¥installedApps¥"
```

```

WC_Enterprise_App_instance_name.ear/wctools.war/tools/
common/accelerator.html"
Alias /orgadminconsole
"drive:¥WebSphere¥AppServer¥installedApps¥
WC_Enterprise_App_instance_name.ear/wctools.war/tools/
buyerconsole/wcsbuyercon.html"
Alias /wcs "drive:¥WebSphere¥AppServer¥installedApps¥
WC_Enterprise_App_instance_name.ear/wctools.war"
Alias /webeditor "drive:¥WebSphere¥AppServer¥installedApps¥
WC_Enterprise_App_instance_name.ear/wcwebeditor.war"
</VirtualHost>
<VirtualHost webserver_IP_address:443>
SSLEnable
SSLClientAuth 0
ServerName fully_qualified_webserver_name
DocumentRoot "drive:/WEBSPH~1/HTTPSE~1/htdocs"
Alias /wcsdoc "drive:¥WebSphere¥CommerceServer/web/doc"
Alias /wchelp "drive:¥WebSphere¥CommerceServer/web/doc/en_US"
Alias /storeservices
"drive:¥WebSphere¥AppServer¥installedApps¥
WC_Enterprise_App_instance_name.ear/wctools.war/tools/
devtools/storeservices.html"
Alias /adminconsole
"drive:¥WebSphere¥AppServer¥installedApps¥
WC_Enterprise_App_instance_name.ear/wctools.war/tools/
adminconsole/wcsadmincon.html"
Alias /wcsstore "drive:¥WebSphere¥AppServer¥installedApps¥
WC_Enterprise_App_instance_name.ear/wcstores.war"
Alias /accelerator
"drive:¥WebSphere¥AppServer¥installedApps¥
WC_Enterprise_App_instance_name.ear/wctools.war/tools/
common/accelerator.html"
Alias /orgadminconsole
"drive:¥WebSphere¥AppServer¥installedApps¥
WC_Enterprise_App_instance_name.ear/wctools.war/tools/
buyerconsole/wcsbuyercon.html"
Alias /wcs "drive:¥WebSphere¥AppServer¥installedApps¥
WC_Enterprise_App_instance_name.ear/wctools.war"
Alias /webeditor "drive:¥WebSphere¥AppServer¥installedApps¥
WC_Enterprise_App_instance_name.ear/wcwebeditor.war"
</VirtualHost>
<VirtualHost webserver_IP_address:8000>
SSLEnable
SSLClientAuth 0
ServerName fully_qualified_webserver_name
DocumentRoot "drive:/WEBSPH~1/HTTPSE~1/htdocs"
Alias /wcsdoc "drive:¥WebSphere¥CommerceServer/web/doc"
Alias /wchelp "drive:¥WebSphere¥CommerceServer/web/doc/en_US"
Alias /storeservices
"drive:¥WebSphere¥AppServer¥installedApps¥
WC_Enterprise_App_instance_name.ear/wctools.war/tools/
devtools/storeservices.html"
Alias /adminconsole
"drive:¥WebSphere¥AppServer¥installedApps¥
WC_Enterprise_App_instance_name.ear/wctools.war/tools/

```



```

adminconsole/wcsadmincon.html"
Alias /wcsstore "drive:¥WebSphere¥AppServer¥installedApps¥
WC_Enterprise_App_instance_name.ear/wcstores.war"
Alias /accelerator
"drive:¥WebSphere¥AppServer¥installedApps¥
WC_Enterprise_App_instance_name.ear/wctools.war/tools/
common/accelerator.html"
Alias /orgadminconsole
"drive:¥WebSphere¥AppServer¥installedApps¥
WC_Enterprise_App_instance_name.ear/wctools.war/tools/
buyerconsole/wcsbuyercon.html"
Alias /wcs "drive:¥WebSphere¥AppServer¥installedApps¥
WC_Enterprise_App_instance_name.ear/wctools.war"
Alias /webeditor "drive:¥WebSphere¥AppServer¥installedApps¥
WC_Enterprise_App_instance_name.ear/wcwebeditor.war"
</VirtualHost>
##### End of IBM WebSphere Commerce #####

```

7. # *drive:/WEBSPH~1/HTTPSE~1/cgi-bin* で始まる行の上に、以下の行を追加します。

```

##### IBM WebSphere Commerce #####
#Instance name : instance_name
<Directory "drive:/WEBSPH~1/HTTPSE~1/htdocs">
Options Indexes
AllowOverride None
order allow,deny
allow from all
</Directory>
<Directory drive:¥WebSphere¥AppServer¥installedApps¥
WC_Enterprise_App_instance_name.ear/wctools.war>
<Files *.jsp>
order allow,deny
deny from all
</Files>
</Directory>
<Directory drive:¥WebSphere¥AppServer¥installedApps¥
WC_Enterprise_App_instance_name.ear/wcstores.war>
<Files *.jsp>
order allow,deny
deny from all
</Files>
</Directory>
<Directory drive:¥WebSphere¥AppServer¥installedApps¥
WC_Enterprise_App_instance_name.ear/wcwebeditor.war>
<Files *.jsp>
order allow,deny
deny from all
</Files>
</Directory>
##### End of IBM WebSphere Commerce#####

```

8. #Keyfile "*drive:/WebSphere/HTTPServer/ssl/keyfile.kdb*" で始まる行のコメントを解除します。行のコメントを解除するには、# 文字を除去します。
9. ファイルを保管します。

10. httpd.conf ファイルに構文エラーが入らないようにするには、
`drive:¥WebSphere¥HTTPServer` ディレクトリーに移動して、次のコマンドを実行します。

`apache -t`
11. 162 ページの『IBM HTTP Server の開始および停止』の手順に従って、IBM HTTP Server を開始します。

Microsoft IIS の構成の完了

重要

Web サーバーを WebSphere Commerce マシンからリモートにインストールする場合、両方の製品が同じドライブ名にインストールされていることを確認してください。たとえば、Web サーバー・ソフトウェアをリモート Web サーバー・マシン上のドライブ C: にインストールする場合は、WebSphere Commerce を WebSphere Commerce マシン上のドライブ C: にインストールします。

WebSphere Commerce のインストールと WebSphere Commerce インスタンスの作成が正常に完了したら、以下のステップに進んでください。

注: WebSphere Commerce をインストールして WebSphere Commerce インスタンスを作成した後、Microsoft IIS の Web 関連サービスとアプリケーション (IIS Admin Service、デフォルト Web サイト、デフォルト FTP サイト、デフォルト SMTP 仮想サーバーを含む) をすべて開始しなければなりません。これらのサービスを開始する方法については、Microsoft IIS の資料を参照してください。

1. Microsoft 社の資料の手順に従って、証明権限によって署名されたセキュア証明書をインストールします。
2. Microsoft IIS Server の別名を作成します。Microsoft IIS Server の別名を作成するには、以下のようにします。
 - a. ご使用のオペレーティング・システムに応じて、以下のようにします。
 - Windows NT の場合、以下を行います。
 - 1) 「スタート」メニューから、「プログラム」 → 「Windows NT 4.0 オプション・パック」 → 「Microsoft Internet Information Server」 → 「インターネット・サービス・マネージャー」を選択します。
 - 2) 「Internet Information Server」を拡張表示します。
 - 3) 「host_name」を拡張表示します。
 - Windows 2000 の場合、以下を行います。
 - 1) 「プログラム」 → 「管理ツール」 → 「コンピュータの管理」を選択します。
 - 2) 「インデックス サービス」を拡張表示します。

- b. 「Default Web Site (デフォルト Web サイト)」を選択します。
- c. 「動作」 → 「New (新規)」 → 「Virtual Directory (仮想ディレクトリー)」を選択します。
- d. 「Alias Generation Wizard (別名生成ウィザード)」が表示されます。「次へ」をクリックして、以下の表のように別名とディレクトリー名を入力します。以下の別名ごとに実行許可を付与してください。

注: 作成したい別名ごとに、ステップ 2b ~ 2d を繰り返す必要があります。

表 5.

別名	ディレクトリー	デフォルト・ファイル名
accelerator	<i>drive</i> :%WebSphere%AppServer%installedApps%WC_Enterprise_App_instance_name.ear%wctools.war%tools%common	accelerator.html
storeservices	<i>drive</i> :%WebSphere%AppServer%installedApps%WC_Enterprise_App_instance_name.ear%wctools.war%tools%devtools	storeservices.html
orgadminconsole	<i>drive</i> :%WebSphere%AppServer%installedApps%WC_Enterprise_App_instance_name.ear%wcstores.war%tools%buyerconsole	wcsbuyercon.html
wcsstore	<i>drive</i> :%WebSphere%AppServer%installedApps%WC_Enterprise_App_instance_name.ear%wcstores.war	
adminconsole	<i>drive</i> :%WebSphere%AppServer%installedApps%WC_Enterprise_App_instance_name.ear%wctools.war%tools%adminconsole	wcsadmincon.html
wcs	<i>drive</i> :%WebSphere%AppServer%installedApps%WC_Enterprise_App_instance_name.ear%wctools.war	
wcsdoc	<i>drive</i> :%WebSphere%CommerceServer%web%doc%	
wcs help	<i>drive</i> :%WebSphere%CommerceServer%web%doc%<locale>	
webeditor	<i>drive</i> :%WebSphere%AppServer%installedApps%WC_Enterprise_App_instance_name.ear%wcwebeditor.war	

- e. 「Default Web Site (デフォルト Web サイト)」を選択します。
- f. 「動作」 → 「Properties (プロパティ)」を選択します。
- g. 「マニュアル」タブを選択します。

- h. 「追加」ボタンをクリックして、以下の資料をそれぞれ対応する別名に追加します。
 - accelerator.html
 - storeservices.html
 - wcsadmincon.html
 - wcsbuyercon.html
- i. 「適用」をクリックします。
- j. 各ファイルごとに、ステップ 2f (107 ページ) ~ 2i を繰り返します。
3. SSL ポート 8000 を追加するには、以下のようになります。
 - a. 「Default Web Site (デフォルト Web サイト)」を右マウス・ボタン・クリックして、「**Properties (プロパティ)**」を選択します。
 - b. 「**Web Site (Web サイト)**」タブで、「**拡張**」ボタンをクリックします。
 - c. 「**追加**」をクリックします。
 - d. SSL ポート 8000 を追加して、「**OK**」をクリックします。
4. マシンを再始動します。
5. WebSphere Application Server を再始動します。

WebSphere Commerce をインストールした後に Payment Manager をインストールして構成するよう計画している場合には、追加の構成ステップをいくつか実行する必要があります。Microsoft IIS を IBM WebSphere Payment Manager 3.1.2 とともに実行するよう構成するには、以下を行う必要があります。

1. 「**プログラム**」→「**管理ツール**」→「**Internet Services Manager (インターネット・サービス・マネージャー)**」を選択します。
2. ホスト名を拡張表示します。
3. 「**Default Web Site (デフォルト Web サイト)**」を右マウス・ボタン・クリックします。
4. 「**Properties (プロパティ)**」を選択して、デフォルト Web サイトのプロパティ・ページをオープンします。
5. 「**Properties (プロパティ)**」ノートブックから、「**Directory Security (ディレクトリーのセキュリティ)**」タブを選択します。
6. 右側の「**編集**」ボタンをクリックして、「**Authentication Methods (認証方法)**」ダイアログ・ボックスを表示させます。
7. 「**Anonymous Access (匿名アクセス)**」のチェック・ボックスが選択され、その他のオプションが選択解除されていることを確認します。
8. 「**OK**」をクリックして、変更を完了します。

リモート Microsoft IIS 構成

WebSphere Commerce サーバーからリモートにインストールされている Microsoft IIS Web サーバーを使用する場合は、以下のステップを完了してください。

1. ご使用のオペレーティング・システムに応じて、以下のようになります。
 - Windows NT の場合、以下を行います。
 - a. 「スタート」メニューから、「プログラム」 → 「Windows NT 4.0 オプション・パック」 → 「Microsoft Internet Information Server」 → 「インターネット・サービス・マネージャー」を選択します。
 - b. 「Internet Information Server」を拡張表示します。
 - c. 「host_name」を拡張表示します。
 - Windows 2000 の場合、以下を行います。
 - a. 「プログラム」 → 「管理ツール」 → 「コンピュータの管理」を選択します。
 - b. 「インデックス サービス」を拡張表示します。
2. **WSsamples** に移動し、「動作」 > 「Properties (プロパティ)」を選択します。
3. 「マニュアル」 タブで、「Enable Default Document (デフォルト・マニュアルを使用可能にする)」を選択し、「追加」をクリックします。
4. index.html を入力して、「OK」をクリックします。
5. 再び「OK」をクリックします。
6. 「Theme (テーマ)」に移動し、「動作」 > 「Properties (プロパティ)」を選択します。
7. 「Virtual Directory (仮想ディレクトリー)」タブで、「参照」をクリックします。
drive:¥WebSphere¥AppServer¥WSsamples¥image を選択して、「OK」をクリックします。
8. 再び「OK」をクリックします。

iPlanet Web サーバーのインストールの完了

重要

Web サーバーを WebSphere Commerce マシンからリモートにインストールする場合、両方の製品が同じドライブ名にインストールされていることを確認してください。たとえば、Web サーバー・ソフトウェアをリモート Web サーバー・マシン上のドライブ C: にインストールする場合は、WebSphere Commerce を WebSphere Commerce マシン上のドライブ C: にインストールします。

iPlanet Web サーバーを使用する WebSphere Commerce インスタンスを作成または更新したら、そこで行った変更を、セキュア・サーバーおよび非セキュア・サーバーの obj.conf ファイルに適用する必要があります。

1. ブラウザーで、以下の URL を入力して、iPlanet Web サーバー管理者を立ち上げます。

`http://host_name:8888/`

2. 使用可能なサーバーのリストから非セキュア・サーバーを選択して、「**Manage (管理)**」をクリックします。

注: ご使用の iPlanet Web サーバーの構成に応じて、警告メッセージが表示されることがあります。「**OK**」をクリックします。

3. 右上隅の「**適用**」をクリックします。
4. 「**Load Configuration Files (構成ファイルのロード)**」をクリックします。正常に行われたことを示すメッセージが表示されます。「**OK**」をクリックします。
5. ドロップダウン・リストから再度サーバーを選択して、右上隅の「**適用**」をクリックします。
6. 「**Apply Changes (変更を適用)**」をクリックします。正常に行われたことを示すメッセージが表示されます。「**OK**」をクリックします。
7. 各セキュア・サーバー (ポート 8000 とポート 443) について、ステップ 1 ~ 5 を繰り返します。

リモート iPlanet Web サーバー構成

WebSphere Commerce からリモートにインストールされている iPlanet Web サーバーを使用する場合は、以下のステップを完了してください。

1. テキスト・エディターで、ポート 8000 上にある Web サーバー用の obj.conf ファイルをオープンします (このファイルへのデフォルト・パスは `drive:¥Netscapeserver4¥https-hostname-https-8000¥config¥obj.conf` です)。
2. `<Object name="default">` タグを探します。
3. 以下の行をこの行に追加します。

```
##### IBM WebSphere Commerce #####
NameTrans fn="pfx2dir" from="/wcsdoc" dir="drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥web¥doc"
NameTrans fn="pfx2dir" from="/wchelp" dir="drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥web¥doc¥<locale>"
NameTrans fn="pfx2dir" from="/storeservices"
dir="drive:¥WebSphere¥AppServer¥installedApps¥
WC_Enterprise_App_instance_name.ear¥wctools.war¥tools¥devtools¥
storeservices.html"
NameTrans fn="pfx2dir" from="/adminconsole"
dir="drive:¥WebSphere¥AppServer¥installedApps¥
WC_Enterprise_App_instance_name.ear¥wctools.war¥tools¥
adminconsole¥wcsadmincon.html"
NameTrans fn="pfx2dir" from="/accelerator"
dir="drive:¥WebSphere¥AppServer¥installedApps¥
WC_Enterprise_App_instance_name.ear¥wctools.war¥tools¥common¥
accelerator.html"
NameTrans fn="pfx2dir" from="/wcs"
dir="drive:¥WebSphere¥AppServer¥installedApps¥
```

```
WC_Enterprise_App_instance_name.ear%wctools.war"
NameTrans fn="pfx2dir" from="/webeditor"
dir="drive:%WebSphere%AppServer%installedApps%
WC_Enterprise_App_instance_name.ear%wcwebeditor.war"
##### End of IBM WebSphere Commerce #####
```

4. ファイルを保管します。
5. テキスト・エディターで、ポート 443 上にある Web サーバー用の obj.conf ファイルをオープンします (このファイルへのデフォルト・パスは `drive:%Netscapeserver4%https-hostname-https-443%config%obj.conf` です)。
6. `<Object name="default">` タグを探します。
7. 以下の行をこの行に追加します。

```
##### IBM WebSphere Commerce #####
NameTrans fn="pfx2dir" from="/wcsstore"
dir="drive:%WebSphere%AppServer%installedApps%
WC_Enterprise_App_instance_name.ear%wcstores.war"
NameTrans fn="pfx2dir" from="/orgadminconsole"
dir="drive:%WebSphere%AppServer%installedApps
%WC_Enterprise_App_instance_name.ear%wctools.war%tools%buyerconsole%
wcsbuyercon.html"
NameTrans fn="pfx2dir" from="/wcs"
dir="drive:%WebSphere%AppServer%installedApps%
WC_Enterprise_App_instance_name.ear%wctools.war"
NameTrans fn="pfx2dir" from="/webeditor"
dir="drive:%WebSphere%AppServer%installedApps%
WC_Enterprise_App_instance_name.ear%wcwebeditor.war"
##### End of IBM WebSphere Commerce #####
```

8. ポート 80 上にあるサーバー用の構成ファイルに別名を追加します。
 - a. テキスト・エディターで、各 Web サーバー用の obj.conf ファイルをオープンします (このファイルへのデフォルト・パスは `drive:%Netscapeserver4%https-hostname-https-80%config%obj.conf` です)。
 - b. `<Object name="default">` タグを探します。
 - c. このタグの下に以下の行を追加します。

```
NameTrans fn="pfx2dir" from="/wcsstore"
dir="drive:%WebSphere%AppServer%installedApps%
```

Web サーバーへの資産のコピー

Web サーバーが WebSphere Application Server および WebSphere Commerce からリモートにインストールされる場合、特定のファイルを WebSphere Commerce マシンから Web サーバーにコピーする必要があります。

1. 以下のディレクトリーの内容 (サブディレクトリーを含む) を WebSphere Application Server マシンから Web サーバー・マシンにコピーします。

```
drive:%WebSphere%AppServer%WSsamples
```

Web サーバー・マシンにディレクトリーを作成しなければならないことがあります。

2. 以下のディレクトリーの内容 (サブディレクトリーを含む) を WebSphere Commerce マシンから Web サーバー・マシンにコピーします。

```
drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥web
```

Web サーバー・マシンにディレクトリーを作成しなければならないことがあります。

注: これは、WebSphere Commerce 上の Web 資産を変更するたびに必要手順です。

3. 以下のディレクトリーの内容 (サブディレクトリーを含む) を WebSphere Commerce マシンから Web サーバー・マシンにコピーします。

- `drive:¥WebSphere¥AppServer¥installedApps¥WC_Enterprise_App_instance_name.ear¥webeditor.war`
- `drive:¥WebSphere¥AppServer¥installedApps¥WC_Enterprise_App_instance_name.ear¥wcstores.war`
- `drive:¥WebSphere¥AppServer¥installedApps¥WC_Enterprise_App_instance_name.ear¥wcstools.war`

Web サーバー・マシンにディレクトリーを作成しなければならないことがあります。

注: これは、WebSphere Commerce 上の Web 資産を変更するたびに必要手順です。

4. 以下のディレクトリーの内容 (サブディレクトリーを含む) を WebSphere Commerce マシンから Web サーバー・マシンにコピーします。

```
drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥instances¥instance_name¥xml
```

Web サーバー・マシンにこのディレクトリーを作成しなければならないことがあります。

5. 以下のファイルを WebSphere Commerce マシンから Web サーバー・マシンにコピーします。

```
drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥instances¥wcs_instances
```

Web サーバー・マシンにディレクトリーを作成しなければならないことがあります。

6. Web サーバー・マシン上で、以下のディレクトリーにあるすべての `jsp`、`sar`、および `xml` ファイルを削除します。

```
drive:¥WebSphere¥AppServer¥installedApps¥WC_Enterprise_App_instance_name¥wcstores.wardrive:¥WebSphere¥AppServer¥installedApps¥
```



```
WC_Enterprise_App_instance_name.ear%wcstools.war
drive:%WebSphere%AppServer%installedApps%
WC_Enterprise_App_instance_name.ear%wcwebeditor.war
```

注: これは、WebSphere Commerce 上の Web 資産を変更するときに必要な手順です。

Web サーバー・キャッシュのセットアップ

Web サーバー・キャッシュのセットアップは、キャッシュ可能な Web アドレスの 1 つ以上がセッションから独立している場合に限り必要です。キャッシュ可能な Web アドレスがすべてセッションに従属している場合は、このセクションを飛ばしてください。

Web サーバー・マシン上の Web サーバー・キャッシュ・クライアントから WebSphere Application Server マシン上で実行するキャッシュ・デーモンに要求を直接送るように、キャッシュ・デーモンをセットアップすることができます。このセクションの説明に従って各 Web サーバー・マシン上のキャッシュ・クライアントをセットアップしない場合、キャッシュ・ページは依然として、キャッシュ・デーモンと通信を行う WebSphere Application Server を使用して (また、WebSphere Application Server マシン上で実行して) サービスを提供します。

Application Server キャッシュ・クライアントへのコード・パスが Web サーバー・クライアントへのパスより長い場合、Web サーバー・キャッシュ・クライアントは、セッションから独立したキャッシュ可能要求のサービスをより速く提供し、しかも使用するシステム・リソースをより少なくすることができます。(詳細については、WebSphere Commerce Suite オンライン資料を参照し、キャッシュ要求のセッション従属関係について調べてください。)

以下は、Web サーバー・マシン上での Web サーバー・キャッシュ・クライアントのセットアップについて説明しています。

1. テキスト・エディターで、以下のファイルをオープンします。

```
drive:%WebSphere%AppServer%config%plugin-cfg.xml
```

2. 以下の行を、plugin-cfg.xml ファイルの <Config> の下に直接追加します。

```
<Property name="CacheLibrary" value="drive:%WebSphere%CommerceServer%
bin%wccache.dll" />
```

キャッシュ・プラグインの動作の確認

先に進む前に、ストアが正常に発行されていることを確認します。

1. 以下の行が plugin-cfg.xml ファイルにあることを確認します。

```
<Property name="CacheLibrary" value="drive:%WebSphere%CommerceServer%
bin%wccache.dll" />
```

Web サーバーを再始動します。

2. Web サーバー・マシン上で `WCS_CACHE_PLUGIN` 環境変数を設定します。「スタート」→「設定」→「コントロール パネル」→「システム」→「環境」タブをクリックします。「システム環境変数」の下で、`WCS_CACHE_PLUGIN` 変数を追加し、その値を `drive:¥temp¥cache.txt` の値に設定します。変数を更新した後で、マシンを再始動する必要があります。
3. Web サーバーを開始します。
IBM HTTP Server を使用する場合、IBM HTTP Server をサービスとして開始するのではなく、始動コマンドのコマンド行バージョンを使用してください。
`drive:¥WebSphere¥IBM HTTP Server` ディレクトリーで、以下のように入力します。
`apache`

Netscape iPlanet を使用する場合、Netscape iPlanet をサービスとして開始するのではなく、始動コマンドのコマンド行バージョンを使用してください。セキュア・サーバーおよび非セキュア・サーバー用のサブディレクトリーから、`startsrv.bat` コマンドを実行します。
4. 製品表示ページをストアから要求し、それを (同じ製品について) 再度要求します。
5. 2 番目の製品表示要求についての `CACHE HIT` エントリーを表示することにより、`cache.txt` ファイル内の検査内容を見ることができます。
6. 「システム環境変数」から `WCS_CACHE_PLUGIN` 環境変数を除去します。

Payment Manager を WebSphere Commerce とともに作動するように構成する

Payment Manager を WebSphere Commerce とともに作動するように構成するには、以下のようになります。

1. WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンします。
2. 以下のようにして、別名を作成します。
 - a. 「**WebSphere Administrative Domain (WebSphere 管理可能ドメイン)**」を拡張表示します。
 - b. 「**Virtual Hosts (仮想ホスト)**」を選択します。
 - c. 右側のパネルで `default_host` を選択します。
 - d. 「一般」タブで、「追加」をクリックします。
 - e. 「別名」フィールドに `*:443` と入力し、「適用」をクリックします。

注: SSL を使用可能にしない場合は、WebSphere Commerce インスタンスの作成時に、WebSphere Commerce 構成マネージャーの Payment Manager 設定ページ内で、WebSphere Commerce サーバーが非 SSL Payment Manager クライアントを使用するよう構成しなければなりません。インスタンスを作成した後で Payment Manager 設定を変更することもできますが、変更内容を有効にするために、インスタンスを再始動する必要があります。

3. コマンド・ウィンドウをオープンして、以下のディレクトリーに移動します。

```
drive:¥WebSphere¥AppServer¥bin
```

4. 以下のコマンドを入力します。

```
GenPluginCfg.bat -adminNodeName node_name
```

ここで、*node_name* は、ノードの短縮論理名です。

5. WebSphere Application Server を停止します。 WebSphere Application Server を停止するには、以下のようにします。

注: ステップ 5 ~ 7 が必要とされるのは、Payment Manager が WebSphere Commerce と同じマシンにインストールされている場合だけです。

- a. WebSphere Application Server 管理コンソールを終了します。
 - b. 「サービス」ウィンドウから、「**IBM WS AdminServer 4.0**」を選択します。
 - c. 「停止」をクリックします。
6. テキスト・エディターで、以下のファイルをオープンします。

```
drive:¥WebSphere¥AppServer¥config¥plugin-cfg.xml
```

7. 以下の行を、plugin-cfg.xml ファイルの <Config> の下に直接追加します。

```
<Property name="CacheLibrary" value="drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥bin¥wccache.dll" />
```

8. Web サーバーを停止してから、再始動します。 IBM HTTP Server を使用する場合は、162 ページの『IBM HTTP Server の開始および停止』を参照して追加情報を調べてください。
9. WebSphere Application Server を始動します。 WebSphere Application Server を開始するには、以下のようにします。
 - a. 「サービス」ウィンドウから、「**IBM WS AdminServer 4.0**」を選択します。
 - b. 「開始」をクリックします。
 - c. WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンします。

重要

Payment Manager を使用する前に、少なくとも一度 WebSphere Commerce 管理コンソールにログインすることをお勧めします。 WebSphere Commerce 管理コンソールにログインするには、「スタート」メニューから「プログラム」→「**IBM WebSphere Commerce**」→「管理コンソール」を選択します。デフォルトの管理コンソールのユーザー ID (wcsadmin)、およびデフォルトのパスワード (wcsadmin) を入力します。初回ログイン時に、パスワードを変更するよう促されます。

追加の Payment Manager 構成ステップ

WebSphere Commerce が 3 層環境にインストールされる場合、Payment Manager には追加の構成ステップが必要です。追加の Payment Manager 構成を完了するには、以下のようになります。

1. WebSphere Application Server 管理コンソールで Payment Manager Application Server が停止していることを確認します。
2. Payment Manager マシン上で、次のディレクトリーに移動します。
`drive:¥Program Files¥IBM¥PaymentManager`
3. テキスト・エディターで WCSRealm.properties ファイルをオープンします。
4. WCSHostName エントリーに、Web サーバー・マシンの完全修飾ホスト名が含まれていることを確認します。
5. ファイルを保管します。
6. WebSphere Commerce マシン上で、次のディレクトリーに移動します。
`drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥instances¥instance_name¥xml`
7. テキスト・エディターで、`instance_name.xml` ファイルをオープンします。
8. xml ファイルの PaymentManager セクションの HostName に、Web サーバー・マシンの完全修飾ホスト名が含まれていることを確認します。
9. ファイルを保管します。
10. WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンします。
11. 「**WebSphere Administrative Domain (WebSphere 管理可能ドメイン)**」
→ 「**Nodes (ノード)**」 → 「`node_name`」 → 「**Application Servers**」 →
「**WebSphere Payment Manager**」を拡張表示します。
12. 「**JVM Settings (JVM 設定)**」タブを選択します。
13. 「**System Properties (システム・プロパティ)**」ボックスで、
`wpmui.PaymentServerHostname` を設定し、Web サーバー・マシンの完全修飾ホスト名に値を変更します。
14. 「適用」をクリックします。
15. Payment Manager Application Server を開始します。

Payment Manager 管理者の役割

Payment Manager をインストールする時点で、WebSphere Commerce 管理者 ID `wcsadmin` に Payment Manager 管理者役割が自動的に割り当てられます。Payment Manager 管理者役割が割り当てられている ID では、Payment Manager の制御と管理が可能です。

注:

1. ログオン・ユーザー ID `wcsadmin` は削除したり名前を変更したりしないでください。また、`wcsadmin` に事前に割り当てられている Payment Manager の役割は変更し

ないようにしてください。変更すると、Payment Manager の整合性に関連した WebSphere Commerce の機能の一部が動作しなくなります。

2. WebSphere Commerce の管理者に Payment Manager の役割を割り当てた場合、後でその管理者のログオン・ユーザー ID を削除したり名前を変更したりするときには、ID を削除または名前変更する前に、まずその管理者に割り当てた Payment Manager の役割を削除してください。

重要

wcsadmin ユーザー ID に加えて、Payment Manager は Payment Manager 管理者役割を以下の 2 つの管理者 ID に割り当てます。

- admin
- ncdadmin

あるユーザーが誤ってその Payment Manager 管理者役割を取得することがないようにするには、以下のようになります。

- WebSphere Commerce 管理コンソールを使用して、WebSphere Commerce の中で上記の管理者 ID を作成します。
- Payment Manager のユーザー・インターフェースで、「ユーザー」を選択します。
 - この ID から Payment Manager 管理者の役割を削除します。

Payment Manager マシンのセットアップ

Payment Manager マシンを構成するときは、*IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms* 管理者ガイド の『はじめに』の章を参照してください。このセクションでは、以下のプロセスを説明しています。

- Payment Manager のユーザー・インターフェースの開始
- Payment Manager のマーチャントの作成、およびカセットの許可
- ユーザー役割の割り当て
- アカウントの作成
- 支払処理の管理

Payment Manager のユーザー・インターフェースにログオンする前に、WebSphere Commerce が実行されていること、および Payment Manager アプリケーション・サーバーも開始され、初期化済みであることを確認します。詳しくは、163 ページの『Payment Manager の開始および停止』を参照してください。

重要

Payment Manager のユーザー・インターフェースの「**Payment Manager 設定**」パネルにリストされるホスト名が、完全修飾ホスト名であることを確認してください。そうでない場合は、「ホスト名」フィールドを完全修飾ホスト名に変更して、「更新」をクリックし、「**Disable Payment Manager (Payment Manager 使用不可)**」をクリックしてから、「**Enable Payment Manager (Payment Manager 使用可能)**」をクリックします。

WebSphere Commerce インスタンス用の支払いノードを構成マネージャーでまだ更新していない場合は、69 ページの『Payment Manager』の説明に従って、これを更新してください。

このほか、Payment Manager の管理機能へは、サイト・マネージャーの「Payment Manager」メニューから WebSphere Commerce 管理コンソールを介してもアクセスできます。

JavaServer Pages ファイルのコンパイル

この時点で JavaServer Pages ファイルをコンパイルすることをお勧めします。

JavaServer Pages ファイルをコンパイルすれば、WebSphere Commerce ツールのロードにかかる時間が大幅に短縮されます。JavaServer Pages (JSP) ファイルのバッチ・コンパイルを実行するには、WebSphere Commerce マシンで以下のようにします。

1. コマンド・プロンプトで、`drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥bin` に切り替えます。
2. 以下のコマンドを実行します。

注: このコマンドには大文字小文字の区別があるので、情報を提示されているとおり正確に入力してください。 `enterpriseApp`、`webModule`、または `nameServerHost` 名にスペースが含まれている場合は、以下のように二重引用符で囲まなければなりません。

```
WCSJspBatchCompiler -enterpriseApp "WebSphere  
Commerce Enterprise Application - instance_name"  
-webModule "WCS Tools" -nameServerHost short_host_name  
-nameServerPort 900
```

それらのコンパイルを実行すると、いくつかのエラーが発生することがあります。これらのエラーは無視しても安全です。

セキュリティー・チェッカーの実行

ここでは、WebSphere Commerce のセキュリティー・チェッカーによってシステムのセキュリティーを検査する方法について説明します。セキュリティー・チェッカーは、システムに機密漏れがないかどうかを検査し、削除すべきファイルを識別し、機密情報

を含むファイルの許可と所有権を確認し、IBM HTTP Server および WebSphere Application Server 内のセキュリティー・レベルを検査します。

セキュリティー・チェッカーを使用するには、以下のようにします。

1. 「スタート」メニューから、「プログラム」 → 「IBM WebSphere Commerce」 → 「管理コンソール」を選択します。デフォルトの管理コンソールのユーザー ID (wcsadmin)、およびデフォルトのパスワード (wcsadmin) を入力します。初回ログイン時に、パスワードを変更するよう促されます。
2. 「サイト / ストア」選択ページから「サイト」を選択し、「OK」をクリックして続行します。
3. サイト管理コンソールで、「セキュリティー」メニューから、「Security Checker (セキュリティー・チェッカー)」を選択します。
4. セキュリティー・チェッカーには、セキュリティー・チェッカーを起動するための「立ち上げ」ボタンと、最後に実行されたセキュリティー検査の結果が表示されます。構成マネージャーが正しく構成されている場合は、「機密漏れは見つかりません。」というメッセージが表示されます。
5. ツールの実行が終了したら、「OK」をクリックします。

セキュリティー・チェッカーを実行することによって、次のログが作成されます。

- `drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥instances¥instance_name¥logs¥sec_check.log`。このファイルには、機密漏れの可能性に関する情報が入れられません。

次のステップ

WebSphere Commerce の構成を完了するために必要なステップをすべて終了したら、続いて以下のいずれか 1 つ以上を行います。

- ストア・サービスを使って、独自のストアを作成して発行します。ストア・サービスの使用方法については、WebSphere Commerce のオンライン・ヘルプを参照してください。WebSphere Commerce のオンライン・ヘルプへのアクセスについては、185 ページの『付録 E. 詳細情報の参照先』に記載されています。
- 典型的なストアの構築方法を理解するために、WebSphere Commerce で用意されているデモンストレーション・ストアの InFashion を発行します。ストア・サービスを使って InFashion を発行します。ストア・サービスの使用方法については、WebSphere Commerce のオンライン・ヘルプを参照してください。WebSphere Commerce のオンライン・ヘルプへのアクセスについては、185 ページの『付録 E. 詳細情報の参照先』に記載されています。
- 次のような追加オプションを構成します。
 - 『第 12 章 IBM HTTP Server での実行のための SSL の使用可能化』
 - 『第 9 章 複数の WebSphere Commerce インスタンスの作成』
 - 『第 13 章 WebSphere Application Server のセキュリティーの使用可能化』

- WebSphere Commerce には、追加のソフトウェアが含まれています。次の製品のインストールおよび構成に関する情報は、*IBM WebSphere Commerce 追加ソフトウェア・ガイド* にあります。
 - IBM DB2 テキスト・エクステンダー 7.1
 - WebSphere Commerce Analyzer
 - Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) を WebSphere Commerce とともに使用する
 - SilkPreview
 - LikeMinds Personalization Server
 - Sametime
 - QuickPlace

第 3 部 拡張構成

このセクションでは、WebSphere Commerce で拡張構成作業を実行する方法について説明します。このセクションでは、3 層環境の構成、複数インスタンスの作成、さらに垂直および水平複製の実行の方法について説明しています。

以下のトピックが扱われています。

- 123 ページの『第 9 章 複数の WebSphere Commerce インスタンスの作成』
- 129 ページの『第 10 章 複製』

第 9 章 複数の WebSphere Commerce インスタンスの作成

WebSphere Commerce 5.4 は、複数の WebSphere Commerce インスタンスの作成をサポートしています。つまり、WebSphere Commerce を使用すると、それぞれの WebSphere Commerce インスタンスに異なるホスト名を使用しながら、2 つ以上の WebSphere Commerce インスタンスを同時に実行することができます。この場合、顧客は *host1.domain.com* および *host2.domain.com* にアクセスできます。この方法には、仮想ホスト名 の使用が関係しています。

注:

1. 以下の例は、*demo1*、*demo2*、*host1*、*host2*、*htdocs1*、および *htdocs2* を参照します。これらの例は 1 番目と 2 番目のインスタンスのパラメーター値を表しており、これらの値がインスタンス間で固有であることを示す目的があります。
2. 通常は操作可能な既存の WebSphere Commerce インスタンスがあるので、追加のインスタンスを作成するだけで済みます。既存のインスタンスがある場合、他のインスタンスを追加するためにそのインスタンスのパラメーター値を変更する必要はありません。オプションで、複数インスタンス環境の編成を改善するために、最初のインスタンスのパラメーターの一部を変更することもできます。たとえば、文書ルート・ディレクトリーを *...%htdocs* から *...%htdocs1* に変更して、最初のインスタンスに対応するようにすることができます。

重要

追加の WebSphere Commerce インスタンスを 1 つ作成するたびに、別個の固有マシンに Payment Manager をインストールして構成する必要があります。

仮想ホスト名を使用する複数インスタンス

このセクションでは、仮想ホスト名を使用して複数 WebSphere Commerce インスタンスを作成する方法を示しています。

前提条件

1. 通常は、インスタンスごとに 1 つのインターネット・プロトコル (IP) アドレス、さらにマシンのために 1 つの IP アドレスが必要となります。たとえば、2 つのインスタンスがある場合、通常は合計 3 つの IP アドレスが必要となります。これら 3 つの IP アドレスはネットワーク上で有効であり、関連するホスト名がドメイン・ネーム・システム (DNS) サーバーに存在しなければなりません。以下の例では、既存

のインスタンスがあることを想定しており、追加のインスタンスを作成する方法を示しています。この例で、IP アドレスとホスト名は以下のとおりです。

- *m.mm.mm.mmm*、ホスト名は *host1.domain.com* (既存)
- *n.nn.nn.nnn*、ホスト名は *host2.domain.com* (追加のインスタンス)



- マシンの IP アドレスとホスト名をインスタンスの 1 つに使用することもできます。この場合、2 つのインスタンスのために 2 つの IP アドレスだけが必要になります。
- 複数のインスタンスが同一のホスト名を共用することはできません。インスタンスごとに固有のホスト名が必要です。

注: IBM HTTP Server 1.3.19.1 では、仮想ホストの名前に下線文字を含めることはできません。

2. 各インスタンスのホスト名は、IP アドレスを分離するために完全に解決されなければなりません。たとえば、構成マネージャーを実行して複数インスタンスを作成できることを調べるために、`nslookup` コマンドを各インスタンスのホスト名と IP アドレスの両方で実行します。ホスト名は正しい IP アドレスに解決して、IP アドレスは正しいホスト名に解決するはずですが。

```
nslookup host1.domain.com
```

```
nslookup m.mm.mm.mmm
```

```
nslookup host2.domain.com
```

```
nslookup n.nn.nn.nnn
```

3. インスタンスごとに 1 つの有効な文書ルートがなければなりません。これを行う最も簡単な方法は、既存の文書ルートをコピーして名前変更することです。

IBM HTTP Server を使用している場合、`drive:¥WebSphere¥HTTPServer¥htdocs` をコピーして、それを `drive:¥WebSphere¥HTTPServer¥htdocs2` に名前変更します。オプションで、`drive:¥WebSphere¥HTTPServer¥htdocs` を再度コピーして、`drive:¥WebSphere¥HTTPServer¥htdocs1` に名前変更することもできます。

4. 2 番目のインスタンスを作成する前に、IBM WS AdminServer サービスが「Windows サービス」ウィンドウで開始されていることを確認します。2 番目のインスタンスを作成する前に、IBM WebSphere 管理インスタンスが開始されていることを確認します。
5. 追加のインスタンスごとに、マシンのメモリーを 512 MB ずつ増やす必要があります。

複数インスタンスの作成

最初の WebSphere Commerce インスタンスを作成したと想定する場合、63 ページの『第 7 章 構成マネージャーによるインスタンスの作成または変更』の指示に従って、必要な追加のインスタンスを 1 つずつ作成できます。以下の表で、既存のインスタンスは **インスタンス 1** で表され、新規のインスタンスは **インスタンス 2** で表されます。既

存のインスタンスの値を変更する必要はありません。この表は、新しいインスタンスの変更済みデフォルト値をリストしています。これらの値をインスタンスで使用したい実際の値（インスタンス名、ホスト名、など）に置き換えてください。

構成マネージャーのフィールド	インスタンス 1	インスタンス 2
インスタンス - インスタンス名	<i>demo1</i>	<i>demo2</i>
インスタンス - インスタンス・ルート・パス	<i>drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥instances¥demo1</i>	<i>drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥instances¥demo2</i>
データベース - データベース名	<i>mall1</i>	<i>mall2</i>
Webserver - ホスト名	<i>host1.domain.com</i>	<i>host2.domain.com</i>
Webserver - 基本文書ルート (IBM HTTP Server 用)	<i>drive:¥WebSphere¥HTTPServer¥htdocs1</i>	<i>drive:¥WebSphere¥HTTPServer¥htdocs2</i>
Payment Manager - ホスト名	<i>host1.domain.com</i>	<i>host2.domain.com</i>

インスタンスの開始

WebSphere Commerce インスタンスが作成されると：

1. WebSphere Application Server 管理コンソールで以下のエントリーが作成されていることを確認します。
 - WebSphere Commerce Server demo1
 - WebSphere Commerce Server demo2
 - WebSphere Commerce Oracle DataSource demo1 (Oracle データベースを使用している場合)
 - WebSphere Commerce Oracle DataSource demo2 (Oracle データベースを使用している場合)
 - WebSphere Commerce Oracle JDBC Driver demo1 (Oracle データベースを使用している場合)
 - WebSphere Commerce Oracle JDBC Driver demo2 (Oracle データベースを使用している場合)
 - default_host (demo1 に対応)
 - VH_demo2

2. IBM HTTP Server を使用している場合、以下の <VirtualHost> セクションが IBM HTTP Server 構成ファイル (*drive:¥WebSphere¥HTTPServer¥conf¥httpd.conf*) の Virtual Host セクションに存在することを調べます。

注: 3 層の構成では、以下の行を httpd.conf ファイルに手動で追加する必要があります。

```
<VirtualHost m.mm.mm.mmm>
ServerName host1.domain.com
DocumentRoot "drive:/WebSphere/HTTPServer/htdocs1"
</VirtualHost>
.
.
.
<VirtualHost m.mm.mm.mmm:443>
SSLEnable
SSLClientAuth 0
ServerName host1.domain.com
DocumentRoot "drive:/WebSphere/HTTPServer/htdocs1"
.
.
.
<VirtualHost n.nn.nn.nnn>
ServerName host2.domain.com
DocumentRoot "drive:/WebSphere/HTTPServer/htdocs2"
</VirtualHost>
.
.
.
<VirtualHost n.nn.nn.nnn:443>
SSLEnable
SSLClientAuth 0
ServerName host2.domain.com
DocumentRoot "drive:/WebSphere/HTTPServer/htdocs2"
```

上記の例で SSLClientAuth 0 ディレクティブは、インスタンスの構成マネージャーの Web サーバー・ノードで基本認証モードを選択したことを表していることに注意してください。Web サーバー・ノードで X.509 認証モードを選択した場合、ディレクティブは SSLClientAuth 2 となります。

3. IBM HTTP Server を使用している場合、以下の 2 つの <Directory> セクションが IBM HTTP Server 構成ファイル (*drive:¥WebSphere¥HTTPServer¥conf¥httpd.conf*) の Document Root セクションに存在することを調べます。

```
<Directory "drive:/WebSphere/HTTPServer/htdocs1">
Options Indexes
AllowOverride None
order allow,deny
allow from all
</Directory>

<Directory "drive:/WebSphere/HTTPServer/htdocs2">
Options Indexes
```

```
AllowOverride None
order allow,deny
allow from all
</Directory>
```

4. インスタンスごとに Web サーバー・ホーム・ページをロードできることを確認してください (たとえば、`http://host1.domain.com` および `http://host2.domain.com`)。
5. インスタンスごとにソース Web サーバー・ホーム・ページをロードできることを確認してください (たとえば、`<https://host1.domain.com` および `https://host2.domain.com`)。
6. WebSphere Application Server 管理コンソールの各インスタンスを開始します。
7. 各インスタンスの WebSphere Commerce Accelerator をロードできることを確認してください。

第 10 章 複製

この章では、3 層構成 (リモート Web サーバーとリモート・データベース) を想定した WebSphere Application Server 複製メカニズムの使用方法を示します。1 層または 2 層 (リモート・データベースを使用する場合) の構成など、より単純な WebSphere Commerce 構成に対して WebSphere Application Server 複製メカニズムを使用することもできます。負荷の分担を強化するために WebSphere Application Server 水平複製モデルを使用して WebSphere Commerce マシンを追加したい場合に、この章をお読みください。

この項にとって有用な情報源は IBM Redbooks です。コピーを入手するには、以下の IBM Redbook の Web サイトをご覧ください。

<http://www.redbooks.ibm.com/>

水平複製

水平複製 は、複数の物理マシン上のアプリケーション・サーバーの複製を定義する伝統的な手法であり、これによって、単一の WebSphere アプリケーションが、単一のシステム・イメージを表しながら、複数のマシンにまたがって存在することができます。水平複製はスループットを改善する手段になります。

水平複製を構成するには、以下のようにします。

1. WebSphere Commerce を 3 層構成内にインストールします。
 - マシン A を Web サーバーとします。
 - マシン B をデータベース・サーバーとします。
 - マシン C を WebSphere Commerce サーバーとします。
2. 複製を行うマシンで、WebSphere Commerce をインストールして構成します。このマシンをマシン D とします。インストールの際、以下のオプションを選択する必要があります。

重要

マシン C とマシン D を、同じドライブに、同じディレクトリー構造を使ってインストールする必要があります。

- a. 「セットアップ・タイプ」ウィンドウでは、「カスタム」を選択します。
- b. 「カスタム・インストール」ウィンドウでは、「commerce server (Commerce サーバー)」を選択します。

- c. 「データベースおよび Web サーバーの選択」ウィンドウでは、「**join an existing WebSphere Domain (既存の WebSphere ドメインを結合)**」を選択します。
 - d. リモート Web サーバーの完全修飾ホスト名を入力します。
 - e. リモート・データベースを入力します。データベース・マシンの完全修飾ホスト名とデータベースのシステム ID (SID) を入力するようプロンプトで指示されます。
 - f. WebSphere Commerce のインストールを完了します。
 - g. マシンをリブートします。
3. WebSphere Application Server を再始動します。

WebSphere Commerce マシンを構成する必要があります。マシンを構成するには、次のようにします。

1. マシン D のデータ・ソースを以下のように構成します。
 - a. WebSphere Application Server が開始されていることを確かめます。
 - b. WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンします。
 - c. 「**WebSphere Administrative Domain (WebSphere 管理可能ドメイン)**」 → 「**Resources (リソース)**」 → 「**JDBC Providers (JDBC プロバイダー)**」を展開します。
 - d. **WebSphere Commerce Oracle JDBC ドライバーの *instance_name*** を選択してから、「**Nodes (ノード)**」タブをクリックします。
 - e. 必ず最新の JDBC ドライバーを使用してください。システム上の `classes12.zip` ファイルのロケーションを入力します。
 - f. 「**適用**」をクリックします。
2. マシン C でサーバー・グループを作成します。
 - a. WebSphere Application Server を始動します。
 - b. WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンします。
 - c. 「**WebSphere Administrative Domain (WebSphere 管理可能ドメイン)**」 → 「**ノード**」 → *host_name* → 「**Application Servers (アプリケーション・サーバー)**」の順に拡張表示します。
 - d. **WebSphere Commerce Server - *instance_name*** アプリケーション・サーバーを停止します。
 - e. **WebSphere Commerce Server - *instance_name*** を右マウス・ボタンでクリックし、「**Create Server Group (サーバー・グループの作成)**」を選択します (サーバー・グループがまだ存在しない場合)。
 - f. サーバー・グループ名を入力し、「**OK**」をクリックします。
3. 以下のようにして、WebSphere Commerce Server Group に水平複製を追加します。
 - a. マシン C で WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンします。

- b. 「**WebSphere Administrative Domain (WebSphere 管理可能ドメイン)**」
→ 「**Server Groups (サーバー・グループ)**」の順に拡張表示します。
- c. WebSphere サーバー・グループを右マウス・ボタンでクリックします。
- d. 「**New (新規作成)**」→ 「**Clone (複製)**」を選択します。
- e. 新しい複製名 (たとえば、WebSphere Commerce - *instance_name*) を入力します。
- f. マシン D 上のノードを選択し、「**Create (作成)**」をクリックします。
4. 以下のディレクトリーをマシン C からマシン D にコピーします。
`drive:¥WebSphere¥AppServer¥installedApps¥
WC_Enterprise_App_instance_name.ear`
5. マシン D で、以下に合致するようにこのディレクトリーの名前を変更します。
`drive:¥WebSphere¥AppServer¥installedApps¥
WebSphere_Commerce_Enterprise_Application_-_instance_name.ear`
6. 以下のディレクトリーをマシン C からマシン D にコピーし、既存のディレクトリーを上書きします。
`drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥instance`
7. マシン D のテキスト・エディターで、以下のファイルをオープンします。
`drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥instance¥instance_name¥xml¥
instance_name.xml`

出現するすべての `WC_Enterprise_App_instance_name.ear` を
`WebSphere_Commerce_Enterprise_Application_-_instance_name.ear` に変更します。
8. 以下のコマンドを入力します。
`GenPluginCfg.bat -adminNodeName node_name`

ここで、`node_name` はノードの短い論理名です。
9. テキスト・エディターで、以下のファイルをオープンします。
`drive:¥WebSphere¥AppServer¥config¥plugin-cfg.xml`
10. 以下の行を、`plugin-cfg.xml` ファイルの `<Config>` の下に直接追加します。
`<Property name="CacheLibrary" value="drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥
bin¥wccache.dll" />`
11. `plugin-cfg.xml` ファイルを Web サーバー・マシン (マシン A) とマシン D にコピーします。
12. Web サーバー (マシン A) を再始動します。
13. WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンし、サーバー・グループを始動します。

垂直複製

垂直複製 は、同じ物理マシン上にアプリケーション・サーバーの複数の複製を定義する手法です。経験によると、単一の JVM プロセスによってインプリメントされた単一のアプリケーション・サーバーは、大型のマシンの CPU 能力を十分に利用していないことが示されています。このことは大型のマルチプロセッサ・マシンについて特に言うことで、単一の Java 仮想計算機 (JVM) の中での並行性の制限に起因しています。垂直複製は複数の JVM プロセスを作成するための直接的なメカニズムを提供し、複数の JVM プロセスが一緒になってすべての処理能力を十分に利用することができます。

垂直複製を構成するには、以下のようにします。

1. WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンします。
2. WebSphere Commerce 複製を作成するため、以下のようにします。
 - a. 「**WebSphere Administrative Domain (WebSphere 管理可能ドメイン)**」 → 「ノード」 → 「*host_name*」 → 「**Application Servers (アプリケーション・サーバー)**」の順に拡張表示します。
 - b. 「**WebSphere Commerce Server (WebSphere Commerce サーバー)**」 → 「*instance_name*」 を選択して、右マウス・ボタンでクリックします。「**停止**」を選択します。
 - c. 「**WebSphere Commerce Server (WebSphere Commerce サーバー)**」 → 「*instance_name*」 を右マウス・ボタンでクリックし、「**Create Server Group (サーバー・グループの作成)**」を選択します (サーバー・グループがまだ存在しない場合)。
 - d. サーバー・グループ名 (たとえば WebSphere Commerce Server Group) を入力し、「OK」をクリックします。
 - e. 「**WebSphere Administrative Domain (WebSphere 管理可能ドメイン)**」 → 「**Server Groups (サーバー・グループ)**」の順に拡張表示します。
 - f. 新規サーバー・グループ (たとえば WebSphere Commerce Server Group) を右マウス・ボタン・クリックし、「**新規**」 → 「**Clone (複製)**」を選択します。
 - g. 複製されるアプリケーション・サーバーの名前を入力します。
 - h. 「**作成**」を選択します。
3. WebSphere Application Server プラグインを再生成します。プラグインを再生成するには、以下のようにします。
 - a. コマンド・ウィンドウを開き、次のディレクトリーに移動します。

```
drive:¥WebSphere¥AppServer¥bin
```
 - b. 以下のコマンドを入力します。

```
GenPluginCfg.bat -adminNodeName node_name
```

ここで、*node_name* はノードの短い論理名です。
 - c. WebSphere Application Server を停止します。

- d. テキスト・エディターで、以下のファイルをオープンします。

```
drive:¥WebSphere¥AppServer¥config¥plugin-cfg.xml
```

- e. 以下の行を、plugin-cfg.xml ファイルの <Config> の下に直接追加します。

```
<Property name="CacheLibrary" value="drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥bin¥wccache.dll" />
```

注: リモート Web サーバーを使用している場合は、plugin-cfg.xml を WebSphere Application Server から Web サーバー・マシンにコピーしてください。

- f. Web サーバーを再始動します。
4. WebSphere Application Server を始動します。
 5. WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンします。
 6. 「**WebSphere Administrative Domain (WebSphere 管理可能ドメイン)**」
→ 「**Server Groups (サーバー・グループ)**」 → 「server_group_name」の順に拡張表示します。
 7. サーバー・グループを右クリックし、「**開始**」を選択します。

第 4 部 追加の構成オプション

このセクションでは、WebSphere Commerce とともに追加のソフトウェア・パッケージおよび拡張構成オプションを使用する方法を説明します。以下のトピックが扱われています。

- 137 ページの『第 11 章 サンプル・ストア・アーカイブからストアを作成する』
- 143 ページの『第 12 章 IBM HTTP Server での実行のための SSL の使用可能化』
- 147 ページの『第 13 章 WebSphere Application Server のセキュリティーの使用可能化』
- 157 ページの『第 14 章 単一サインオン』

実動サーバーの場合は、43 ページの『第 5 章 IBM WebSphere Payment Manager 3.1.2 のインストール』および 143 ページの『第 12 章 IBM HTTP Server での実行のための SSL の使用可能化』の章を完了する必要があります。その他の章は、必要に応じて任意で行ってください。

第 11 章 サンプル・ストア・アーカイブからストアを作成する

この章では、WebSphere Commerce に付属しているストア・アーカイブの 1 つからサンプル・ストアを作成するプロセスを示します。さらに別のストアの作成方法やストアのカスタマイズについては、WebSphere Commerce のオンライン・ヘルプをご覧ください。

WebSphere Commerce において、オンライン・ストアを作成するための最も速くて簡単な方法は、WebSphere Commerce に付属のサンプル・ストアの 1 つを使用し、ストア・サービスで利用できるブラウザー・ベースのツールを使用することです。サンプル・ストアは、ストア・アーカイブとして提供されています。

ストア・アーカイブは、ストアの作成に必要な資産すべて (Web 資産やデータベース資産を含む) を納めた圧縮ファイルです。独自のストアを作成するには、サンプル・ストア・サービスの 1 つに基づいて、ストア・サービスのツールを使用して新しいストア・アーカイブを作成します。新しいストア・アーカイブはサンプル・ストア・アーカイブに基づくものなので、それはサンプル・ストア・アーカイブに含まれる資産の正確なコピーを、新しいファイル名およびディレクトリー構造で保存したものです。

この時点で、2 種類の選択肢があります。つまり、ストア・アーカイブをコマース・サーバーに対して発行することによりサンプル・ストアの 1 つに基づく機能的ストアを作成する方法と、まず新しいストア・アーカイブに変更を加えてから、それをサーバーに対して発行する方法です。

ストア・アーカイブ中のデータベース情報を変更するには、資産を直接編集するか、またはストア・サービスのツール (「ストア・プロファイル」ノートブック、「税」ノートブック、および「配送」ノートブック) を使います。

ストア・アーカイブに納められた Web 資産 (ストア・ページ) を変更したり、新しい Web 資産を作成したりするには、WebSphere Commerce Studio のツール、またはその他の選択したツールを使います。

ストアの作成については、*IBM WebSphere Commerce ストア開発者ガイド* をご覧ください。

サンプル・ストアのいずれかを使用してストアを作成するには、以下のようにします。

1. ストア・アーカイブを作成します。
2. ストア・アーカイブを発行します。

ストア・アーカイブの作成

サンプル・ストアのいずれかを使用してストア・アーカイブを作成するには、以下のようになります。

1. 以下のサービスが実行中であることを確認してください。

- OracleOraHome81Agent
- OracleOraHome81DataGather
- OracleOraHome81TNSListener
- OracleServiceSID
- IBM WS AdminServer 4.0
- WebSphere Commerce Server - *instance_name*
- すべての Web サーバー関連のサービス

注: WebSphere Commerce Server *instance_name* が実行中かどうかを調べるには、WebSphere Application Server 管理コンソールを確認します。

2. WebSphere Application Server 管理コンソールで Payment Manager Application Server が開始されていることを確認します。
3. 次のようにして Payment Manager を始動します。
 - a. コマンド・ウィンドウを開き、IBM Payment Manager がインストールされているディレクトリに移動します。
 - b. 以下のコマンドを入力します。

```
IBMPayServer
```

Payment Manager が Web サーバーからリモートの位置にあるマシンにインストールされている場合は、以下のコマンドを使用してこれを開始させてください。

```
IBMPayServer -pmhost fully_qualified_web_server_host_name
```


Payment Manager のパスワードを入力するためのプロンプトが表示されます。これは Payment Manager データベースへの接続時に使用するよう指定したユーザーのパスワードです。

4. 「スタート」メニューから、「プログラム」→「IBM WebSphere Commerce」→「ストア・サービス」を選択します。「ストア・サービス・ログオン」ページが表示されます。インスタンス管理者のユーザー ID とパスワードを入力してから、「Log on (ログオン)」をクリックします。初回ログイン時に、パスワードを変更するよう促されます。
5. 「ストア・アーカイブの作成」ページが表示されます。「ストア・アーカイブ」フィールドに、ストア・アーカイブの名前を入力します。入力した名前に拡張子 .sar が付けられます (たとえば *Mystore.sar*)。この名前がストア・アーカイブのファイル名になります。ストア・アーカイブの作成が終了すると、それは以下の場所に保管されます。

```
drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥instances¥instance_name¥sar
```

6. 「ストア・ディレクトリー」フィールドに、ストアのディレクトリー名を入力します。このディレクトリー名は、サーバー上で Web 資産の発行先となるディレクトリーを定義するものです。ストア・アーカイブが発行されると、デフォルトとして、それはここで定義するストア・ディレクトリーに発行されます。たとえば、「ストア・ディレクトリー」フィールドにディレクトリー名 "Mystore" を入力した場合、以下のディレクトリーが作成されます。

```
drive:¥WebSphere¥AppServer¥installedApps¥WC_Enterprise_App_
instance_name.ear¥wcstores.war¥Mystore
```

7.  「ストア所有者」ドロップダウン・リストから、ストアの所有者である組織を選択します (たとえば、「Seller Organization (セラー組織)」)。

注: 「デフォルト組織」は、購買組織を持たない顧客のために提供されています。デフォルト組織をストア所有者として選択しないでください。

8. 「View (表示)」ドロップダウン・リストから、表示したいサンプル・ストアを選択します。
9. 「サンプル」リスト・ボックスから、ストアの基本となるストア・アーカイブを選択します。「サンプルの説明」ボックスに、サンプルの説明が表示されます。サンプル・ストアをまず表示するには、「プレビュー」をクリックします。
10. 「OK」 をクリックします。
11. ストア・アーカイブの作成が正常に完了したことを知らせるダイアログ・ボックスがオープンします。「OK」 をクリックします。
12. 「ストア・アーカイブの発行」リストが表示されます。作成したストア・アーカイブがリスト中に表示されており、「ストア名」フィールドの名前がサンプル・ストアの名前と同じであることを注意してください。この名前は、「ストア・プロフィール」ノートブックを使って変更できます。

これで、サンプル・ストアに基づく新しいストア・アーカイブが作成されました。その結果、新しいストア・アーカイブには、サンプル・ストアと同じ内容が含まれることとなります。独自のストアを作成する場合は、その情報を変更することとなります。その情報を変更する方法については、WebSphere Commerce のオンライン・ヘルプと *IBM WebSphere Commerce* ストア開発者ガイド をご覧ください。このマニュアルでは、今のところその情報を変更しないでおいてください。

ストア・アーカイブの発行

ストア・アーカイブを WebSphere Commerce Server に対して発行すると、実際に稼働するストアを作成できます。ストア・アーカイブの発行には、2 種類の方法があります。

- ストア・サービスからストア・アーカイブを発行する
- コマンド行からストア・アーカイブを発行する

ここでは、ストア・サービスからの発行についてのみ説明します。発行については、WebSphere Commerce のオンライン・ヘルプ、および *IBM WebSphere Commerce* ストア開発者ガイド をご覧ください。

ストア・サービスからストア・アーカイブを発行する

ストア・アーカイブを WebSphere Commerce Server に対して発行すると、実際に稼働するストアを作成できます。ストア・アーカイブを発行するには、以下のステップを実行してください。

1. 以下のサービスが実行中であることを確認してください。

- OracleOraHome81Agent
- OracleOraHome81DataGather
- OracleOraHome81TNSListener
- OracleServiceSID
- IBM WS AdminServer 4.0
- Websphere Commerce Server - *instance_name*
- すべての Web サーバー関連のサービス

注: WebSphere Commerce Server *instance_name* が実行中かどうかを調べるには、WebSphere Application Server 管理コンソールを確認します。

2. WebSphere Application Server 管理コンソールで Payment Manager Application Server が開始されていることを確認します。
3. Payment Manager が実行中でなければ、次のようにして IBM Payment Manager を始動します。
 - a. コマンド・ウィンドウを開き、IBM Payment Manager がインストールされているディレクトリーに移動します。
 - b. 以下のコマンドを入力します。

```
IBMPayServer
```

Payment Manager が Web サーバーからリモートの位置にあるマシンにインストールされている場合は、以下のコマンドを使用してこれを開始させてください。

```
IBMPayServer -pmhost fully_qualified_web_server_host_name
```

Payment Manager のパスワードを入力するためのプロンプトが表示されます。これは、*payman* データベースに接続する際に使用するよう指定したユーザーのパスワードです。

4. サイト管理者またはストア管理者のアクセス権が必要です。ストア管理者のアクセス権が付与されている場合は、すべてのストアに対するアクセス権があることを確認してください。
5. 「ストア・サービス」の「ストア・アーカイブ」リストで、発行したいストア・アーカイブの横のチェック・ボックスを選択します。

6. 「発行」をクリックします。「ストア・アーカイブの発行」ページが表示されます。
7. 発行オプションを選択します。発行オプションについては、「ヘルプ」をご覧ください。

注:十分に機能するストアを作成するためには、ストア・アーカイブを初めて発行する時点で、商品データ・オプションを含むすべての発行オプションを選択してください。

8. 「OK」をクリックします。ストアが発行されると、「ストア・アーカイブ」リストのページに戻ります。「発行の状況」の列に、発行の状態が示されます。システムの速度によって、発行プロセスに数分かかることがあります。「最新表示」をクリックすると、状況が更新されます。
9. リストからストア・アーカイブを選択し、「発行の要約」をクリックすると、発行の結果が表示されます。
10. Web サーバーが WebSphere Commerce マシンに対してリモートにある場合は、以下のディレクトリの内容 (サブディレクトリも含む) を WebSphere Commerce マシンから Web サーバー・マシンに上書きコピーしてください。

```
drive:¥WebSphere¥AppServer¥installedApps¥  
WC_Enterprise_App_instance_name.ear¥wcstores.war¥Mystore
```

Web サーバー・マシン側で、このディレクトリの中にある JSP ファイルをすべて削除してください。

11. 発行が完了したら、「ストアの立ち上げ」をクリックしてストアを表示し、テストしてください。完了したら、そのサイトにブックマークを付けてブラウザをクローズします。

JavaServer Pages ファイルのコンパイル

JavaServer Pages をコンパイルすれば、ストアのロードにかかる時間が大幅に短縮されます。JavaServer Pages (JSP) ファイルのバッチ・コンパイルを実行するには、WebSphere Commerce マシン上で以下を行ってください。

1. コマンド・プロンプトで、`drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥bin` に切り替えます。
2. 以下のコマンドを実行します。

```
WCSJspBatchCompiler -enterpriseApp "WebSphere  
Commerce Enterprise Application - instance_name"  
-webModule "WCS Stores" -nameServerHost "short_hostname"  
-nameServerPort 900
```

それらのコンパイルを実行すると、いくつかのエラーが発生することがあります。それらは、無視しても問題ありません。

重要:

- 一度に発行できるストア・アーカイブは 1 つだけです。複数同時の発行はサポートされておらず、同時発行すると、どのストアの発行も失敗します。

- 発行中に、ストア・アーカイブによって参照されているファイルが存在するかどうか整合性検査ルーチンで確認されます。整合性検査でエラーがあると、エラーはログに書き込まれます。発行は、通常どおりに継続されます。
- ストアを再発行する場合は、その前にディレクトリー `drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥instances¥instance_name¥cache` からファイルを削除しておいてください。
ストア開発段階では、キャッシングをオフにしてください。そのためには、構成マネージャの「Caching (キャッシング)」パネルをオープンし、「Enable Cache (キャッシュの使用可能化)」の選択が解除されていることを確認してください。
- ストア・サービスからストアを立ち上げる場合、ストア・サービスへのログインで使ったのと同じユーザー名とパスワードを使用してストアにログインします。ストアでパスワードを変更すると、そのユーザーのパスワードも変更することになります。あるいは、パスワードの変更も含めてストアの機能をテストする場合は、そのサイトにブックマークを付け、ブラウザをクローズしてから、再度ストアにログオンしてください。さらに、ブラウザで以下の URL を入力することによって、ストアを立ち上げることもできます。

`https://host_name/webapp/wcs/stores/store_directory/index.jsp`

ストアでのテスト・オーダーの発行

ストアにテスト・オーダーを発行するには、以下のようにします。

1. 以下のようにして、ストアをオープンします。
 - a. 「ストア・サービス」ウィンドウで、特定のストアを選択して「発行の要約」をクリックします。
 - b. 「発行の要約」画面で、「ストアの立ち上げ」を選択します。
 - c. ストアの Web アプリケーションの Web パスを尋ねるウィンドウがオープンします。適切なパスを入力します (デフォルトは /webapp/wcs/stores です)。
 - d. ストアの場所を Web ブラウザーのブックマークに登録します。
 - e. 開いていた Web ブラウザーをすべてクローズして、新しく Web ブラウザーをオープンします。
 - f. ストアのホーム・ページにナビゲートします。
2. ホーム・ページで、商品を選択します。商品ページで、「ショッピング・カートに追加」をクリックします。
3. オーダー・プロセスを完了します。テストでは、VISA のクレジット・カード番号として 0000000000000000 (16 個のゼロ) を使用できます。オーダーが完了していれば、オーダーの確認のページが表示されます。

第 12 章 IBM HTTP Server での実行のための SSL の使用 可能化

WebSphere Commerce インスタンスと IBM HTTP Server を共に作成し終わると、SSL はテストのために使用可能になります。サイトをショッパーに対してオープンする前に、この章の以下のステップを実行して、SSL を実動用に使用可能にしなければなりません。

セキュリティーについて

IBM HTTP Server は暗号化テクノロジーを使用して、商取引のための機密保護機能のある環境を提供します。暗号化とは、インターネット上の情報トランザクションをスクランブルし、受信側がスクランブル解除するまで判読不能にすることです。送信側は算法パターンつまり鍵を使用してトランザクションをスクランブル (暗号化) し、受信側は復号鍵を使用します。これらの鍵は、Secure Sockets Layer (SSL) プロトコルで使用されます。

Web サーバーは認証プロセスを使用して、ビジネス上の取引をしている個人の識別を検証します (つまり、当人が呼称されるとおりの人物であることを確認します)。これには、認証局 (CA) と呼ばれる信頼のおける第三者機関によって署名された証明書を取得することが含まれます。IBM HTTP Server ユーザーの場合、CA は Equifax[®] や VeriSign[®] Inc. などです。他の CA も同様に使用可能です。

実動鍵ファイルを作成するには、以下のステップを完了します。

1. 実動用のセキュリティー鍵ファイルを作成します。
2. 認証局からセキュアな証明書を要求します。
3. 実動鍵ファイルを現行鍵ファイルとして設定します。
4. 証明書を受け取り、実動鍵ファイルをテストします。

これらのステップについて、以下に詳細に説明します。

注:

1. 認証局が署名した実動鍵ファイルをすでに使用している場合、これらのステップを省略することもできます。この章を読んで決定してください。
2. これらのステップを実行する際に、ブラウザにセキュリティー・メッセージが表示されることがあります。それぞれのメッセージに示された情報を注意深く確認して、続行する方法を判別してください。

実動用のセキュリティー鍵ファイルの作成

実動用のセキュリティー鍵ファイルを作成するには、Web サーバー・マシンで以下のようになります。

1. 162 ページの『IBM HTTP Server の開始および停止』の説明に従って、IBM HTTP Server を停止します。
2. ディレクトリーを `drive:¥WebSphere¥HTTPServer¥conf` に移動します。
3. `httpd.conf` のバックアップ・コピーを作成します。
4. `httpd.conf` をテキスト・エディターでオープンします。
5. ポート 443 の以下の行がコメント化されていないことを確認します。
 - a. `#LoadModule ibm_ssl_module modules/IBMModuleSSL128.dll`
 - b. `#Listen 443`
 - c. `#<VirtualHost host.some_domain.com:443>` さらに、この行内の完全修飾ホスト名を置き換える必要もあります。
 - d. `#SSLEnable`
 - e. `#</VirtualHost>`
 - f. 鍵ファイル "`drive:/WebSphere/HTTPServer/ssl/keyfile.kdb`"
6. ポート 8000 の以下の行がコメント化されていないことを確認します。
 - a. `#Listen 8000`
 - b. `#<VirtualHost host.some_domain.com:8000>` さらに、この行内の完全修飾ホスト名を置き換える必要もあります。
 - c. `#SSLEnable`
 - d. `#</VirtualHost>`
7. 変更内容を保管します。
8. `httpd.conf` ファイルに構文エラーが入らないようにするには、`drive:¥WebSphere¥HTTPServer` ディレクトリーに移動して次のコマンドを実行します。

```
apache -t
```
9. 162 ページの『IBM HTTP Server の開始および停止』の説明に従って、IBM HTTP Server を始動します。

認証局に対するセキュアな証明書の要求

直前のステップで作成したセキュリティー鍵ファイルの妥当性を検査するには、Equifax や VeriSign などの認証局 (CA) の証明書が必要です。証明書には、サーバーの公開鍵、その証明書に関連した Distinguish Name、およびその証明書のシリアル番号と有効期限が記されています。

別の認証局を利用する場合は、直接その機関に手続き方法をお問い合わせください。

Equifax ユーザー

Equifax からセキュア・サーバー証明書を要求するには、以下の Web アドレスを参照して、示される指示に従ってください。

<http://www.equifax.com>

Equifax からの証明書は E メールで 2 ～ 4 日以内に送られてきます。

VeriSign ユーザー

VeriSign からセキュア・サーバー証明書を要求するには、以下の URL を参照して、示される指示に従ってください。

<http://www.verisign.com>

示される指示に従ってください。要求を送信すると、証明書は 3 ～ 5 日以内に送られてきます。これを受け取ったら、前の項の説明に従って実動鍵ファイルを作成します（まだ作成していない場合）。

実動鍵ファイルの受け取りおよび現行鍵ファイルとしての設定

CA からの証明書が到着した後、Web サーバーが実動鍵ファイルを使用するように設定する必要があります。以下のステップを完了します。

1. 認証局から受け取った *certificatename.kdb*、*certificatename.rdb*、および *certificatename.sth* ファイルを、`drive:¥WebSphere¥HTTPServer¥ssl` ディレクトリーにコピーします。*certificatename* は認証要求と共に指定した証明書名です。
2. 162 ページの『IBM HTTP Server の開始および停止』の説明に従って、IBM HTTP Server を停止します。
3. 鍵管理ユーティリティー (*ikeyman*) をオープンします。
4. *certificatename.kdb* ファイルを開き、プロンプトで指示されたらパスワードを入力します。
5. 「**Personal Certificates (個人用証明書)**」を選択して、「受け取り」をクリックします。
6. 「参照」をクリックします。
7. 認証局から受け取ったファイルを格納しているフォルダーを選択します。*certificatename.txt* ファイルを選択して、「OK」をクリックします。
8. これで「**Personal Certificates (個人用証明書)**」リスト・ボックスには、VeriSign *certificatename* 証明書または Equifax *certificatename* 証明書がリストされます。
9. 鍵管理ユーティリティーを終了します。
10. ディレクトリーを `drive:¥WebSphere¥HTTPServer¥conf` に移動します。
11. *httpd.conf* のバックアップ・コピーを作成します。

12. httpd.conf をテキスト・エディターでオープンします。
13. ステップ 5 (144 ページ) でリストされた行がコメント化されていないことを確認します。
14. Keyfile "drive:/IBM/IBM HTTP SERVER/ssl/keyfile.kdb" を検索して、上記のステップで作成されたファイルを指し示すようにパス名を変更します。
15. 162 ページの『IBM HTTP Server の開始および停止』の説明に従って、IBM HTTP Server を再始動します。

実動鍵ファイルのテスト

実動鍵をテストするには、以下のようにします。

1. ブラウザーを使用して以下の URL を表示します。

```
https://host_name
```

注:

- a. Web サーバーをカスタマイズしている場合、ホスト名の後に Web サーバーのフロントページの名前を入力しなければならないことがあります。
- b. http ではなく https と入力します。

鍵が正しく定義されていれば、新規の証明書に関するいくつかのメッセージが表示されます。

2. 「**New Site Certificate (新規のサイト証明書)**」パネルで、この証明書を受け入れた場合、「**Accept this certificate forever (until it expires) (この証明書を永続的に (有効期限が切れるまで) 受け入れる)**」ラジオ・ボタンを選択します。
3. Web ブラウザーから、キャッシングおよびプロキシ (または Socks) サーバーの設定値を初期値に戻します。

これで、サーバー上で SSL が使用可能になりました。

第 13 章 WebSphere Application Server のセキュリティーの使用可能化

この章では、WebSphere Application Server のセキュリティーを使用可能にする方法について説明します。 WebSphere Application Server のセキュリティーを使用可能にする、すべての Enterprise JavaBean コンポーネントが何者かによってリモートで呼び出されることを防ぎます。

注: WebSphere Application Server セキュリティーを使用可能にする場合には、ご使用のマシンが以下の要件を満たしているよう強くお勧めします。

- 1 GB 以上のマシン・メモリー
- WebSphere Commerce アプリケーションの場合は、384 MB 以上のヒープ・サイズ

始める前に

セキュリティーを使用可能にする前に、セキュリティーが使用可能になった WebSphere Application Server がユーザー ID の妥当性を検査する方法を知る必要があります。 WebSphere Application Server は LDAP またはオペレーティング・システムのユーザー・レジストリーを WebSphere Application Server ユーザー・レジストリーとして使用できます。

LDAP ユーザー・レジストリーを使用したセキュリティーの使用可能化

LDAP を WebSphere Application Server ユーザー・レジストリーとして使用しているときに WebSphere Application Server を使用可能にするには、システムに管理権限のあるユーザーとしてログインし、以下のようにします。

1. WebSphere Application Server 管理サーバーを開始して、WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンします。
2. コンソールで、以下のようにグローバル・セキュリティー設定値を変更します。
 - a. 「コンソール」メニューから、「**Security Center (セキュリティー・センター)**」を選択します。
 - b. 「一般」タブで、「**Enable Security (セキュリティーを使用可能にする)**」を選択します。
 - c. 「Authentication (認証)」タブで、「**Lightweight Third Party Authentication (LTPA)**」を選択します。 LTPA 設定を入力し、この機能を使用しない場合は「**Enable Single Sign On (単一サインオンを使用可能にする)**」チェック・ボックスのチェックを外します。使用しているディレクトリー・サーバーのタイプに

応じて、以下のように「LDAP Settings (LDAP 設定)」タブに値を入力します。

表 6. SecureWay ユーザー

フィールド名	定義	サンプル値	備考
セキュリティー・サーバー ID	ユーザー ID	<i>user_ID</i>	<ul style="list-style-type: none"> これは LDAP 管理者にすることはできません。 cn=xxx として指定されているユーザーは使用しないでください。 このユーザーのオブジェクト・クラスが、「LDAP Advanced Properties (LDAP 拡張プロパティ)」ウィンドウの「User Filter (ユーザー・フィルタ)」フィールドに指定されたオブジェクト・クラスと互換性があることを確認します。
セキュリティー・サーバー・パスワード	ユーザー・パスワード	<i>password</i>	
ホスト	LDAP サーバーのホスト名	<i>hostname.domain</i>	
ディレクトリー・タイプ	LDAP サーバーのタイプ	SecureWay	
ポート	LDAP サーバーが使用しているポート		
基本識別名	検索に使用される識別名	<i>o=ibm, c=us</i>	
バインド識別名	検索時にディレクトリーにバインドするための識別名		このフィールドは不要です。

表 6. SecureWay ユーザー (続き)

フィールド名	定義	サンプル値	備考
バインド・パスワード	バインド識別名のパスワード		このフィールドは不要です。

表 7. Netscape ユーザー

フィールド名	定義	サンプル値	備考
セキュリティー・サーバー ID	ユーザー ID	<i>user_ID</i>	<ul style="list-style-type: none"> これは LDAP 管理者にすることはできません。 cn=xxx として指定されているユーザーは使用しないでください。 このユーザーのオブジェクト・クラスが、「LDAP Advanced Properties (LDAP 拡張プロパティ)」ウィンドウの「User Filter (ユーザー・フィルター)」フィールドに指定されたオブジェクト・クラスと互換性があることを確認します。
セキュリティー・サーバー・パスワード	ユーザー・パスワード	<i>password</i>	
ホスト	LDAP サーバーのホスト名	<i>hostname.domain</i>	
ディレクトリー・タイプ	LDAP サーバーのタイプ	Netscape	
ポート	LDAP サーバーが使用しているポート		このフィールドは不要です。
基本識別名	検索に使用される識別名	<i>o=ibm</i>	

表7. Netscape ユーザー (続き)

フィールド名	定義	サンプル値	備考
バインド識別名	検索時にディレクトリーにバインドするための識別名		このフィールドは不要です。
バインド・パスワード	バインド識別名のパスワード		このフィールドは不要です。

表8. アクティブ・ディレクトリー・ユーザー

フィールド名	定義	サンプル値	備考
セキュリティー・サーバー ID	sAMAccountName	<i>user_ID</i>	<ul style="list-style-type: none"> 任意の通常ユーザーのユーザー・ログオン名。 cn=xxx として指定されているユーザーは使用しないでください。 このユーザーのオブジェクト・クラスが、「LDAP Advanced Properties (LDAP 拡張プロパティ)」ウィンドウの「User Filter (ユーザー・フィルター)」フィールドに指定されたオブジェクト・クラスと互換性があることを確認します。
セキュリティー・サーバー・パスワード	ユーザー・パスワード	<i>password</i>	
ホスト	LDAP サーバーのホスト名	<i>hostname.domain</i>	
ディレクトリー・タイプ	LDAP サーバーのタイプ	アクティブ・ディレクトリー	

表 8. アクティブ・ディレクトリー・ユーザー (続き)

フィールド名	定義	サンプル値	備考
ポート	LDAP サーバーが使用しているポート		このフィールドは不要です。
基本識別名	検索に使用される識別名	CN=users, DC=domain1, DC=domain2, DC=com	
バインド識別名	検索時にディレクトリーにバインドするための識別名	CN= <i>user_ID</i> , CN=users, DC=domain1, DC=domain2, DC=com	<i>user_ID</i> 値は表示名です。これはユーザー・ログオン名と同じでなくてもかまいません。
バインド・パスワード	バインド識別名のパスワード	<i>bind_password</i>	これはセキュリティー・サーバー・パスワードと同じでなければなりません。

- d. 「Role Mapping (役割マッピング)」タブで、 WebSphere Commerce エンタープライズ・アプリケーションを選択し、「**Edit Mappings (マッピングの編集)**」をクリックします。
 - 1) 「WCSecurityRole」を選択し、「**Select (選択)**」ボタンをクリックします。
 - 2) 「Select users/groups (ユーザー / グループの選択)」チェック・ボックスを選択し、ステップ 2c (147 ページ) で使用したユーザー ID を「検索」フィールドに入力して、「**検索**」をクリックします。「Available Users/Groups (使用可能なユーザー / グループ)」リストからそのユーザーを選択し、「**追加**」をクリックして「Selected Users/Groups (選択したユーザー / グループ)」リストに追加します。次に、各パネルで「**OK**」をクリックし、セキュリティー・センターを終了します。
 - e. LTPA をユーザー・レジストリーとして最初に選択するとき、LTPA パスワードの入力を求めるプロンプトが出されます。LTPA のパスワードを入力します。
3. WebSphere Commerce 構成マネージャーをオープンし、「**Instance List (インスタンス・リスト)**」→「*instance_name*」→「**インスタンス・プロパティ**」→「**セキュリティー**」を選択し、「**Enable Security (セキュリティーを使用可能にする)**」チェック・ボックスを選択します。認証モードとして「**Operating System User Registry (オペレーティング・システムのユーザー・レジストリー)**」を選択し、ステップ 2c (147 ページ) で入力したユーザー名とパスワードを入力します。「**適用**」をクリックして、構成マネージャーを終了します。

4. WebSphere Application Server 管理サーバーを停止してから、再始動します。この後は、WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンするとき、セキュリティー・サーバー ID とパスワードの入力を求めるプロンプトが出されます。

オペレーティング・システム・ユーザー・レジストリーを使用したセキュリティーの使用可能化

オペレーティング・システムのユーザー検証を WebSphere Application Server ユーザー・レジストリーとして使用しているときに WebSphere Application Server セキュリティーを使用可能にするためには、管理権限を持つユーザーとしてログインし、以下のステップを実行してください。

1. WebSphere Application Server 管理コンソールで、以下のようにグローバル・セキュリティー設定値を変更します。
 - a. 「コンソール」メニューから、「**Security Center (セキュリティー・センター)**」を選択します。
 - b. 「一般」タブで、「**Enable Security (セキュリティーを使用可能にする)**」チェック・ボックスを選択します。
2. 「**Authentication (認証)**」タブを選択し、「**Local Operating System (ローカル・オペレーティング・システム)**」ラジオ・ボタンを選択します。
3. 「**Security Server ID (セキュリティー・サーバー ID)**」フィールドにセキュリティー・サーバー ID を入力します。以下のようにユーザー名を入力します。

表 9.

フィールド名	サンプル値	備考
ユーザー ID	<i>user_ID</i>	ログインの際に使用した、オペレーティング・システム管理権限のあるユーザー ID。マシンがドメインに属する場合、完全修飾ユーザー ID を使用します (たとえば、DomainXYZ¥user_id)。このアカウントがドメイン・サーバーに属していて、管理者のグループのメンバーであることを確認してください。
セキュリティー・サーバー・パスワード	<i>password</i>	これはログインの際に使用した、オペレーティング・システム管理権限のあるユーザーのパスワードです。

4. 「**Role Mapping (役割マッピング)**」タブで、WC エンタープライズ・アプリケーションを選択し、「**Edit Mappings (マッピングの編集)**」ボタンをクリックします。
 - a. 「WCSecurityRole」を選択し、「**Select (選択)**」ボタンをクリックします。
 - b. 「Select users/groups (ユーザー / グループの選択)」チェック・ボックスを選択し、ステップ 3 (152 ページ) で使用したユーザー ID を「検索」フィールドに入力して、「**検索**」をクリックします。「Available Users/Groups (使用可能なユーザー / グループ)」リストからそのユーザーを選択し、「**追加**」をクリックして「Selected Users/Groups (選択したユーザー / グループ)」リストに追加します。次に、各パネルで「**OK**」をクリックし、セキュリティー・センターを終了します。
5. WebSphere Commerce 構成マネージャーをオープンし、「**Instance List (インスタンス・リスト)**」→「*instance_name*」→「**インスタンス・プロパティー**」→「**セキュリティー**」を選択し、「**Enable Security (セキュリティーを使用可能にする)**」チェック・ボックスを選択します。認証モードとして「**Operating System User Registry (オペレーティング・システムのユーザー・レジストリー)**」を選択し、ステップ 3 (152 ページ) で入力したユーザー名とパスワードを入力します。「**適用**」をクリックして、構成マネージャーを終了します。
6. WebSphere Application Server 管理サーバーを停止してから、再始動します。この後は、WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンするとき、セキュリティー・サーバー ID とパスワードの入力を求めるプロンプトが出されます。

WebSphere Commerce EJB セキュリティーの使用禁止

WebSphere Commerce では、EJB セキュリティーを使用不可にすることができます。WebSphere Commerce セキュリティーを使用不可にするには、以下のようになります。

1. WebSphere Application Server 管理コンソールを始動します。
2. 「**コンソール**」→「**Security Center (セキュリティー・センター)**」をクリックし、「**一般**」タブの「**Enable Security (セキュリティーを使用可能にする)**」チェック・ボックスを選択解除します。
3. WebSphere Commerce 構成マネージャーをオープンして、「**Instance List (インスタンス・リスト)**」→「*instance_name*」→「**インスタンス・プロパティー**」→「**セキュリティー**」を選択し、「**Enable Security (セキュリティーを使用可能にする)**」チェック・ボックスをクリアします。
4. WebSphere Application Server 管理サーバーを停止してから、再始動します。

WebSphere Commerce セキュリティー・デプロイメント・オプション

WebSphere Commerce は、さまざまなセキュリティー・デプロイメント構成をサポートしています。以下の表には、使用できるセキュリティー・デプロイメント・オプションが示されています。

表 10. 単一マシンのセキュリティーのシナリオ

WebSphere Application Server セキュリティーが使用可能。	<ul style="list-style-type: none">• オペレーティング・システムを WebSphere Application Server レジストリーとして使用する。• データベースを WebSphere Commerce レジストリーとして使用する。 <hr/> <ul style="list-style-type: none">• LDAP を WebSphere Application Server レジストリーとして使用する。• LDAP を WebSphere Commerce レジストリーとして使用する。 <hr/> <ul style="list-style-type: none">• LDAP を WebSphere Application Server レジストリーとして使用する。
WebSphere Application Server セキュリティーが使用不可、および WebSphere Commerce サイトがファイアウォールに守られている。	<ul style="list-style-type: none">• WebSphere Application Server レジストリーは不要。• データベースを WebSphere Commerce レジストリーとして使用する。 <hr/> <ul style="list-style-type: none">• WebSphere Application Server レジストリーは不要。• LDAP を WebSphere Commerce レジストリーとして使用する。

表 11. 複数マシンのセキュリティのシナリオ

<p>WebSphere Application Server セキュリティーが使用可能。LDAP が常にデプロイされている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • LDAP を WebSphere Application Server レジストリーとして使用する。 • LDAP を WebSphere Commerce レジストリーとして使用する。
<p>WebSphere Application Server セキュリティーが使用不可、および WebSphere Commerce サイトがファイアウォールに守られている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • LDAP を WebSphere Application Server レジストリーとして使用する。 • データベースを WebSphere Commerce レジストリーとして使用する。 • LDAP をセットアップし、LDAP レジストリー中に 1 つの管理エントリーを組み込む必要がある。
<p>WebSphere Application Server セキュリティーが使用不可、および WebSphere Commerce サイトがファイアウォールに守られている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • データベースを WebSphere Commerce レジストリーとして使用する。 • WebSphere Application Server レジストリーは不要。 • 単一サインオンはサポートされない。
<p>WebSphere Application Server セキュリティーが使用不可、および WebSphere Commerce サイトがファイアウォールに守られている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • LDAP を WebSphere Application Server レジストリーとして使用する。 • WebSphere Application Server レジストリーは不要。

注: ファイアウォールの内部で WebSphere Commerce サイトを操作する場合は、WebSphere Application Server セキュリティーを使用不可にすることができます。WebSphere Application Server セキュリティーを使用不可にするのは、ファイアウォールの内部で有害なアプリケーションが稼働していないことが確認されている場合に限る必要があります。

第 14 章 単一サインオン

この章では、WebSphere Commerce の単一サインオンのセットアップ方法の概要を示します。単一サインオンについての詳細は、*IBM WebSphere Commerce セキュリティー・ガイド*、バージョン 5.4 を参照してください。

前提条件

単一サインオンを使用可能にするには、以下の要件に適合している必要があります。

- 既存の LDAP サーバーがインストール済みで構成済みであること。LDAP サーバーの構成に関しては、*IBM WebSphere Commerce 追加ソフトウェア・ガイド*、バージョン 5.4 を参照してください。
- WebSphere Commerce がインストール済みで構成済みであること。
- WebSphere Application Server が使用可能になっていること。WebSphere Application Server の使用可能化に関しては、147 ページの『第 13 章 WebSphere Application Server のセキュリティの使用可能化』を参照してください。

単一サインオンの使用可能化

制限事項と前提条件

単一サインオンを WebSphere Commerce と一緒に使用するときには、いくつかの主要な制限があります。制限は次のとおりです。

- LPTA cookie は、さまざまな Web サーバー・ポートに送られることがあります。
- `ldapentry.xml` ファイルに変更を加え、オブジェクト・クラス `ePerson` を追加する必要があります。これは `ldapocs` エレメントの属性です。
- `instance.xml` に変更を加え、LDAP コンポーネント内のユーザーを対象にマイグレーションが「オン」になっていることを確認する必要があります。
- 単一サインオン構成に参加するマシンは、それぞれのシステム・クロックが同期している必要があります。
- 単一サインオンがサポートされるのは、WebSphere Application Server LPTA (Lightweight Third Party Authentication) トークンの読み取りと発行を行えるアプリケーション同士の間のみです。

単一サインオンを使用可能にするには、以下のようにする必要があります。

1. WebSphere Application Server 内で単一サインオンを使用可能にします。詳しくは、次のアドレスにある WebSphere Application Server InfoCenter で「single sign-on」を検索してください。

<http://www.ibm.com/software/webservers/appserv/doc/v40/ae/infocenter/index.html>

「**Single Sign-On: WebSphere Application Server (単一サインオン: WebSphere Application Server)**」を選択してから、以下の項を完了します。

- 「**Configuring SSO for WebSphere Application Server (WebSphere Application Server 用の SSO の構成)**」。
 - 「**Modify WebSphere Application Server security (WebSphere Application Server のセキュリティ設定の変更)**」。

注: LDAP の各フィールドに入力する方法を詳述しているステップは、無視しても問題はありません。

- 「**Export the LTPA keys to a file (ファイルへの LTPA 鍵のエクスポート)**」。
2. WebSphere Commerce マシンで、WebSphere Commerce 構成マネージャーを開始します。
 3. メンバー・サブシステム・ノードを構成するために、以下のようになります。
 - a. 「**WebSphere Commerce**」 → 「*host_name*」 → 「**インスタンス・リスト**」 → 「*instance_name*」 → 「**インスタンス・プロパティ**」 → 「**Member Subsystem (メンバー・サブシステム)**」の順に拡張表示します。
 - b. 「**Authentication Mode (認証モード)**」ドロップダウン・メニューで、「**LDAP**」を選択します。
 - c. 「**Single sign-on (単一サインオン)**」チェック・ボックスにチェックを付けます。
 - d. 「**ホスト**」フィールドに、LDAP サーバーの完全修飾ホスト名を入力します。
 - e. 「**Administrator Distinguished Name (管理者識別名)**」フィールドに、管理者の識別名を入力します。これは、LDAP サーバーで使用しているのと同じ名前にしてください。
 - f. 「**Administrator Password (管理者パスワード)**」フィールドに、管理者のパスワードを入力します。これは、LDAP サーバーで使用しているのと同じパスワードにしてください。「**確認パスワード**」フィールドで、パスワードを確認します。
 - g. 残りのフィールドをそれぞれ完成させます。
 - h. 「**適用**」をクリックしてから「**OK**」をクリックします。
 4. WebSphere Application Server を再始動します。

第 5 部 付録

付録 A. コンポーネントの開始および停止

インストール・プロセス中のさまざまな時点で、WebSphere Commerce のコンポーネントを開始および停止するように求められます。以下の指示に従って、コンポーネントを正常に開始および停止してください。 Oracle8i Database、iPlanet Web サーバー、または Microsoft IIS を開始および停止するには、それらの製品に付属のマニュアルを参照してください。

「Windows サービス」パネルをオープンする

一部の WebSphere Commerce コンポーネントは、Windows サービスとして実行します。これらのコンポーネントを開始して停止するには、「Windows サービス」パネルをオープンする必要があります。

Windows NT で「Windows サービス」パネルをオープンするには、以下のようになります。

1. 「スタート」→「設定」→「コントロール パネル」を選択します。
2. 「コントロール パネル」ウィンドウで、「サービス」アイコンをダブルクリックします。

Windows 2000 で「Windows サービス」パネルをオープンするには、「スタート」→「設定」→「コントロール パネル」→「管理ツール」→「サービス」を選択します。

WebSphere Commerce サーバーの開始および停止

WebSphere Commerce インスタンスを開始または停止するには、以下のようになります。

1. データベース管理システムが開始していることを確認してください。詳細については、Oracle の資料を参照してください。
2. 管理者権限のある Windows ユーザー ID でログオンして、WebSphere Application Server 管理コンソールを立ち上げます。
3. 「**WebSphere Administrative Domain (WebSphere 管理可能ドメイン)**」を拡張表示します。
4. 「**Nodes (ノード)**」を拡張表示します。
5. 「**Application Server (アプリケーション・サーバー)**」を拡張表示します。
6. 「**node_name**」を拡張表示します。
7. 「**WebSphere Commerce Server - instance_name**」を選択し、それを右マウス・ボタン・クリックします。必要に応じて「開始」または「停止」を選択します。

WebSphere Application Server の開始および停止

WebSphere Application Server を開始するには、以下のようにします。

1. 管理者権限を持つ Windows ユーザー ID でログインし、「サービス」ウィンドウをオープンします。「サービス」ウィンドウをオープンする方法については、161 ページの『「Windows サービス」パネルをオープンする』を参照してください。
2. 「サービス」リストから、「**IBM WS AdminServer**」を選択します。
3. 「開始」をクリックします。

WebSphere Application Server を停止するには、以下のようにします。

1. 管理者権限を持つ Windows ユーザー ID でログインし、「サービス」ウィンドウをオープンします。「サービス」ウィンドウをオープンする方法については、161 ページの『「Windows サービス」パネルをオープンする』を参照してください。
2. 「サービス」リストから、「**IBM WS AdminServer**」を選択します。
3. 「停止」をクリックします。

IBM HTTP Server の開始および停止

IBM HTTP Server を開始するには、以下のようにします。

1. 管理者権限を持つ Windows ユーザー ID でログインし、「サービス」ウィンドウをオープンします。「サービス」ウィンドウをオープンする方法については、161 ページの『「Windows サービス」パネルをオープンする』を参照してください。
2. 「サービス」リストから、「**IBM HTTP Server**」を選択します。
3. 「開始」をクリックします。

IBM HTTP Server を停止するには、以下のようにします。

1. 管理者権限を持つ Windows ユーザー ID でログインし、「サービス」ウィンドウをオープンします。「サービス」ウィンドウをオープンする方法については、161 ページの『「Windows サービス」パネルをオープンする』を参照してください。
2. 「サービス」リストから、「**IBM HTTP Server**」を選択します。
3. 「停止」をクリックします。サービスの停止を確認するよう求められたら、「はい」をクリックします。

WebSphere Commerce 構成マネージャーの開始および停止

WebSphere Commerce 構成マネージャー・サーバーを開始するには、以下のようにします。

1. 管理者権限を持つ Windows ユーザー ID でログインし、「サービス」ウィンドウをオープンします。「サービス」ウィンドウをオープンする方法については、161 ページの『「Windows サービス」パネルをオープンする』を参照してください。

2. 「サービス」リストから、「**IBM WC 構成マネージャー・サーバー**」を選択します。
3. 「**開始**」をクリックします。

IBM WebSphere Commerce 構成マネージャー・サーバーを停止するには、以下のようになります。

1. 管理者権限を持つ Windows ユーザー ID でログインし、「サービス」ウィンドウをオープンします。「サービス」ウィンドウをオープンする方法については、161ページの『「Windows サービス」パネルをオープンする』を参照してください。
2. 「サービス」リストから、「**IBM WC 構成マネージャー・サーバー**」を選択します。
3. 「**停止**」をクリックします。

IBM HTTP Administrator の開始および停止

IBM HTTP Administrator を開始するには、以下のようになります。

1. 管理者権限を持つ Windows ユーザー ID でログインし、「サービス」ウィンドウをオープンします。「サービス」ウィンドウをオープンする方法については、161ページの『「Windows サービス」パネルをオープンする』を参照してください。
2. 「サービス」リストから、「**IBM HTTP Administrator**」を選択します。
3. 「**開始**」をクリックします。

IBM HTTP Administrator を開始するには、以下のようになります。

1. 管理者権限を持つ Windows ユーザー ID でログインし、「サービス」ウィンドウをオープンします。「サービス」ウィンドウをオープンする方法については、161ページの『「Windows サービス」パネルをオープンする』を参照してください。
2. 「サービス」リストから、「**IBM HTTP Administrator**」を選択します。
3. 「**停止**」をクリックします。サービスの停止を確認するよう求められたら、「はい」をクリックします。

Payment Manager の開始および停止

Payment Manager をインストールしてシステムを再始動した後、データベース、WebSphere Application Server、および Web サーバー（まだ開始していない場合）を開始してから Payment Manager を開始します。

WebSphere Payment Manager を開始するには、以下のようになります。

1. 「コントロール パネル」をオープンしてから、「サービス」をクリックして、「**IBM WS AdminServer**」サービスが開始していることを確認します。
2. WebSphere Application Server 管理コンソールを開始して、WebSphere Payment Manager Application server が開始していることを確認します。

3. Payment Manager は、データベースに接続するために、またデータベースに格納された機密データを暗号化解除するために、パスワードを必要とします。そのため、このパスワードを保護することは、支払データのセキュリティを保護するために重要となります。Payment Manager を開始すると、Payment Manager データベースに接続するために使用するユーザーのデータベース・パスワードを指定しなければなりません。Payment Manager パスワードを指定するには、次の 2 つの方法があります。
 - コマンド行から Payment Manager パスワードを直接入力します。この方法は最適なセキュリティのために推奨されています。
 - パスワード・ファイルを使用して Payment Manager を不在操作モードで実行します。この方法により、パスワードを入力するユーザーが不在でも Payment Manager が開始できます。

パスワードを入力して Payment Manager を開始する

1 層または 2 層の構成で Payment Manager を開始するには、コマンド・ウィンドウをオープンして、ディレクトリーを Payment Manager がインストールされているディレクトリーに変更します。その後、以下のコマンドを実行します。

```
IBMPayServer
```

Payment Manager パスワードの入力を求めるプロンプトが出されます。これはデータベースへの接続時に使用するよう指定したユーザーのパスワードです。

3 層の環境で Payment Manager を開始するには、コマンド・ウィンドウをオープンして、ディレクトリーを Payment Manager がインストールされているディレクトリーに変更します。その後、以下のコマンドを実行します。

```
IBMPayServer -pmhost webserver_hostname
```

ここで、*webserver_hostname* は Web サーバー・マシンの完全修飾ホスト名です。

Payment Manager パスワードの入力を求めるプロンプトが出されます。これはデータベースへの接続時に使用するよう指定したユーザーのパスワードです。

Payment Manager を不在操作モードで開始する

パスワードを入力するユーザーが不在のときにも Payment Manager を開始可能にする必要がある場合、パスワード・ファイルを作成しなければなりません。デフォルトのパスワード・ファイル名は `.payment` であり、このファイルは Payment Manager インストール・ディレクトリーと同じディレクトリーに置かれます。このファイルには、以下のような単一の行が含まれます。

```
DBPassword=yourpassword
```

このパスワード・ファイルを使用して Payment Manager を開始するには、コマンド・ウィンドウをオープンして、ディレクトリーを Payment Manager インストール・ディレクトリーに変更します。その後、以下のコマンドを入力します。

パスワードの入力を求めるプロンプトが出される代わりに、Payment Manager はパスワードを .payment ファイルから直接読み取ります。

重要

パスワード・ファイルを使用して Payment Manager を開始する場合、他者が支払データのセキュリティを見抜くのが容易になっていることに注意してください。それらの人々がパスワード・ファイルを読むことができれば、データベースにアクセスして、そこに含まれる機密の支払データを暗号化解除することが可能になります。このセキュリティ上の制限を回避するためには、毎回パスワードを入力して Payment Manager を開始するようにするか、またはパスワード・ファイルに追加のセキュリティを設定して無許可のユーザーがそれを読めないようにします。しかし、パスワード・ファイルを保護することにした場合、少なくとも Payment Manager を開始するユーザーが必ずファイルの読み書きを行えるようにする必要があります。

Payment Manager の開始に .payment ファイルを使用しない場合、そのファイルを Payment Manager インストール・ディレクトリーから削除する必要があります。これにより、Payment Manager データベース・パスワードが無許可の人物に公開されるのを防ぎます。

Payment Manager ユーザー・インターフェースの開始

WebSphere Application Server および Payment Manager を開始した後、Payment Manager ユーザー・インターフェースを開始するには、以下のようになります。

1. Web ブラウザーで以下を指し示します。

`http://host_name/webapp/PaymentManager`

ここで、*host_name* は、Web サーバーをインストールしたマシンです。

注: インストールの一部として、Windows の「スタート」メニューにショートカットを指定できます。これらのショートカットを使用して、Payment Manager にログインすることができます。SSL を使用するように Payment Manager を構成した場合、ブラウザーで以下の URL を指し示します。

`https://host_name/webapp/PaymentManager`

2. Payment Manager のログオン・ウィンドウで、Payment Manager 管理者のユーザー ID およびパスワードを入力して、「OK」をクリックします。デフォルトのユーザー ID およびパスワードは、どちらも `wcsadmin` です。

Payment Manager を WebSphere Commerce とともに使用する場合は、すべての WebSphere Commerce 管理者は Payment Manager ユーザーでもあります。しかし、管理者 ID `wcsadmin` だけに Payment Manager 管理者役割が割り当てられています。Payment Manager ユーザー・インターフェースにログインするには、以下の 4 つの Payment Manager 役割のいずれかに割り当てられている管理者 ID を使用する必要があります。

- Payment Manager 管理者
- マーチャント管理者
- スーパーバイザー
- クラーク

Payment Manager 役割の詳細については、*Payment Manager for Multiplatforms* 管理者ガイド を参照してください。

Payment Manager 役割を他の WebSphere Commerce 管理者に割り当てるには、管理者 ID `wcsadmin` を使用して Payment Manager ユーザー・インターフェースにログインし、「ユーザー」管理画面に移動します。この画面から、4 つの Payment Manager 役割のいずれかを、リストされている他の WebSphere Commerce 管理者に割り当てることができます。

`wcsadmin` ID を使用して Payment Manager ユーザー・インターフェースにログインするには、`wcsadmin` ID を使用して WebSphere Commerce 管理コンソールにログインすることにより、事前に ID のデフォルト・パスワードを変更している必要があります。その時点で、パスワードを変更するよう促されます。

Payment Manager 管理機能へは、WebSphere Commerce 管理コンソールを介してもアクセスできます。

Payment Manager の停止

Payment Manager を停止するには、以下を行う必要があります。

- Payment Manager を停止します。
- WebSphere Application Server の下の Payment Manager アプリケーション・サーバーを停止します。

StopIBMPayServer コマンドによる Payment Manager の停止

Payment Manager を停止するには、コマンド・ウィンドウをオープンして、ディレクトリーを Payment Manager がインストールされたディレクトリーに変更します。その後、以下のコマンドを入力します。

```
StopIBMPayServer
```

Payment Manager パスワードの入力を求めるプロンプトが出されます。これはデータベースへの接続時に使用するよう指定したユーザーのパスワードです。

Payment Manager を不在操作モードで停止する

パスワードを入力するユーザーが不在のときにも Payment Manager を停止する必要がある場合、パスワード・ファイルが必要です。このファイルを使用して Payment Manager を停止するには、コマンド・ウィンドウをオープンして、ディレクトリーを Payment Manager インストール・ディレクトリーに変更します。その後、以下のコマンドを実行します。

```
StopIBMPayServer -file
```

WebSphere Application Server を使用する Payment Manager サブレットの停止

WebSphere Application Server 4.0.2 を使用するとき、WebSphere Payment Manager アプリケーション・サーバーを停止することによって、すべてのサブレットを停止できます。WebSphere Payment Manager アプリケーション・サーバーを停止するには、以下のようにします。

1. WebSphere Application Server Administration Client に移動します。「スタート」→「プログラム」→「**WebSphere Application Server**」→「**Administrator's Console (管理コンソール)**」をクリックします。
2. WebSphere Payment Manager アプリケーション・サーバーを選択します。
3. WebSphere Payment Manager アプリケーション・サーバーの横の「**停止**」をクリックします。
4. Administration Client を終了します。

付録 B. 管理用タスク

この章では、WebSphere Commerce のインストールや保守の際に管理ユーザーが実行しなければならないことがある、さまざまなタスクについて説明します。

構成マネージャー・パスワードの変更

構成マネージャー・パスワードを変更するには、構成マネージャーを立ち上げてから、ユーザー ID とパスワードを入力するウィンドウで「変更」をクリックします。

あるいは、構成マネージャーのユーザー ID とパスワードを変更するために、コマンド・ウィンドウに以下のコマンドを入力します。

```
cd drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥bin
config_env
java com.ibm.commerce.config.server.PasswordChecker -action [action type]
    -pwfile [password file] -userid [user ID]
    -password [userid password] [-newpassword [new userid password]]
```

ここで、action type (アクション・タイプ) は、Add、Check、Delete、または Modify です。各パラメーターについて以下に説明します。

pwfile

ファイルが保管されるパス。デフォルトのパスは、
drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥bin です。このパラメーターは常に必須です。

userid

追加、検査、削除、または変更するユーザー ID を入力します。このパラメーターは常に必須です。

password

作成、検査、削除、または変更するパスワードを入力します。このパラメーターは、userid パラメーターと組み合わせて使用する必要があります。このパラメーターは常に必須です。

newpassword

特定のユーザー ID のパスワードを変更するには、このパラメーターを使用します。このパラメーターは、userid および password パラメーターと組み合わせて使用する必要があります。このパラメーターが必要なのは、アクション・タイプ Modify を指定する場合です。

WebSphere Commerce インスタンスの更新

WebSphere Commerce インスタンスの構成設定を変更する場合は、構成マネージャーから実行できます。

構成マネージャーを使用して WebSphere Commerce インスタンスを更新するには、以下のようになります。

1. 構成マネージャーをオープンします。
2. インスタンスのリストから、構成するインスタンスを選択し、設定を変更するノードを選択します。 63 ページの『第 7 章 構成マネージャーによるインスタンスの作成または変更』のガイドラインに従って、インスタンスを更新するために変更しなければならないフィールドを判別します。
3. インスタンスを更新したら、「適用」をクリックして変更内容を適用します。

WebSphere Commerce インスタンスの削除

WebSphere Commerce インスタンスを除去しなければならない場合は、以下のステップを完了します。

1. 既存の *instance_name.xml* ファイルのバックアップを取るには、以下のようになります。
 - a. 以下のディレクトリーに切り替えます。

```
drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥instances¥instance_name¥xml
```
 - b. *instance_name.xml* ファイルをバックアップ・ディレクトリーにコピーします。
2. WebSphere Application Server を始動します。WebSphere Application Server を始動する方法に関する指示は、59 ページの『WebSphere Application Server の開始』を参照してください。
3. コマンド・プロンプトで、以下を入力します。

```
cd drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥bin
rmCommerceServer host_name instance_name
```

ここで、*host_name* はマシンの短縮ホスト名、*instance_name* は WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

4. 以下のいずれかの方法により、WebSphere Commerce インスタンスを削除します。
 - WebSphere Commerce 構成マネージャーで、インスタンスを右マウス・ボタン・クリックし、「インスタンスの削除」を選択します。インスタンスの削除を確認するよう求められたら、「はい」をクリックします。インスタンスの削除が正常に行われたという通知が出されたら、「OK」をクリックします。
 - コマンド・プロンプト・ウィンドウで、以下のコマンドを実行します。

```
cd drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥bin
config_client.bat -startCmdLineConfig deleteInstance <instance_name>
```

5. WebSphere Commerce を除去するには、以下のようにします。
 - a. Oracle ユーザーとしてログインします。
 - b. 端末ウィンドウから、以下のコマンドを発行して SQL*Plus セッションを開始します。

```
sqlplus system/manager@wc_SID
```

ここで、*wc_SID* は、WebSphere Commerce データベースの Oracle システム ID (SID) です。
 - c. SQL*Plus セッションで以下のコマンドを発行します。

```
DROP TABLESPACE wc_tablespace_name INCLUDING CONTENTS;  
DROP USER wc_oracle_user_ID CASCADE;  
EXIT;
```
6. *drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥instances¥instance_name* ディレクトリーを削除します。

コマンド行でのその他の構成作業

コマンド行で、次のことを行えます。

- インスタンスを更新するには、以下のようにします。

```
config_client -startCmdLineConfig updateInstance <xml_file>
```
- インスタンスを削除するには、以下のようにします。

```
config_client -startCmdLineConfig deleteInstance <instance_name>
```
- 既存のインスタンスをリストするには、以下のようにします。

```
config_client -startCmdLineConfig getInstances
```
- インスタンスに関する情報を検索するには、以下のようにします。

```
config_client -startCmdLineConfig getInstanceInfo <instance_name>
```
- インスタンスの構成情報をファイルに出力するには、以下のようにします。

```
config_client -startCmdLineConfig getInstanceConfig  
instance_name print_to_file_name
```

WebSphere Application Server 管理コンソールのオープン

WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンするには、「スタート」メニューから、「プログラム」→「IBM WebSphere」→「Application Server V4.0」→「Administrator's Console (管理コンソール)」を選択します。

WebSphere Application Server のポート・ホスト別名の追加

WebSphere Application Server には、2 つのポート・ホスト別名 (非セキュア・サーバー・ポート (ポート 80) とセキュア・サーバー・ポート (ポート 443)) を追加する必要があります。非セキュア・ポートは自動的に追加されます。セキュア・ポート・ホスト別名を手動で追加するには、以下のようにします。

1. WebSphere Application Server 管理コンソールを始動します。
2. 「**WebSphere Administrative Domain (WebSphere 管理可能ドメイン)**」を拡張表示します。
3. 左側のコンソール・フレームにある「**Virtual Host (仮想ホスト)**」を選択します。
4. 単一インスタンス環境の場合は、**default_host** を選択します。
5. 「**一般**」タブを選択します。
6. ポート番号が「**別名**」フィールドに表示されない場合は、「**追加**」ボタンをクリックして、ポート番号を追加します。

注: ポート 443 がまだ存在しない場合は、それを追加する必要があります。

7. 完了したら、「**適用**」をクリックします。
8. **node_name** を右マウス・ボタン・クリックし、「**Regen WebServer Plugin (Regen WebServer プラグイン)**」を選択します。
9. WebSphere Commerce インスタンスがすでに作成されている場合は、以下を行う必要があります。
 - a. テキスト・エディターで、以下のファイルをオープンします。

```
drive:¥WebSphere¥AppServer¥config¥plugin-cfg.xml
```
 - b. 以下の行を、plugin-cfg.xml ファイルの下に直接追加します。

```
<Property name="CacheLibrary" value="drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥bin¥wccache.dll" />
```
10. Web サーバー、および WebSphere Application Server を再始動します。

IBM HTTP Server ホーム・ページへの接続

IBM HTTP Server を使用している場合、Web サーバーのホーム・ページに接続するには、以下のステップに従います。

1. 「**スタート**」 → 「**設定**」 → 「**コントロール パネル**」をクリックします。
2. 「**コントロール パネル**」ウィンドウで、「**サービス**」アイコンをダブルクリックします。
3. 「**サービス**」ウィンドウで、「**IBM HTTP Server**」という名前を探し、Web サーバーの状況が「**開始**」であることを確かめます。開始していない場合は、Web サーバーを選択して「**開始**」をクリックします。

4. Web サーバーのフロントページにアクセスするには、以下の Web アドレスをブラウザに入力します。

`http://host_name`

Web サーバーをカスタマイズした場合、ホスト名の後に Web サーバーのフロントページの名前を入力する必要があります。

これで、Web サーバーのフロントページに正しくアクセスできました。

IBM HTTP Server 管理者パスワードの設定

IBM HTTP Server 管理者パスワードを設定するには、以下のようになります。

1. 以下のディレクトリーに切り替えます。

`drive:¥WebSphere¥HTTPServer`

2. 以下のコマンドを入力します。

`htpasswd -b conf¥admin.passwd user password`

ここで、*user* および *password* は、IBM HTTP Server への管理権限を付与するユーザー ID およびパスワードです。

これで、IBM HTTP Server 管理パスワードを正しく設定できました。

SSL 鍵ファイル・パスワードの変更

IBM HTTP Server を使用している場合、SSL 鍵ファイル・パスワードを変更するには、以下のステップに従います。

1. 「スタート」メニュー → 「プログラム」 → 「IBM HTTP Server」 → 「Key Management Utility (鍵管理ユーティリティー)」をクリックします。
2. 「Key Database File (鍵データベース・ファイル)」メニューから、「オープン」を選択します。
3. 以下のディレクトリーに切り替えます。

`drive:¥WebSphere¥HTTPServer¥ssl`

鍵ファイル (ファイル拡張子 `.kdb`) は、このフォルダーに入っていないとなりません。入っていない場合は、143 ページの『第 12 章 IBM HTTP Server での実行のための SSL の使用可能化』で示されている指示に従って新しい鍵ファイルを作成します。

4. 「Key Database File (鍵データベース・ファイル)」メニューから、「パスワード変更」を選択します。「パスワード変更」ウィンドウが表示されます。
5. 新しいパスワードを入力し、「Stash the password to a file (パスワードをファイルに隠す)」を使用可能にします。
6. 「OK」をクリックします。パスワードが変更されます。

これで、SSL 鍵ファイルの管理パスワードを正しく変更できました。

WebSphere Commerce データベースの変更

WebSphere Commerce インスタンスに使用されるデータベースを変更するには、以下のようになります。

1. 「スタート」メニュー → 「プログラム」 → 「IBM WebSphere Commerce」 → 「構成」を選択します。
2. 構成マネージャーのユーザー ID とパスワードを入力します。
3. 「Databases (データベース)」ノードを右マウス・ボタン・クリックし、「データベースの作成」を選択します。

注: Oracle データベースを使用している場合は、表スペースとユーザーを除去してから、インスタンス用の表スペースを削除する必要があります。次に、新しい表スペースとユーザーを作成してから、インスタンスを再作成しなければなりません。

4. 使用可能なフィールドに、データベースに関する情報を入力します。詳しくは、63 ページの『第 7 章 構成マネージャーによるインスタンスの作成または変更』を参照してください。
5. 「アクティブ・データベースとして設定」チェック・ボックスが選択されていることを確認します。
6. 「終了」を選択します。
7. Database created successfully というメッセージが表示されます。WebSphere Commerce インスタンスは、新しいデータベースを使用するように構成されます。

WebSphere Commerce 暗号化パスワードの生成

WebSphere Commerce を使用して、暗号化されたパスワードを生成できます。暗号化パスワードを生成するには、以下のようになります。

1. `drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥bin` ディレクトリーに切り替えて、コマンド行から以下のスクリプトを実行します。

```
wcs_password.bat password SALT merchant_key
```

説明

- `password` は平文のパスワード
- `SALT` は暗号化パスワードの生成時に使用するランダム・ストリング。これは、パスワードを更新している特定ユーザーの USERREG データベース・テーブルの SALT 列にあります。
- `merchant_key` はインスタンスの作成中に入力したマーチャント・キー

Payment Manager 暗号化パスワードの生成

WebSphere Commerce を使用して、Payment Manager の暗号化パスワードを生成できます。暗号化パスワードを生成するには、以下のようにします。

1. `drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥bin` ディレクトリーに切り替えて、コマンド行から以下のスクリプトを実行します。

```
wcs_pmpassword.bat password SALT
```

説明

- `password` は平文のパスワード
- `SALT` は暗号化パスワードの生成時に使用するランダム・ストリング。これは、パスワードを更新している特定ユーザーの `USERREG` データベース・テーブルの `SALT` 列にあります。

WebSphere Application Server セキュリティーを使用不可にする

WebSphere Application Server セキュリティーを使用不可にするには、以下のようにします。

1. WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンします。
2. 「コンソール」→「**Security Center (セキュリティー・センター)**」をクリックして、「一般」タブの「**セキュリティー使用可能**」チェック・ボックスを選択解除します。
3. 「終了」をクリックします。
4. 「OK」をクリックします。
5. WebSphere Application Server 管理サーバーを再始動します。

付録 C. WebSphere Commerce コンポーネントのアンインストール

WebSphere Commerce のインストールにおいて問題が生じた場合、1 つまたは複数のコンポーネントをアンインストールしてやり直す場合があります。この付録では、WebSphere Commerce の各コンポーネントをアンインストールする方法と、再インストール・プロセスのガイダンスを示します。

WebSphere Commerce コンポーネントのアンインストール

WebSphere Commerce コンポーネントをアンインストールする前に、以下を行う必要があります。

- 170 ページの『WebSphere Commerce インスタンスの削除』で説明されているように、WebSphere Commerce インスタンスを削除します。
- 以下のサービスを停止します。
 - 162 ページの『WebSphere Commerce 構成マネージャーの開始および停止』で説明されているように、WebSphere Commerce 構成マネージャー・サービスを停止します。
 - 162 ページの『IBM HTTP Server の開始および停止』で説明されているように、IBM HTTP Server を停止します。
 - 162 ページの『WebSphere Application Server の開始および停止』で説明されているように、WebSphere Application Server を停止します。
- `drive:¥WebSphere¥CommerceServer` ディレクトリーまたはそのサブディレクトリーで何らかのファイルを作成したりカスタマイズしており、それらのファイルを保存したい場合は、別のディレクトリーにそれらをバックアップしてください。
- その他の WebSphere Commerce コンポーネントをアンインストールする場合は、以下を行う必要があります。
 - IBM HTTP Server をアンインストールするには、以下のようになります。
 - `drive:¥WebSphere¥HTTPServer` ディレクトリーまたはそのサブディレクトリーで何らかのファイルを作成したりカスタマイズしており、それらのファイルを保存したい場合は、別のディレクトリーにそれらをバックアップしてください。
 - IBM HTTP Server ウィンドウがオープンしている場合は、Web サーバーをアンインストールする前にクローズしてください。
 - IBM HTTP Server をアンインストールする場合は、WebSphere Application Server もアンインストールする必要があります。

- WebSphere Application Server をアンインストールするには、以下のようにします。

注: WebSphere Application Server をスペースを含むディレクトリー (たとえば、Program Files) にインストールした場合、WebSphere Application Server efix をアンインストールする際に問題が生じる可能性があります。詳しくは、WebSphere Application Server の資料を参照してください。

- a. WebSphere Application Server をアンインストールする場合は、IBM HTTP Server もアンインストールする必要があります。
 - b. IBM WebSphere Payment Manager 3.1.2 をアンインストールしてから、WebSphere Application Server をアンインストールします。詳しくは、179 ページの『Payment Manager のアンインストール』を参照してください。
5. WebSphere Commerce、WebSphere Application Server、または IBM HTTP Server をアンインストールするには、以下のようにします。
- a. 管理者権限を持つ Windows ユーザー ID でログオンし、「スタート」 > 「プログラム」 > **IBM WebSphere Commerce** > 「**Uninstall WebSphere Commerce Server (WebSphere Commerce Server のアンインストール)**」をクリックします。
 - b. 「情報」ウィンドウが表示されます。「OK」をクリックして続行します。
 - c. アンインストール・パネルがオープンします。アンインストールするコンポーネントを選択して、「除去」をクリックします。
 - d. 「確認」ウィンドウが表示されます。「はい」をクリックして続行するか、「いいえ」をクリックしてキャンセルします。
 - e. アンインストールしてよいかを確認するウィンドウが表示されます。「はい」をクリックします。
 - f. アンインストール・プログラムが完了したら、マシンを再始動します。
 - g. アンインストールが完了したら、『アンインストール後のステップ』に進みます。

アンインストール後のステップ

アンインストールした製品に応じて完了しなければならない、いくつかのアンインストール手順があります。アンインストール・プロセスを完了するには、以下を行う必要があります。

1. `drive:\¥WebSphere¥CommerceServer` をそのすべてのサブディレクトリーおよびファイルとともに削除します。
2. その他の WebSphere Commerce コンポーネントをアンインストールした場合は、以下を行う必要があります。

- IBM HTTP Server をアンインストールした場合は、以下のようにします。

- a. `drive:\WebSphere\HTTPServer` ディレクトリーと、そのすべてのサブディレクトリーおよびファイルを削除します (この作業がアンインストール・プロセスで実行されなかった場合)。
- WebSphere Application Server をアンインストールした場合は、以下のようになります。
 - a. データベース・ソフトウェアをアンインストールしていない場合は、以下のようにして、WebSphere Application Server データベースを除去します。

Oracle Database Configuration Assistant を使用して、WebSphere Application Server 表スペースを削除します。
 - b. `drive:\WebSphere\AppServer` ディレクトリーを除去します。
 - c. `drive\WebSphere\sql\lib\function\routine\sqlproc\db_name` ディレクトリーを除去します。

注: WebSphere Application Server をインストールする前に Web サーバー構成ファイルに対して行ったすべての変更内容やカスタマイズ内容は、バックアップ構成ファイルにあります。これらの設定を再びアクティブにするには、Web サーバーを再インストールする際に、それらの設定をバックアップ・ファイルからアクティブな Web サーバー構成ファイルに転送する必要があります。

3. ごみ箱を空にします。
4. 引き続きコンポーネントをアンインストールするか、『WebSphere Commerce とそのコンポーネントの再インストール』の説明に従って、WebSphere Commerce を再インストールします。

Payment Manager のアンインストール

IBM Payment Manager 3.1.2 をアンインストールするには、*IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms* インストール・ガイド を参照してください。この資料の詳細な場所については、186 ページの『Payment Manager の情報』を参照してください。

WebSphere Commerce とそのコンポーネントの再インストール

WebSphere Commerce パッケージ全体を再インストールする場合は、1 ページの『第 1 部 WebSphere Commerce 5.4 のインストール』の指示に従ってください。

WebSphere Commerce の一部を再インストールする場合は、以下の一般的な規則に従ってください。

- WebSphere Commerce インストール・プログラムによってすべてのコンポーネントをインストールします。これを行うには、WebSphere Commerce Professional Edition CD を挿入し、`setup.exe` をダブルクリックします。

- アンインストールしたいすべてのコンポーネントをアンインストールしてから、それらすべてを再インストールします (コンポーネントを 1 つずつアンインストールしてから再インストールするではありません)。
- WebSphere Application Server をアンインストールして再インストールしなければ、Web サーバーをアンインストールして再インストールすることはできません。
- 63 ページの『第 7 章 構成マネージャーによるインスタンスの作成または変更』の指示に従って、インスタンスを削除してから再作成する必要があります。

付録 D. トラブルシューティング

この付録は以下の 2 つのセクションに分かれています。

- ダウンロード可能なツール
- ログ・ファイルとその使用法
- 特定のトラブルシューティング・ステップ

ダウンロード可能なツール

WebSphere Commerce Installation and Configuration Checker

WebSphere Commerce Installation and Configuration Checker (IC Checker) は、スタンドアロンのダウンロード可能な問題判別ツールです。これを使用して、WebSphere Commerce のインストールと構成を検査することができます。IC Checker は構成データとログを収集して、簡単なエラー・チェックを実行します。以下に、WebSphere Commerce IC Checker についての説明を示します。

- 現在サポートされている製品は、WebSphere Commerce Suite 5.1 Start と Pro、WebSphere Commerce 5.1 Business Edition、および WebSphere Commerce 5.4 Pro と Business Edition です。
- 現在サポートされているプラットフォームは、Windows NT 4.0、Windows 2000、AIX、Solaris、および OS/400 です。
- ツールは、以下の URL にアクセスしてオンラインでダウンロードすることができます。

Business

www.ibm.com/software/webservers/commerce/whats_new_support.html
www.ibm.com/software/webservers/commerce/wc_be/support-tools.html

Professional

www.ibm.com/software/webservers/commerce/whats_new_support.html
www.ibm.com/software/webservers/commerce/wc_pe/support.html

ログ・ファイル

WebSphere Commerce では以下のログが生成されます。

WASConfig.log

`drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥instances¥instance_name¥logs` ディレクトリーにあります。このログには、WebSphere Commerce エンティティー Bean のインポートやデータ・ソースの作成などの、WebSphere Application Server アクションが記録されます。

createdb.log

`drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥instances¥instance_name¥logs` ディレクトリーにあります。このログには、WebSphere Commerce スキーマ作成に関する情報が記録されます。

WCSconfig.log

`drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥instances` ディレクトリーにあります。このログには、構成マネージャーのアクションが記録されます。このログの詳細レベルは、構成マネージャーのメニュー・オプションを使用して変更できません。

populatedb.log

`drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥instances¥instance_name¥logs` ディレクトリーにあります。このログには、インスタンスの作成時に作成されたデータベースへのデータの移植に関する情報が記録されます。

populatedbni.log

`drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥instances¥instance_name¥logs` ディレクトリーにあります。このログには、インスタンスの作成時に作成されたデータベースへの、各国語データの移植に関する情報が記録されます。

wcs.log

`drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥instances¥instance_name¥logs` ディレクトリーにあります。このログには、WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーの始動に関する情報が記録されます。

トラブルシューティング

WebSphere Application Server の問題

- 「IBM WS Admin Server」サービスが開始に失敗し、「service specific error 10 (サービス固有エラー 10)」メッセージが出されました。

この問題の一般的な原因は、「IBM WS Admin Server」サービスが以前に停止されたときに `stray java` プロセスが完全に終了されなかったことです。タスク・マネージャーでこのようなプロセスを見つけて削除してから、「IBM WS Admin Server」サービスを再始動してください。

この問題は、WebSphere Application Server リポジトリー・データベースとのデータベース接続に問題がある場合にも生じます。詳しくは、`drive:¥WebSphere Application Server¥logs` ディレクトリー中にある WebSphere Application Server ト

レース・ファイル調べてください。また、`admin.config` ファイルに正しい `com.ibm.ejs.sm.adminServer.dbUrl` が含まれていること、および JDBC ドライバー (`classes12.zip`) が `com.ibm.ejs.sm.adminserver.classpath` にあることも確認してください。

さらに、この問題は、`drive:¥WebSphere¥AppServer¥bin¥admin.config` ファイル末尾のブランク行が原因となっている可能性もあります。ブランク行を削除して、サービスの再始動を試行してください。

Web サーバーの問題

ここでは、Web サーバーと WebSphere Commerce 5.4 で発生する可能性のある問題について説明します。

- WebSphere Application Server のインストール後に IBM HTTP Server が始動しません。

IBM HTTP Server をデバッグ・モードで始動してください。これを行うには、コマンド・プロンプトで `drive:¥WebSphere¥HTTPServer` ディレクトリーに切り替えてから、`Apache` と入力します。

サーバーが始動しない場合は、サービスの開始を妨げているエラーがリストされます。すべてのエラーが解決するまで、エラーの訂正と `Apache.exe` の実行を繰り返してください。

- WebSphere Application Server のインストール後に IBM HTTP Server が始動しません。

`httpd.conf` に誤った構文が含まれている場合があります。以下のようにして `httpd.conf` ファイルの構文をチェックしてください。

1. 管理権限を持つ Windows ユーザーとしてログインします。
2. コマンド・プロンプトで、以下のコマンドを入力します。

```
cd drive:¥WebSphere¥HTTPServer
apache -t
```

- WebSphere Application Server のインストール後に IBM HTTP Server が始動しません。

`httpd.conf` ファイルで必要な行が欠落している場合があります。

`drive:¥WebSphere¥HTTPServer¥conf¥httpd.conf` をオープンしてください。以下の行のコメントを解除してください。存在しない場合は追加してください。

```
LoadModule ibm_app_server_http_module
drive:¥WebSphere¥AppServer¥bin¥mod_ibm_app_server_http.dll
```

あるいは、

```
LoadModule ibm_app_server_http_module
drive:¥WebSphere¥AppServer¥bin¥mod_ibm_app_server_http.dll
```

および

```
AddModule mod_app_server_http.c
    drive:¥WebSphere¥AppServer¥bin¥mod_ibm_app_server.dll
```

の行がインストール時に入れ替えられた場合があります。httpd.conf ファイルで LoadModule の後に AddModule があることを確かめてください。

注: 上記の各 LoadModule 行が途中で改行されているのは、単に読みやすくするためです。LoadModule または AddModule で始まり mod_ibm_app_server.dll で終わる各行は、httpd.conf ファイルでは単一の行になっています。

WebSphere Commerce の問題

- WebSphere Commerce JavaServer Pages (JSP) ファイルにアクセスできません。

JSP ファイルが正しい位置にあることを確かめてください。

WebSphere Commerce サーバーが WebSphere Application Server 管理コンソールで始動されていることを確かめてください。

- 応答が遅いです。

オペレーティング・システムのユーティリティを使用して、システム負荷をチェックしてください。

Web サーバーのアクセス・ログをチェックして、システムに対するユーザー負荷を判別してください。IBM HTTP Server の場合、アクセス・ログは drive:¥WebSphere¥HTTPServer¥logs ディレクトリーにあります。

WebSphere Commerce パフォーマンス・モニターを使用可能にして、アクセスされたコンポーネントを識別してください。このコンポーネントは、構成マネージャーを介して使用可能にできます。詳しくは、87 ページの『コンポーネント』を参照してください。

付録 E. 詳細情報の参照先

WebSphere Commerce システムとそのコンポーネントに関するさらに詳しい情報は、さまざまな形式でさまざまな情報源から入手できます。以下の後の項では、利用できる情報と利用方法を示します。

WebSphere Commerce の情報

WebSphere Commerce の情報源は、以下のとおりです。

- WebSphere Commerce オンライン・ヘルプ
- WebSphere Commerce PDF ファイル
- WebSphere Commerce Web サイト

オンライン・ヘルプの使用

WebSphere Commerce オンライン情報は、ユーザーが WebSphere Commerce をカスタマイズ、管理、および再構成するための主要な情報源です。WebSphere Commerce をインストールし終わったら、以下に示すいずれかの方法でその情報にアクセスすることができます。

注: WebSphere Commerce オンライン情報は、インストール・プロセスの際に WebSphere Commerce ドキュメンテーション・オプションを選択した場合にのみ利用できます。

- 「スタート」→「プログラム」→「IBM WebSphere Commerce」→「ドキュメンテーション」を選択します。
- ブラウザーをオープンして、以下の Web アドレスを入力します。

`http://host_name/wchelp`

host_name は、WebSphere Commerce のインストール先のマシンの完全修飾 TCP/IP 名です。

印刷可能なドキュメンテーションの入手方法

一部のオンライン情報は、PDF ファイルの形式でも用意されています。それは、Adobe® Acrobat® Reader を使うことによって表示および印刷できます。Acrobat Reader は、Adobe Web サイトから無料でダウンロードできます。その Web アドレスは以下のとおりです。

`http://www.adobe.com`

WebSphere Commerce Web サイトの閲覧

WebSphere Commerce 製品に関する情報は、WebSphere Commerce Web サイトから入手できます。

- Business Edition:

http://www.ibm.com/software/webservers/commerce/wc_be/lit-tech-general.html

- Professional Edition:

http://www.ibm.com/software/webservers/commerce/wc_pe/lit-tech-general.html

このマニュアルのコピー、およびこのマニュアルの更新済みバージョンは、WebSphere Commerce Web サイトの Library のセクションから PDF ファイルの形式で入手できます。さらに、この Web サイトから、新規および更新済みのドキュメンテーションを入手することもできます。

IBM HTTP Server の情報

IBM HTTP Server の情報は、以下の Web アドレスで入手できます。

<http://www.ibm.com/software/webservers/httpservers/>

資料は、HTML 形式、PDF ファイル、あるいはその両方で入手できます。

Payment Manager の情報

Payment Manager に関するその他の情報は、以下の Payment Manager Web サイトのライブラリー・リンクを介して入手することができます。

<http://www.ibm.com/software/webservers/commerce/payment>

Payment Manager のドキュメンテーションは、以下の場所で入手できます。

- IBM Payment Manager 3.1.2 の CD の %docs%locale ディレクトリー
- IBM Payment Manager 3.1.2 カセット CD の %docs%locale ディレクトリー
- 以下の場所にインストールされます。

```
drive:%WebSphere%AppServer%InstalledApps%PaymentManager.ear%  
PaymentManager.war%locale
```

以下の Payment Manager ドキュメンテーションを入手することができます。

- *IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms* インストール・ガイド の PDF ファイル (paymgrinstall.pdf)
- *IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms* 管理者ガイド の PDF ファイル (paymgradmin.pdf)
- *IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms* プログラマーのガイドとリファレンス の PDF ファイル (paymgrprog.pdf)

- *IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms for SET 補足* の PDF ファイル (paymgrset.pdf)
- *IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms Cassette for VisaNet Supplement* の PDF ファイル (paymgrvisanet.pdf)
- *IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms Cassette for CyberCash 補足* の PDF ファイル (paymgrcyber.pdf)
- *IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms for BankServACH Supplement* の PDF ファイル (paymgrbank.pdf)
- Payment Manager の README ファイル、HTML 形式 (readme.framework.html)
- IBM Cassette for SET の README ファイル、HTML 形式 (readme.set.html)
- IBM Cassette for VisaNet README ファイル、HTML 形式 (readme.visanet.html)
- IBM Cassette for CyberCash README ファイル、HTML 形式 (readme.cybercash.html)
- IBM Cassette for BankServACH README ファイル、HTML 形式 (readme.bankservach.html)

WebSphere Commerce オンライン・ヘルプの「*Secure Electronic Transactions*」セクションにも、Payment Manager に関する情報が含まれています。

WebSphere Application Server

WebSphere Application Server に関する情報は、以下の WebSphere Application Server Web サイトで入手できます。

<http://www.ibm.com/software/webservers/appserv>

その他の IBM 出版物

ほとんどの IBM 出版物は、IBM 指定販売業者または IBM の営業担当員にお問い合わせいただくことにより、購入できます。

付録 F. プログラム仕様と所定稼働環境

このバージョンの WebSphere Commerce は、以下の操作環境をサポートします。

- Windows NT Server 4.0、Service Pack 6a
- Windows 2000 Server または Advanced Server

WebSphere Commerce 5.4 は、以下のコンポーネントから成ります。

WebSphere Commerce Server

WebSphere Commerce Server は、e-commerce ソリューション内のストアおよびコマース関連機能を処理します。機能性は以下のコンポーネントによって実現されています。

- ツール (ストア・サービス、ローダー・パッケージ、 Commerce Accelerator、管理コンソール)
- サブシステム (カタログ、メンバー、ネゴシエーション、オーダー)
- 商品アドバイザー
- 共通サーバー・ランタイム
- システム管理
- メッセージング・サービス
- WebSphere Application Server

ストア・サービス

ストア・サービスは、ストアの特定の運用機能を作成、カスタマイズ、および保守するための中心点として機能します。

ローダー・パッケージ

ローダー・パッケージを使用すると、商品情報を ASCII および XML ファイルで初期ロードできます。また、全体情報、または部分的な情報のインクリメンタル更新もできます。オンライン・カタログを更新するには、このツールを使用します。

WebSphere Commerce Accelerator

ストア・データおよび商品データが作成されたら、それを WebSphere Commerce Accelerator で使用して、ストアを管理し、ビジネス戦略を促進します。WebSphere Commerce Accelerator は、WebSphere Commerce がオンライン・ストアを運営するために配布するすべての機能 (ストア管理、商品管理、マーケティング、顧客のオーダー、顧客サービスなど) のための統合ポイントを提供します。

WebSphere Commerce 管理コンソール

サイト管理者またはストア管理者は、管理コンソールを使うことによって、サイトおよびストアの構成に関連したタスクを実行できます。

- ユーザーおよびグループの管理 (アクセス制御)
- パフォーマンス・モニター
- メッセージングの構成
- IBM WebSphere Payment Manager の機能
- Brokat Blaze Rule の管理

WebSphere Commerce 5.4 には、以下の製品がバンドルおよびサポートされています。

IBM DB2 ユニバーサル・データベース 7.1.0.55

DB2 ユニバーサル・データベースは、サイトに関するあらゆる情報のリポジトリとして、WebSphere Commerce によって使用される、機能の充実したリレーショナル・データベースです。それには、商品データとカテゴリー・データ、ページのグラフィック・エレメントへのポインター、オーダー状況、住所情報、その他の多岐にわたるデータが含まれます。

DB2 エクステンダー

DB2 エクステンダーは、DB2 のオプション・コンポーネントであり、サイトのための付加的な検索機能を提供します。DB2 テキスト・エクステンダーは、顧客による多種多様な検索をサポートします。それには、同義語検索、不完全一致や類似語の検索、そしてブール検索やワイルドカード検索が含まれます。

IBM HTTP Server 1.3.19.1

IBM HTTP Server は、さまざまな管理機能を提供する堅固な Web サーバーです。提供される機能には、Java デプロイメントのサポート、プロキシ・サーバーのサービス、そしてクライアント / サーバーの認証やデータ暗号化などの SSL 3 のサポートを含むセキュリティー機能が含まれます。

IBM Payment Manager 3.1.2

Payment Manager は、SET (Secure Electronic Transaction) や Merchant Initiated Authorization など、さまざまな方法を使用したマーチャント用リアルタイム・インターネット支払処理を提供します。

WebSphere Application Server 4.0.2

WebSphere Application Server は、インターネットおよびイントラネット Web アプリケーションを作成、配備、管理するための Java ベースのアプリケーション環境です。この製品には IBM Developer Kit for Windows, Java 2 Technology Edition, v1.3 が含まれています。

IBM WebSphere Commerce Analyzer 5.4

IBM WebSphere Commerce Analyzer は、WebSphere Commerce のオプションとしてインストールされる新しい機能です。IBM WebSphere Commerce

Analyzer のエントリー版 (WebSphere Commerce 専用) は、顧客プロフィールやキャンペーン・パフォーマンスのモニターのためのレポート機能を提供しません。レポートはカスタマイズできません。IBM WebSphere Commerce Analyzer は、Brio Broadcast Server がなければインストールできません。

Brio Broadcast Server

Brio Broadcast Server は、照会の処理およびレポートの配布を自動化するバッチ処理サーバーです。Brio Broadcast Server は大量のデータを大勢の人々に配布することができますが、セキュリティ保護が製品に組み込まれて、管理者はデータベースへのアクセスおよび文書の配布を厳重に制御できます。

IBM SecureWay Directory Server 3.2.1

IBM SecureWay Directory は、アプリケーション固有のディレクトリーの急増 (コストの増加の主要な要因となる) を解消するための共通ディレクトリーを提供します。IBM SecureWay Directory は、LDAP のクロス・プラットフォームであり、セキュリティおよび e-business ソリューションに対して、高度にスケラブルで、堅固なディレクトリー・サーバーです。WebSphere Commerce に付属の SecureWay のバージョンは 3.1.1.5 ですが、現在では、Web からダウンロード可能な IBM SecureWay Directory Server 3.2.1 がサポートされています。

Segue SilkPreview 1.0

Segue SilkPreview は、アプリケーション開発の総合的な結果分析とレポートのための情報リポジトリーです。

WebSphere Commerce 5.4 Recommendation Engine powered by LikeMinds

5.2.1 Macromedia LikeMinds は、個々の Web 訪問者に対して商品推奨とターゲットを絞った販売促進を行います。これは、共同フィルター操作および市場バスケット分析に基づく、Personalization サーバーです。

WebSphere Commerce 5.4 は、以下のものもサポートしています。

- Oracle Database 8.1.7 Enterprise Edition または Standard Edition
- Lotus Domino Web サーバーの 5.0.5、5.0.6、および 5.0.8
- iPlanet Web サーバー Enterprise Edition 4.1.8
- Microsoft IIS 4.0

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品、プログラムまたはサービスの操作性の評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。IBM 製品、プログラムまたはサービスに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない機能的に同等のプログラムまたは製品を使用することができます。ただし、IBM によって明示的に指定されたものを除き、他社の製品と組み合わせた場合の動作の評価と検証はお客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む。) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権の許諾については、下記の宛先に書面にてご照会ください。

〒106-0032 東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

本書は定期的に見直され、必要な変更（たとえば、技術的に不適切な表現や誤植など）は、本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム（本プログラムを含む）との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Canada Ltd.
Office of the Lab Director
8200 Warden Avenue
Markham, Ontario
L6G 1C7
Canada

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお問い合わせください。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この製品で使用されているクレジット・カードのイメージ、商標、商号は、そのクレジット・カードを利用して支払うことを、それら商標等の所有者によって許可された人のみが、使用することができます。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

WebSphere	DB2	DB2 Extenders
DB2 Universal Database	VisualAge	IBM
SecureWay		

Notes、および Lotus は、Lotus Development Corporation の商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Action Media、LANDesk、MMX、Pentium および ProShare は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

SET、SET ロゴ、SET Secure Electronic Transaction および Secure Electronic Transaction は、SET Secure Electronic Transaction LLC の商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group がライセンスしている米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名などはそれぞれ各社の商標または登録商標です。

索引

日本語、数字、英字、特殊文字の順に配列されています。なお、濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

アンインストール

Payment Manager 179

WAS データベースの除去 179

WebSphere Commerce のコンポーネント 177

インスタンス、WebSphere Commerce

開始と停止 161

複数の Commerce インスタンスの作成 123

複数の開始 125

複数の作成 123

複数を作成するステップ 124

複数を作成するための前提条件 123

メモリー所要量、複数の作成のため 124

問題判別 184

IBM HTTP Server の考慮事項、複数作成について 124, 126

WebSphere Application Server の開始 59

インスタンス、WebSphere Commerce

インスタンスの更新 170

インスタンス・ノード、構成マネージャ 65, 77

インストール

インストール前 3

カスタム・インストール 26, 27

カセットのインストール 49

完了、iPlanet Web サーバーの 96, 109

検証とトラブルシューティング 39

インストール (続き)

コンポーネントの開始および停止 161

前提条件ソフトウェア要件 5

前提条件となるハードウェア要件 4

その他の要件 8

知識、必要な 3

ディスク・スペース 5

デフォルトのインストール・パスの指定変更 29, 32, 34, 38

ページング・スペース 5

メモリー所要量 5

問題判別用の WebSphere

Commerce ログ・ファイル 181

リモート Oracle 55

ロータス ノーツ 8

CyberCash Cassette のインストール 49

iPlanet Web サーバー 20

LAN アダプター 5

Oracle に関する必要な知識 3

Payment Manager 43

Payment Manager のインストール手順 47

SET Cassette のインストール 49

TCPIP プロトコル 5

Web サーバー 19

Web サーバーを始動できない 183

WebSphere Application Server の問題 182

WebSphere Commerce のコンポーネント 25

Windows NT Server バージョン 4.0 6

Windows ユーザー ID 8

インストール前

仮想ホスト名を使用する複数インスタンスの 123

その他の要件 8

インストール前 (続き)

ソフトウェア要件 5

知識、必要な 3

ディスク・スペース 5

ハードウェア要件 4

ページング・スペース 5

メモリー所要量 5

要件 3

ロータス ノーツ 8

LAN アダプター 5

Oracle に関する必要な知識 3

Payment Manager 43, 46

Payment Manager のソフトウェア要件 44

Payment Manager のハードウェア要件 43

TCPIP プロトコル 5

WebSphere Commerce のコンポーネントのインストール前 25

Windows NT Server バージョン 4.0 6

Windows ユーザー ID 8

インストール・パス (デフォルト) viii

オークション・ノード、構成マネージャ 72, 88

オープン、WebSphere Application Server 管理コンソールの 171

応答が遅い 184

[カ行]

開始

構成マネージャ 64

IBM HTTP Administrator 163

IBM HTTP Server 162

Oracle 161

Payment Manager 163

Payment Manager ユーザー・インターフェース 165

開始 (続き)

- WebSphere Application Server 59, 162
 - WebSphere Commerce インスタンス 73
 - WebSphere Commerce サーバー 161
 - WebSphere Commerce のコンポーネント 161
 - 鍵管理ユーティリティ 145
 - 鍵ファイル、実動のために受け取って設定する 145
 - 鍵ファイル、実動のためにテストする 146
 - 拡張構成オプション 121, 135
 - 確認、リモート Oracle インストールの 56
 - 仮想ホスト名、前提条件 123
 - 仮想ホスト名、複数インスタンスに使用 123
 - 仮想ホスト名、複数インスタンスの開始 125
 - 仮想ホスト名、複数インスタンスを作成するステップ 124
 - 管理コンソール ix
 - 管理用タスク
 - 構成マネージャー・パスワードの変更 169
 - コンポーネントの開始および停止 161
 - IBM HTTP Server 管理者パスワードの設定 173
 - IBM HTTP Server ホーム・ページへの接続 172
 - SSL 鍵ファイル・パスワードの変更 173
 - WebSphere Application Server 管理コンソールのオープン 171
 - WebSphere Application Server へのポート・ホスト別名の追加 172
 - WebSphere Commerce インスタンスの更新 170
- 規則、このマニュアルで使用する vii

- グラフィックス表示可能モニター要件 5
- グローバル・データベース名、Oracle の 55
- 検証、インストールの 39
- 構成、構成マネージャーでのストア・サービス・ノードの 89
- 構成作業
 - 構成マネージャー・パスワードの変更 169
 - コンポーネントの開始および停止 161
 - ビジネス・オプション 121, 135
 - リモート Payment Manager の場合のステップ 51
 - iPlanet Web サーバー 20
 - WebSphere Commerce Suite 53
 - WebSphere Commerce のインスタンス 63
- 構成設定、変更 170
- 構成マネージャー
 - インスタンス・ノード 65, 77
 - インスタンス・プロパティ・ノード 73
 - オークション・ノード 72, 88
 - 起動 64
 - キャッシュ・ノード 89
 - 構成設定の変更 170
 - コンポーネント・ノード 87
 - 作成、インスタンスの 63
 - ストア・サービス・ノードの構成 89
 - セッション管理ノード 80
 - データベース・ノード 66, 73
 - トランスポート・ノード 90
 - パスワードの変更 169
 - メッセージング・ノード 71, 79
 - メンバー・サブシステム・ノード 78
 - ライセンス・ユーザー管理ノード 91
 - レジストリー・ノード 87
 - ログ・システム・ノード 70, 89
 - Commerce アクセラレーター・ノード 88
 - Payment Manager ノード 69, 77

構成マネージャー (続き)

- Web サーバー・ノード 67, 75
- WebSphere ノード 68, 75
- 構成マネージャーでの Commerce アクセラレーター・ノード 88
- 構成マネージャーでの Web サーバー・ノード 75
- 構成マネージャーでのインスタンス・プロパティ・ノード 73
- 構成マネージャーでのキャッシュ・ノード 89
- 構成マネージャーでのコンポーネント・ノード 87
- 構成マネージャーでのセッション管理ノード 80
- 構成マネージャーでのトランスポート・ノード 90
- 構成マネージャーでのメンバー・サブシステム・ノード 78
- 構成マネージャーでのレジストリー・ノード 87
- 構成マネージャーのユーザー ID の要件 xxi
- 構成マネージャー・パスワードの変更 169

[サ行]

- 再インストール、WebSphere Commerce とそのコンポーネントの 179
- 最新の変更事項 vii
- 作成、複数の Commerce インスタンスの 123
- サポートされる Web ブラウザー x
- 実動鍵ファイル、現行ファイルとして設定 145
- 実動鍵ファイル、HTTP サーバー用に受け取る 145
- 実動鍵ファイル、HTTP サーバー用に作成 144
- 実動鍵ファイル、HTTP サーバー用にテストする 146
- 指定変更、デフォルトのインストール・パスの 29, 32, 34, 38
- 商品アドバイザー ix

商品アドバイザー (続き)
ポート番号、使用される xx
情報
印刷可能なドキュメンテーション
185
概要、このマニュアルの vii
規則、このマニュアルで使用する
vii
最新の変更事項 vii
使用、WebSphere Commerce オンライン・ヘルプの 185
デフォルトのインストール・パス
viii
Commerce の Web サイト vii
IBM HTTP Server のホーム・ページ 186
Microsoft Web サイト 5
Payment Manager readme 46
Payment Manager のホーム・ページ 186
README vii
WebSphere Application Server の
ホーム・ページ 187
WebSphere Commerce 185
WebSphere Commerce Web サイト
1
WebSphere Commerce のホーム・
ページ 186
所定稼働環境 189
セキュアな実動鍵ファイル、HTTP
サーバー用に受け取る 145
セキュアな実動鍵ファイル、HTTP
サーバー用に現行ファイルとして設
定 145
セキュアな実動鍵ファイル、HTTP
サーバー用に作成 144
セキュアな実動鍵ファイル、HTTP
サーバー用にテストする 146
セキュアな実動鍵ファイルの受け取
り 145
セキュアな実動鍵ファイルの作成
144
セキュアな実動鍵ファイルのテスト
146
セキュアな実動鍵ファイルを現行フ
ァイルとして設定 145

セキュアな証明書の要求 144
接続、IBM HTTP Server ホーム・ペ
ージへの 172
接続性、リモート Oracle インスト
ールでの確認 56
設定、IBM HTTP Server 管理者パス
ワードの 173
その他のインストール前提要件 8

[タ行]

データベース
DB2 ユニバーサル・データベー
ス ix
Oracle ix
データベース、リモート
確認、リモート Oracle インスト
ールの 56
Oracle の構成 55
データベース・ノード、構成マネー
ジャー 66, 73
停止
IBM HTTP Administrator 163
IBM HTTP Server 162
Microsoft IIS 161
Payment Manager 163, 166
Payment Manager
Engine、StopIBMPayServer の使
用 166
Payment Manager
Engine、WebSphere Application
Server の使用 167
WebSphere Application
Server 162
WebSphere Commerce インスタ
ンス 73
WebSphere Commerce サーバー
161
WebSphere Commerce のコンポー
ネント 161
ディスク・スペース所要量 5
デフォルトのインストール・パス
viii
トラブルシューティング
インストール 39
JSP にアクセスできない 184

トラブルシューティング (続き)
Web サーバー 183
WebSphere Application Server の
問題 182
WebSphere Commerce の応答が遅
い 184
WebSphere Commerce の問題
184
WebSphere Commerce ログ・ファ
イル 181

[ナ行]

認証局、SSL 証明書の 143, 144

[ハ行]

ハードコピー情報 185
複数の WebSphere Commerce イン
スタンス
仮想ホストの前提条件 123
仮想ホスト名の使用 123
仮想ホスト名を使用して開始
125
仮想ホストを使用して作成するス
テップ 124
作成 123
メモリー所要量 124
IBM HTTP Server の考慮事項
124, 126
プログラム仕様 189
ページング・スペース所要量 5
変更、SSL 鍵ファイル・パスワード
の 173
ポート番号、WebSphere Commerce
によって使用される xx
ポート・ホスト別名、WebSphere
Application Server への追加 172

[マ行]

まえがき vii
マニュアルの概要 vii
メッセージング・ノード、構成マネ
ージャー 71, 79
メモリー所要量 5

[ヤ行]

ユーザー ID とパスワード
構成マネージャー 64
構成マネージャーのユーザー ID xxi
IBM HTTP Server のユーザー ID xxi
Payment Manager 管理者の役割 xxii
Windows ユーザー ID xxi
要求、セキュアな証明書の要件 144
インスタンスの構成前 55
構成マネージャーのユーザー ID xxi
その他の要件 8
ソフトウェア 5
知識 3
ディスク・スペース 5
ハードウェア 4
ページング・スペース 5
メモリー 5
ルータス ノーツ 8
IBM HTTP Server のユーザー ID xxi
LAN アダプター 5
Payment Manager 管理者の役割 xxii
TCPIP プロトコル 5
WebSphere Application Server の開始、インスタンスの作成前 59
WebSphere Commerce のコンポーネントのインストール前 25
Windows NT Server バージョン 4.0 6
Windows ユーザー ID xxi, 8

[ラ行]

ライセンス・ユーザー管理ノード、構成マネージャー 91
ルータス ノーツ 8

ログ・システム・ノード、構成マネージャー 70, 89
ログ・ファイル
ログ・システム・ノード、構成マネージャー 89
createdb.log 181
populatedb.nl.log 181
populatedb.log 181
WASConfig.log 181
wasdb2.log ファイル 39, 40
wcsconfig.log 181
wcs.log 181
WebSphere Commerce の問題判別での使用 181
wssetup.log 39, 40

A

Apache.exe 183

B

BankServACH cassette ix
Blaze Innovator Runtime ix
Blaze Rules Server ix

C

Catalog Manager ix
Commerce Accelerator ix
Commerce の Web サイト vii
createdb.log 181
CyberCash Cassette
インストール 49
CyberCash cassette ix

D

DB2 ユニバーサル・データベース ix
データベース・ノード、構成マネージャー 66
ポート番号、使用される xx
Payment Manager の 44

DNS (ドメイン・ネーム・サーバー) 123
Domino Web サーバー ix
カスタム・オプションを使用したインストール 26, 28, 31, 37

E

Equifax 認証局 143, 145

H

httpd.conf 183
httpd.conf ファイルの VirtualHost セクション 126

I

IBM Developer's Kit Java, Technology Edition
デフォルトのインストール・パス viii
Payment Manager の要件 44
IBM HTTP Administrator、開始および停止 163
IBM HTTP Server ix
インストール 19
開始と停止 162
カスタム・オプションを使用したインストール 28, 31, 37
管理者パスワードの設定 173
始動できない 183
デフォルトのインストール・パス viii
複数インスタンスに関する考慮事項 124, 126
ポート番号、使用される xx
ホーム・ページ 186
ホーム・ページへの接続 172
SSL 鍵ファイル・パスワードの変更 173
SSL の使用可能化 143
IBM HTTP Server のユーザー ID の要件 xxi
IBM HTTP Server ホーム・ページ、接続 172

「IBM WS Admin Server」サービスの障害 182

Internet Connection Secure Server 145

Internet Explorer x

IP アドレス、複数インスタンスの 123

iPlanet Web サーバー

インストールと構成作業 20

インストールの完了 96, 109

開始と停止 161

カスタム・オプションを使用したインストール 26, 28, 31, 37

iPlanet Web サーバー Enterprise Edition 4.1.8 ix

J

JDBC

ドライバ、Payment Manager の 48

JSP にアクセスできない 184

L

LAN アダプター要件 5

LDAP (Lightweight Directory Access Protocol)

ポート番号、使用される xx

M

Macromedia LikeMinds クライアント ix

Microsoft IIS ix

N

Netscape Communicator x

Netscape Navigator x

nslookup IP コマンド 124

O

Oracle ix

開始と停止 161

カスタム・オプションを使用したインストール 26, 27, 28, 30, 31, 34, 36

グローバル・データベース名 55
知識、必要な 3

ポート番号、使用される xx

リモート・インストールの確認 56

リモート・インストールの構成 55

listener.ora ファイル 55

Payment Manager の 44

P

Payment Manager

アンインストール 179

インストール後のステップ 49

インストール前 46

インストール手順 47

インストールと構成作業 43

開始と停止 163

カセットのインストール 49

管理者の役割 xxii

前提条件、インストールの 43
ソフトウェア要件 44

停止 166

ノード、構成マネージャー 69, 77

ハードウェア要件 43

ポート番号、使用される xx

ホーム・ページ 186

リモート Payment Manager の構成 51

CyberCash Cassette のインストール 49

JDBC ドライバ 48

Payment Manager Engine の停止 166

Payment Manager ユーザー・インターフェースの開始 165

Payment Manager (続き)

PaymentServlet.properties ファイル 51

PMRealm.jar ファイル 51

PSDefaultRealm 51

RealmClass プロパティ 51

SET Cassette のインストール 49

StopIBMPayServer コマンド 166

WCShostName プロパティ 51

wcsprealm.jar ファイル 51

WCSRealm 51

WCSWebPath プロパティ 51

WebSphere Application Server を使用する Payment Manager Engine の停止 167

Payment Manager 管理者の役割 xxii

Payment Manager ノード、構成マネージャー 69, 77

Payment Manger Realm クラス 51

PaymentServlet.properties ファイル 51

PMRealm.jar ファイル 51

populatedbnl.log 181

populatedb.log 181

PSDefaultRealm 51

R

README ファイル vii

RealmClass プロパティ 51

S

Service Pack 6a 6

「service specific error 10 (サービス固有エラー 10)」メッセージ 182

SET ix

SET カセット

インストール 49

SSL (Secure Sockets Layer)

鍵ファイル・パスワードの変更 173

IBM HTTP Server のための使用可能化 143

SSL (Secure Sockets Layer) (続き)

IBM HTTP サーバーで使用可能にする

暗号化の概念 143

鍵管理ユーティリティ 145

セキュアな実動鍵ファイルの受け取り 145

セキュアな実動鍵ファイルの作成 144

セキュアな実動鍵ファイルのテスト 146

セキュアな実動鍵ファイルを現行ファイルとして設定 145

セキュリティの概要 143
要求、セキュアな証明書の 144

SSL の暗号化の概念 143

SSL のセキュリティの概要 143

StopIBMPayServer Payment Manager
コマンド 166

T

TCPIP プロトコル要件 5

tnsnames.ora、Oracle の 55

V

VeriSign 認証局 145

Verisign 認証局 143

VisaNet cassette ix

W

WASConfig.log 181

wasdb2.log ファイル 39, 40

wcsconfig.log 181

WCSHostName プロパティ 51

wcspmrealm.jar ファイル 51

WCSRealm 51

WCSWebPath プロパティ 51

wcs.log 181

Web サーバー

インストール 19

問題判別 183

Web サーバー (続き)

Domino Web サーバー ix

IBM HTTP Server ix

iPlanet Web サーバー Enterprise

Edition 4.1.8 ix

Microsoft IIS ix

Web サーバー・ノード、構成マネージャー 67

Web ブラウザー、サポートされる x

WebSphere Application Server

開始と停止 162

管理コンソール、WebSphere

Commerce インスタンスの開始と停止 73

管理コンソールのオープン 171
デフォルトのインストール・パス

viii

ポート番号、使用される xx

ポート・ホスト別名の追加 172

ホーム・ページ 187

メッセージング・ノード、構成マネージャー 71, 79

問題判別 182

Payment Manager のためのインストール 46

Payment Manager の要件 44

「service specific error 10 (サービス固有エラー 10)」メッセージ 182

WAS データベースの除去 179

WebSphere ノード、構成マネージャー 68

WebSphere Commerce

インストール、コンポーネントの 25

応答が遅い 184

開始と停止 161

カスタム・オプションを使用したインストール 26, 27, 30, 34, 36

管理用タスク 169

組み込まれている製品 ix

構成 53

構成オプション、拡張 121, 135

構成前 55

WebSphere Commerce (続き)

コンポーネントのアンインストール 177

コンポーネントの開始および停止 161

再インストール 179

作成と更新、インスタンスの 63
使用、オンライン・ヘルプの 185

情報源 185

デフォルトのインストール・パス viii

入手方法、印刷可能なドキュメンテーションの 185

プログラム仕様と所定稼働環境 189

ポート番号、使用される xx

ホーム・ページ 186

問題判別 184

Web サーバーを始動できない 183

WebSphere Commerce インスタンス
インスタンス・ノード、構成マネージャー 65, 77

オークション・ノード、構成マネージャー 72, 88

開始と停止 73

更新 170

構成前 55

構成マネージャーでの Commerce
アクセラレーター・ノード 88

構成マネージャーでの Web サー
バー・ノード 75

構成マネージャーでのインスタン
ス・プロパティ・ノード 73

構成マネージャーでのキャッシュ
・ノード 89

構成マネージャーでのコンポーネ
ント・ノード 87

構成マネージャーでのストア・サ
ービス・ノードの構成 89

構成マネージャーでのセッション
管理ノード 80

構成マネージャーでのトランスポ
ート・ノード 90

WebSphere Commerce インスタンス

(続き)

構成マネージャーでのメンバー・サブシステム・ノード 78

構成マネージャーでのレジストリー・ノード 87

作成

仮想ホスト名を使用して複数
を 124

複数の開始 125

メモリー所要量 124

IBM HTTP Server の考慮事項
124, 126

作成ウィザード 65

作成と更新 63

データベース・ノード、構成マネージャー 66, 73

メッセージング・ノード、構成マネージャー 71, 79

ライセンス・ユーザー管理ノード、構成マネージャー 91

ログ・システム・ノード、構成マネージャー 70, 89

Payment Manager ノード、構成マネージャー 69, 77

Web サーバー・ノード、構成マネージャー 67

WebSphere ノード、構成マネージャー 68, 75

WebSphere ノード、構成マネージャー 68, 75

Windows NT Server バージョン
4.0 6

Windows ユーザー ID 8

Windows ユーザー ID の要件 xxi

wssetup.log ファイル 39, 40



Printed in Japan

日本アイ・ビー・エム株式会社
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12